

取扱説明書

近赤外分析計 ProxiMate™



発行者

製品情報：

取扱説明書（オリジナル）近赤外分析計 ProxiMate™
11593985

発行日：10.2025

バージョン J

BÜCHI Labortechnik AG

Meierseggstrasse 40

CH-9230 Flawil

電子メール：quality@buchi.com

BUCHI は、経験に基づいて必要と見なした場合に、本書の内容（特に構成、イラスト、技術的詳細）を変更する権利を有します。

本書は著作権で保護されています。本書の情報の複製、配布、競合目的の使用、第三者への提供を禁じます。また、事前の書面による同意なしに、本書を利用したいかなる部品の製造も禁じます。

目次

1	本書について	8
1.1	本書中の警告表示について.....	8
1.2	シンボル.....	8
1.2.1	警告シンボル.....	8
1.2.2	マークアップと記号.....	8
1.3	商標.....	9
2	安全性	10
2.1	適正使用.....	10
2.2	目的以外での使用.....	10
2.3	スタッフの資格.....	10
2.4	潜在的リスク.....	11
2.4.1	ガラスおよびアクリルの破損.....	11
2.4.2	操作中の故障.....	11
2.4.3	IPモジュールが正しく取り付けられていないことによる装置の破損.....	11
2.4.4	他のデバイスまたはネットワークとの接続によるマルウェア感染.....	11
2.4.5	データの損失.....	11
2.4.6	本機の不適切なシャットダウンによる内部メモリの破損.....	11
2.5	個人用保護具.....	11
2.6	変更内容.....	11
3	製品説明	12
3.1	機能の説明.....	12
3.2	測定オプション.....	12
3.2.1	下面照射オプション.....	12
3.2.2	上面照射オプション.....	12
3.3	測定モード.....	13
3.3.1	拡散反射モード.....	13
3.3.2	透過反射モード.....	13
3.4	構成.....	14
3.4.1	前面図.....	14
3.4.2	背面図.....	15
3.4.3	接続部（IPモジュールを取り外した状態）.....	16
3.4.4	銘板の位置.....	17
3.5	納入品目.....	17
3.6	銘板.....	17
3.7	仕様.....	18
3.7.1	近赤外分析計 ProxiMate™.....	18
3.7.2	設置環境.....	19
3.7.3	材質.....	19
4	運搬と保管	20
4.1	運搬.....	20
4.2	保管.....	20
4.3	本機の持ち上げ.....	20

5	設置	21
5.1	設置前.....	21
5.2	設置場所.....	21
5.3	地震に備えた固定.....	21
5.4	電気接続の確立.....	22
5.5	USBデバイスの取り付け.....	22
5.6	ソフトウェア設定.....	23
5.6.1	ソフトウェアまたはアプリケーションのライセンスの申請.....	23
5.6.2	ライセンスのインポート.....	24
5.6.3	ベースライン補正ベクトル (BCV) の校正.....	25
5.6.4	標準化された基準データのインポート.....	28
5.6.5	ソフトウェアの言語の変更.....	29
5.6.6	順番フィールドと注記フィールドのラベルを変更.....	29
5.6.7	機器の測定ワークフローを変更.....	30
5.6.8	順番ボタンの設定を調整.....	30
5.6.9	履歴メニューの時刻および日付形式を調整.....	30
5.6.10	履歴メニューに表示されるサンプルの最大数を編集.....	31
5.6.11	CSV形式のオプションを変更.....	31
5.6.12	XML形式のオプションを変更.....	32
5.6.13	JCAMP形式のオプションを変更.....	33
5.6.14	ログエントリの削除サンプル数を調整.....	34

6	操作	35
6.1	コントロールパネルのレイアウト.....	35
6.2	機能バー.....	35
6.3	メニューバー.....	36
6.3.1	開始メニュー.....	38
6.3.2	履歴メニュー.....	42
6.3.3	アプリケーションメニュー.....	47
6.3.4	ツールメニュー.....	48
6.4	ステータスバー.....	50
6.5	管理者モードへのログイン.....	50
6.6	アプリケーションの編集.....	51
6.6.1	新しいアプリケーションの作成.....	51
6.6.2	アプリケーションの別名の変更.....	52
6.6.3	アプリケーションの照射モードの変更.....	53
6.6.4	アプリケーションの測定モードの変更.....	53
6.6.5	アプリケーションの測定オプションの変更.....	54
6.6.6	アプリケーションの説明の入力.....	55
6.6.7	アプリケーションの回転設定の変更.....	55
6.6.8	アプリケーションの測定時間の変更.....	56
6.6.9	アプリケーションの標準操作手順 (SOP) の入力.....	56
6.6.10	アプリケーションの選択可否の変更.....	57
6.7	アプリケーションの削除.....	58
6.8	プロパティの編集.....	58
6.8.1	新しいプロパティの作成.....	59
6.8.2	プロパティの名前の変更.....	59
6.8.3	プロパティの別名の変更.....	60
6.8.4	プロパティの表示順の変更.....	60
6.8.5	プロパティの予測内容の変更.....	61
6.8.6	初期波長範囲の変更 (検量線モデルのみ).....	64
6.8.7	予測内容の変更 (検量線モデルのみ).....	64
6.8.8	検量線使用値の変更 (検量線モデルのみ).....	65
6.8.9	換算表示値の変更 (検量線モデルのみ).....	66
6.8.10	計算式の変更 (計算項目値のみ).....	67
6.8.11	標準観察者の変更 (色のみ).....	67
6.8.12	標準イルミナントの変更 (色のみ).....	68
6.8.13	表色系の変更 (色のみ).....	68
6.8.14	属性の変更 (色のみ).....	69
6.8.15	プロパティの小数位の変更.....	70
6.8.16	プロパティの単位の変更.....	70
6.8.17	プロパティのバイアスの変更.....	71
6.8.18	プロパティの傾きの変更.....	71
6.8.19	プロパティのマハラノビスの変更 (検量線モデルのみ).....	72
6.8.20	プロパティの目標値の変更.....	72
6.8.21	プロパティの最大上限の変更.....	73
6.8.22	プロパティの最小下限の変更.....	73
6.8.23	プロパティの最大許容値の変更.....	74
6.8.24	プロパティの最小許容値の変更.....	74

6.9	プロパティの削除.....	75
6.10	測定の実行.....	76
6.10.1	装置の準備.....	76
6.10.2	測定の開始.....	76
6.10.3	測定の終了.....	77
6.10.4	測定結果.....	77
6.10.5	装置のシャットダウン.....	78
6.11	メタデータフィールドの値の編集（サンプルID、順番、注記）.....	78
6.12	参照値の入力.....	79
6.12.1	Excelテンプレートでの手分析値のインポート.....	79
6.13	検量線モデルを作成または更新するAutoCalの実行.....	80
6.13.1	検量線要約を開く統計情報の確認.....	81
6.14	インポートとエクスポート.....	82
6.14.1	測定データのエクスポート.....	82
6.14.2	アプリケーションデータのインポート.....	85
6.14.3	アプリケーションデータのエクスポート.....	85
6.15	レポートの作成.....	86
6.15.1	単一サンプルのレポート作成.....	86
6.15.2	同じアプリケーションの複数サンプルのレポート作成.....	86
6.15.3	同じアプリケーションのサンプルすべてのレポート作成.....	87
6.15.4	作成したデータファイルへのアクセス.....	88
7	クリーニングと保守作業.....	90
7.1	定期保守作業.....	90
7.2	ランプの交換.....	91
7.2.1	上面照射ランプの交換.....	91
7.2.2	下面照射ランプの交換.....	94
7.2.3	ランプ交換の確認.....	97
7.3	乾燥剤カートリッジの点検.....	98
7.4	乾燥剤カートリッジの交換.....	100
7.5	システム試験の実行.....	101
7.5.1	ベースライン補正ベクトル試験の実行.....	101
7.5.2	包括的なシステム試験の実行.....	102
7.5.3	高度なシステム試験の実行.....	102
7.6	データのバックアップの実行.....	102
7.7	データバックアップの復元.....	103
7.7.1	ツールメニューを使用.....	103
7.7.2	ショートカットを使用.....	103
7.8	データベースのクリーンアップ.....	104
7.8.1	パーセントで選択.....	104
7.8.2	期間で選択.....	104
7.9	ディスプレイの清掃.....	104
8	故障かな？と思ったら.....	106
8.1	トラブルシューティング.....	106
8.2	エラーメッセージ.....	106

9	使用中止と廃棄.....	108
9.1	使用中止	108
9.2	廃棄.....	108
9.3	装置の返却	108
10	付録.....	109
10.1	測定結果	109
10.2	ファイルの説明とフォルダの場所.....	109
10.3	計算式入力ルール	110
10.4	スペアパーツとアクセサリー	111
	10.4.1 アクセサリー	111
	10.4.2 スペアパーツ	113

1 本書について

本取扱説明書は、本装置のすべてのバリエーションに適用されます。操作を開始する前に本取扱説明書をよく読み、書かれている指示に従って安全性を確保してください。

本取扱説明書は、後日の使用に備えて保管し、後続のユーザーまたは所有者に引き継いでください。

本取扱説明書に従わなかったために発生した損害、故障、不具合については、BÜCHI Labortechnik AGは一切の責任を負いません。

本取扱説明書に関してご不明な点がありましたら、

▶ BÜCHI Labortechnik AGカスタマーサービスまでお問い合わせください。

<https://www.buchi.com/contact>

1.1 本書中の警告表示について

警告表示は、装置を取り扱う際に発生し得る危険を警告するためのものです。危険度には4段階あり、シグナルワードを使用して識別されます。

シグナルワード	意味
危険	予防措置を講じない場合、死亡または重傷をもたらす可能性のある高レベルの危険が生じる内容を示します。
警告	予防措置を講じない場合、死亡または重傷をもたらす可能性のある中レベルの危険が生じる内容を示します。
注意	予防措置を講じない場合、軽傷または中程度の傷害をもたらす可能性のある低レベルの危険が生じる内容を示します。
通知	物的損害が発生する可能性のある危険性の存在を示します。

1.2 シンボル

この取扱説明書および本機には、以下のシンボルが表示されています。

1.2.1 警告シンボル

記号	意味
	一般的な注意事項
	壊れやすいもの
	高温表面
	感電
	装置の損傷

1.2.2 マークアップと記号



備考

この記号は、有用で重要な情報に注意を喚起します。

☑ この文字は、それに続く指示を実行する前に満たさなければならない条件に注意喚起します。

▶ この文字は、ユーザーが実行すべき指示を示します。

⇒ この文字は、正常に実行された命令の結果を示します。

マークアップ	説明
ウィンドウ	ソフトウェアウィンドウはこのようにマークアップされています。
タブ	タブはこのようにマークアップされています。
ダイアログ	ダイアログはこのようにマークアップされています。
[ボタン]	ボタンはこのようにマークアップされています。
[フィールド名]	フィールド名はこのようにマークアップされています。
[メニュー／メニュー項目]	メニューまたはメニュー項目はこのようにマークアップされています。
ステータス	ステータスはこのようにマークアップされています。
シグナル	シグナルはこのようにマークアップされています。

1.3 商標

本書中の製品名および登録・非登録商標は、それぞれ該当する所有者に帰属し、本書では識別目的にのみ使用します。

2 安全性

2.1 適正使用

本機は実験室および生産環境（アットライン）用として設計・製造されています。サンプルに含まれる特定の成分の分析に使用されます。

本機は以下のタスクに使用できます。

- 定量化可能な測定項目の測定

2.2 目的以外での使用

2.1章「適正使用」、10ページに記載されている以外での使用、および技術仕様（3.7章「仕様」、18ページを参照）に準拠しない用途は、使用目的以外での使用とみなされます。特に、以下の用途は許可されていません。

- 防爆機器を必要とする部屋での機器の使用。
- 衝撃、摩擦、熱、火花により爆発または発火する可能性のあるサンプル（爆発物など）の使用。
- 機器を操作する人にとって危険または有害なサンプルの使用。

製造元は、以下の原因による不正確な測定については一切責任を負いません。

- ソフトウェアまたはハードウェアの故障
- 誤った使用方法またはユーザーエラー
- 第三者による不正アクセス

このような誤用は保証または責任の対象外となります。

2.3 スタッフの資格

資格を持たないスタッフはリスクを特定できないため、より大きな危険に晒されます。本装置の操作は、適切な資格を有する検査室スタッフのみが行ってください。本書は、以下のグループを対象としています。

ユーザー

ユーザーとは、以下の条件を満たす人を指します。

- 装置の操作手順を習得している。
- 本書の内容および該当する安全法規を熟知し、適用できる。
- トレーニングまたは専門的な経験に基づいて、装置の使用に関連するリスクを評価できる。

オペレーター

オペレーター（一般的には検査室マネージャー）は、以下の項目について責任を負います。

- 本装置の設置、試運転、操作、保守が正しく実施されていること。
- 適切な資格を持つスタッフのみを本書に記載されている作業に割り当てること。
- スタッフが、安全性および危険予防に配慮した作業方法について現地の適用法令を遵守すること。
- 装置の使用中に安全性に関わるインシデントが発生した場合、製造元（quality@buchi.com）に報告すること。

BUCHIサービス技術者

BÜCHI Labortechnik AGは、特別なトレーニングコースを受講し、ビュッチの認定を受けたサービス技術者のみに特別な保守点検・修理手順の実施を許可しています。

2.4 潜在的リスク

本装置は、最新の技術を用いて開発・製造された装置です。しかし誤った使い方をすると、人体、設備、環境に危害をもたらす危険性があります。

本取扱説明書には、そのような潜在的リスクについて適切な警告が記載されています。

2.4.1 ガラスおよびアクリルの破損

ガラスやアクリルの破片で重大な切り傷を負うことがあります。

ガラスやアクリルの破片が生産物に入り込むことがあります。

- ▶ ペトリ皿やその他のガラスおよびアクリル部品は慎重に扱い、落とさないようにしてください。
- ▶ ガラスおよびアクリル部品を使用するときには、毎回、損傷がないか目視検査してください。
- ▶ 損傷があるガラスおよびアクリル部品は、ただちに使用を中止してください。
- ▶ 破損したガラスおよびアクリルを処分するときには、必ず保護手袋を着用してください。

2.4.2 操作中の故障

装置が破損した場合、鋭利な端部やむき出しになった電線によって負傷することがあります。

- ▶ 目に見える破損がないか、定期的に装置を点検してください。
- ▶ 故障が発生した場合は、すぐに装置の電源を切って、オペレーターに通知してください。
- ▶ 損傷がある装置は、ただちに使用を中止してください。

2.4.3 IPモジュールが正しく取り付けられていないことによる装置の破損

IPモジュールが正しく取り付けられていないと、材料や水が本機に浸入することがあります。

- ▶ IPモジュールを開かないでください。
- ▶ 使用しないときには、USBソケットにカバーをしてください。

2.4.4 他のデバイスまたはネットワークとの接続によるマルウェア感染

他の装置やネットワークに接続すると、装置がマルウェアに感染する可能性があります。

- ▶ 他の装置やネットワークに接続する前に、ウイルス対策ソフトウェアおよびファイアウォールをインストールしてください。

2.4.5 データの損失

落雷や停電などによる電源障害が発生した場合、測定データが失われることがあります。

- ▶ 定期的にデータのバックアップを実行してください。

2.4.6 本機の不適切なシャットダウンによる内部メモリの破損

本機を正しくシャットダウンしないと、内部メモリが破損することがあります。

- ▶ 説明に従って本機をシャットダウンしてください。操作を参照してください。

2.5 個人用保護具

用途によっては、発熱性または腐食性を持つ化学物質による危険があります。

- ▶ 安全ゴーグル、保護服、手袋などの適切な個人用保護具を必ず着用してください。
- ▶ 個人用保護具が、使用するすべての化学物質の安全データシートに記載されている要件を満たすものであることを確認してください。

2.6 変更内容

許可されていない変更を行うと、安全性が損なわれ、事故につながる恐れがあります。

- ▶ 必ず純正のアクセサリ、スペアパーツ、および消耗品を使用してください。
- ▶ 技術的な変更を実施する場合は、事前にビュッヒから書面による許可を得てください。
- ▶ 変更は、ビュッヒサービス技術者のみが行うことができます。

ビュッヒは、許可されない変更が原因で生じた損傷、故障、および誤作動に対して、一切の責任を負いません。

3 製品説明

3.1 機能の説明

近赤外分析計 ProxiMate™はNIR分光計であり、食品および飼料サンプルのさまざまな成分の濃度を非破壊で測定できます。

近赤外分析計 ProxiMate™には、さまざまなバージョンがあります。指定されたバージョンに応じて、近赤外分析計 ProxiMate™はNIR分光計、またはNIRと可視光を組み合わせた分光計に構成できます。

本機は、測定サンプルに焦点を合わせたNIRと可視光のビームを生成します。サンプルからの反射光が収集され、回折格子によって各波長に分離されます。回折光はダイオードアレイ検出器に向けられます。検出器からの信号が処理されて、反射スペクトルになります。このスペクトルをさらに処理して、必要な成分を計算します。

データ処理

NIR光はサンプル物質とさまざまな相互作用をおこし、特徴的なフィンガープリントをスペクトルに残します。液体と固体の両方のスペクトルを近赤外分析計 ProxiMate™で測定できます。固体サンプルのスペクトルは直接収集されますが、液体サンプルの場合は、透過反射アダプターを使用する必要があります。

アプリケーション

アプリケーションは、特定のサンプルタイプの測定に関連するすべてのパラメータを定義します。

これには、以下が含まれます。

- 測定項目
- 使用する検量線モデル
- 標準操作手順

すべてのアプリケーションデータを含んでいるファイルをインポートまたはエクスポートして、同じアプリケーションを2台目の近赤外分析計 ProxiMate™で使用することができます（検量線モデルのライセンス要件によります）。

3.2 測定オプション

近赤外分析計 ProxiMate™の測定オプションの選択は、分析するサンプルのタイプと本機が使用される作業環境に応じて最適化されます。

近赤外分析計 ProxiMate™は、下面照射と上面照射設定のいずれかのサンプルプレゼンテーションオプションで設定できます。



備考

下面照射と上面照射オプションの利点を1台の装置で活用できます。

3.2.1 下面照射オプション

下面照射オプションでは、サンプルの下から光を当てて収集します。NIR光はガラスのペトリ皿の底を通過して、評価対象のサンプルと相互作用します。下面照射測定では、近赤外分析計 ProxiMate™に対して、より一貫した測定面が確保されるため、正確な測定結果が得られるという利点があります。最高のパフォーマンスを可能にするには、ガラスのペトリ皿が推奨されます。また、透過反射アダプターと組み合わせて使用すると、下面照射で液体を測定することも可能です。



備考

再現性の高い測定または液体の測定のためには、下面照射オプションを選んでください。

3.2.2 上面照射オプション

上面照射オプションでは、光はサンプルの上面から当てられ、収集されます。ガラスが禁止されている環境（一部の食品生産分野など）では、上面照射モードには、NIR光がサンプルの容器と相互作用しないという利点があります。プラスチックは独自のNIRスペクトルを持つため、容器の種類の変化が測定結果に影響して、測定のずれに気づくことがあります。上面照射

モードを使用することで、これを防ぐことができます。また、近赤外分析計 ProxiMate™の上面照射では、大容量のサンプル容器を使用することもできます。これは、より大きなサンプル面積にわたって測定値が平均化されるため不均質なサンプルで特に便利です。



備考

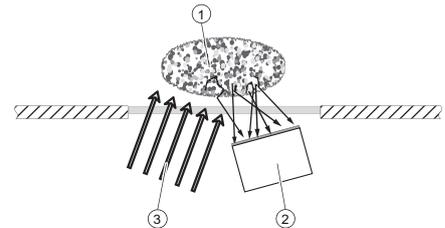
ガラスが禁止されている環境や、大量のサンプルによる平均化が必要な場合には、上面照射オプションを選んでください。

3.3 測定モード

3.3.1 拡散反射モード

非透過性材料は拡散反射を用いて解析できます。

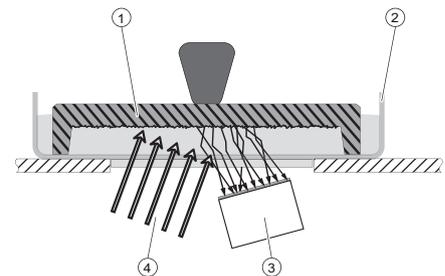
近赤外光の透過はサンプルの材質による制限を受け、サンプルに反応し、屈折してセンサーに拡散反射します。そうした反射光にはそのサンプルの分光情報が含まれています。



- ① サンプル
- ② センサー
- ③ ライト

3.3.2 透過反射モード

半透明および不透明な液体は、透過反射モードで分析できます。光は液体を透過し、反射板によって拡散反射され、もう一度サンプルを通過します。透過反射光にはサンプルのスペクトル情報が含まれます。



- ① 透過反射カバー
- ② サンプルカップ
- ③ センサー
- ④ 光

3.4 構成

3.4.1 前面図

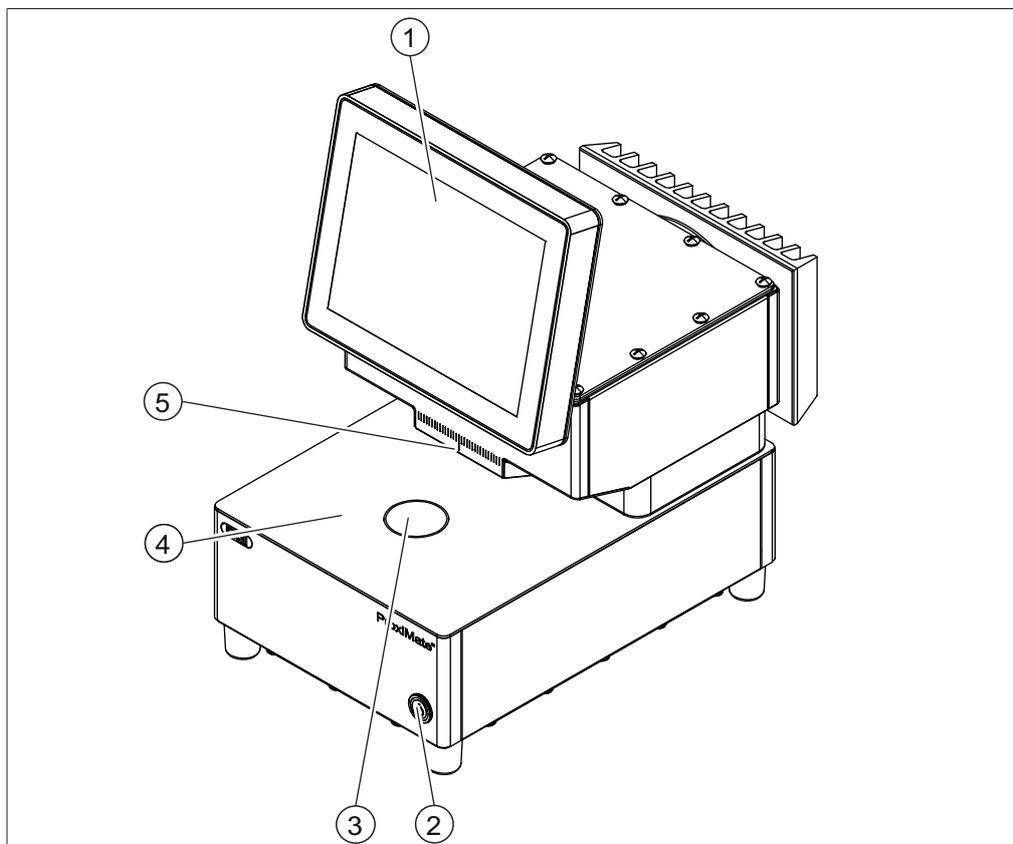


図 1: 前面図

- | | | | |
|---|-----------|---|------------|
| 1 | コントロールパネル | 2 | 電源スイッチ |
| 3 | 下面照射ウィンドウ | 4 | 測定オプションエリア |
| 5 | 上面照射ウィンドウ | | |



備考

本機は定置式として設計されているため、電源プラグを備えていません。

On/Offマスタースイッチによって電源供給は中断されません。

▶ 5.4章「電気接続の確立」、22ページを参照。

主電源スイッチのステータス

ステータス	説明
消灯	機器の電源が入っていません。
点灯	機器の電源が入っています
点滅	機器がシャットダウンしています

3.4.2 背面図

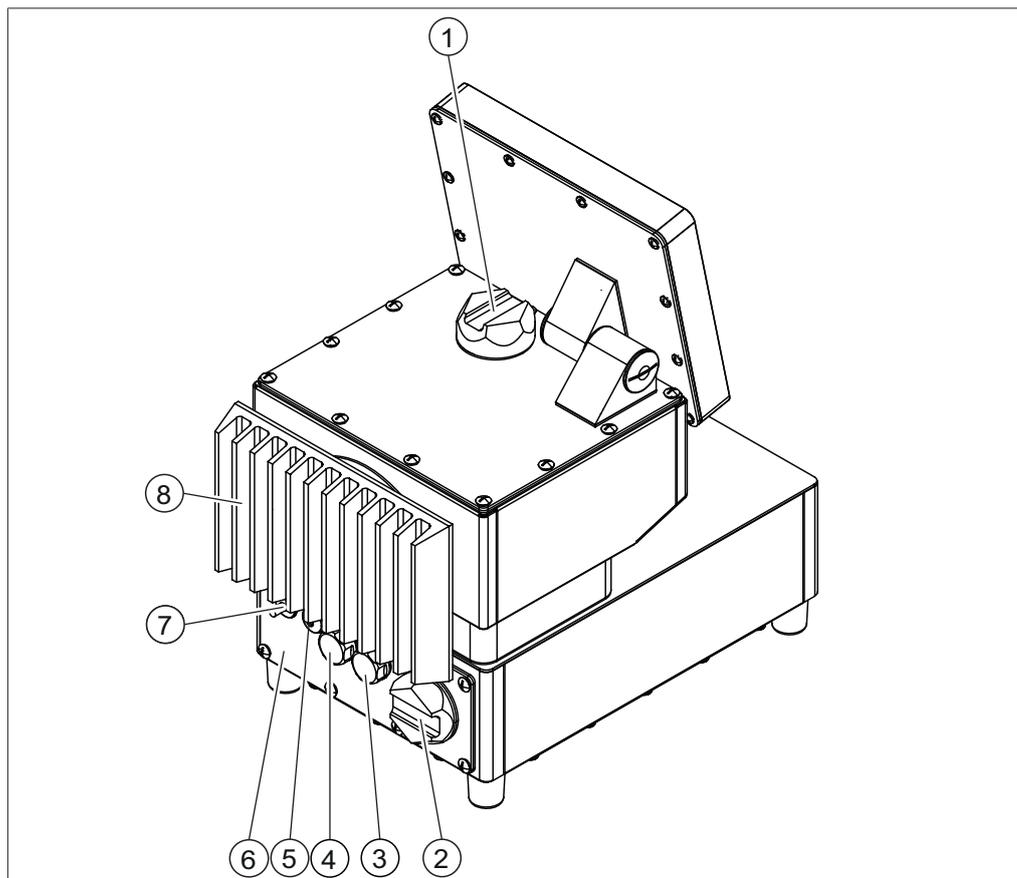


図 2: 背面図 (アドバンスドIPモジュール搭載時)

- | | | | |
|---|--------------------|---|---------------|
| 1 | 上面照射ランプカバー蓋 | 2 | 乾燥剤カートリッジカバー蓋 |
| 3 | USBソケット | 4 | USBソケット |
| 5 | ネットワーク接続用ケーブルグラウンド | 6 | アドバンスドIPモジュール |
| 7 | 電源用ケーブルグラウンド | 8 | クーラー |

本機の接続部はアドバンスドIPモジュールの裏にあります。3.4.3章「接続部 (IPモジュールを取り外した状態)」、16ページを参照。

3.4.3 接続部 (IPモジュールを取り外した状態)

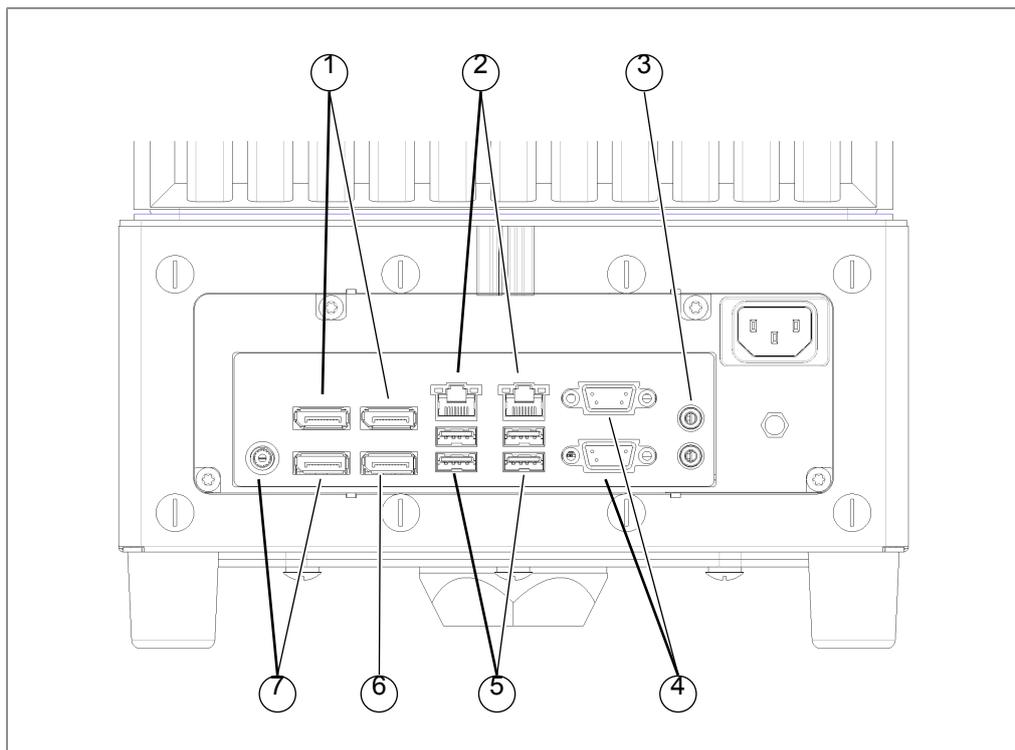


図 3: 背面の接続部

- | | | | |
|---|--------|---|-----------|
| 1 | 使用不可 | 2 | ネットワーク |
| 3 | オーディオ | 4 | 無効 |
| 5 | USBポート | 6 | ディスプレイポート |
| 7 | 使用なし | | |

3.4.4 銘板の位置

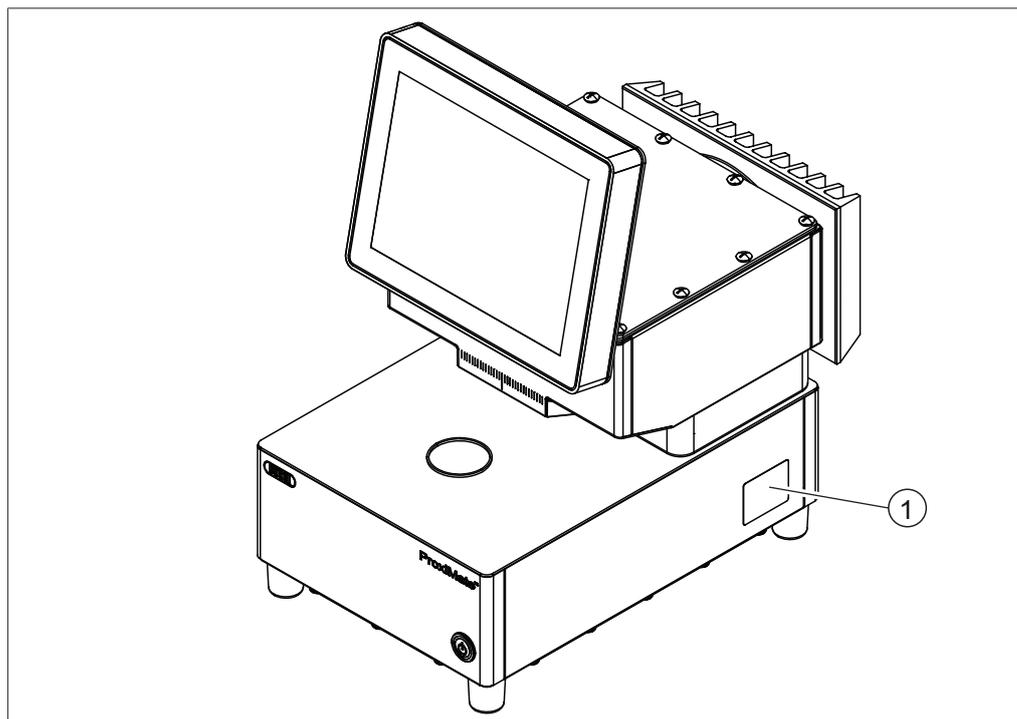


図 4: 銘板の位置

1 銘板

3.5 納入品目



備考

納入品目は、発注書に記載されている構成に基づきます。

付属品は、発注書、注文確認書、および納品書の記載に従って納入されます。

3.6 銘板

銘板には本機の識別情報が記載されています。銘板は本機の側面にあります。3.4.4章「銘板の位置」、17ページを参照。

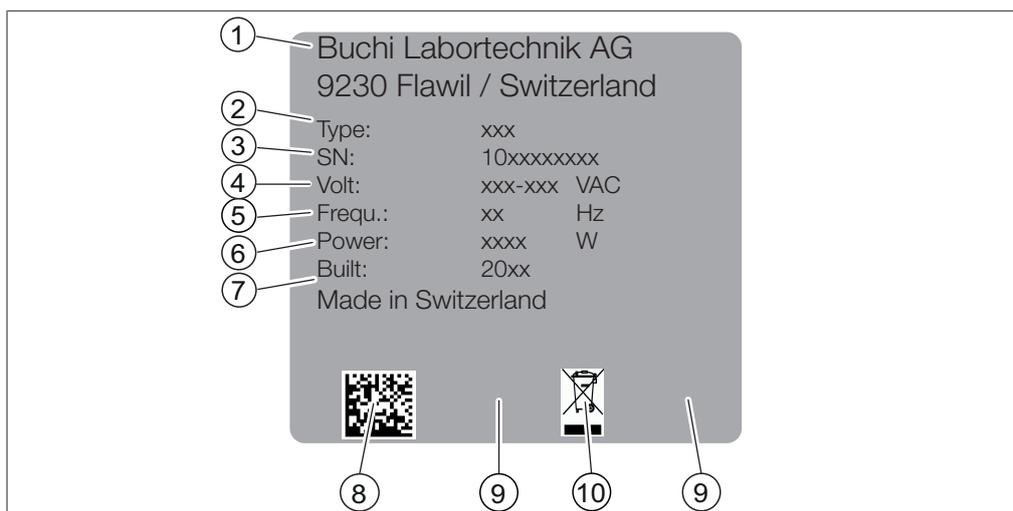


図 5: 銘板

- | | | | |
|---|--------|----|-----------------------|
| 1 | 会社名と住所 | 2 | 機器名称 |
| 3 | シリアル番号 | 4 | 入力電圧範囲 |
| 5 | 周波数 | 6 | 最大消費電力 |
| 7 | 製造年 | 8 | 製品コード |
| 9 | 認可 | 10 | 「家庭ごみとして処分しないこと」のシンボル |

3.7 仕様

3.7.1 近赤外分析計 ProxiMate™

仕様	近赤外分析計 ProxiMate™
寸法 (W x D x H)	260 x 435 x 500 mm
重量	23 kg
消費電力	60 W
周波数	50 / 60 Hz
電源電圧	100 - 240 VAC ±10 %
すべてのUSBポートの最大出力	5 W
IPコード	IP69
過電圧カテゴリー	II
汚染度	2
感電保護クラス	I
検出器NIR	熱電冷却InGaAs
検出器VIS	Si
NIR波長範囲	900 - 1700 nm
NIR分解能	7.0 nm
NIRデータ分解能	3.1 nm
VIS波長範囲	400 - 900 nm
VIS分解能	15 nmより良好
VISデータ分解能	2 nm
下面照射照明スポットサイズ	8 mm
上面照射照明スポットサイズ	30 mm
認可	CE / CSA
ランプタイプ	タングステンハロゲン

仕様	近赤外分析計 ProxiMate™
平均寿命 (ランプ)	7000時間
ディスプレイ	10.4インチ

3.7.2 設置環境

屋内使用のみ。

最高海拔	2000 m
周囲温度	5 - 40°C (25°C)
最大相対湿度	温度31°Cまでは80% 40°Cで相対湿度50%まで直線的に低下
保管温度	最高45°C

3.7.3 材質

部品	材質
ハウジング	ステンレス1.4301
ハウジングシール	EPDM 50
ハウジング	アルミニウムコーティング
ハウジングシール	EPDM 70
下面照射ガラス	サファイアAl2O3
上面照射ガラス	Borofloat
ガラスシール	EPDM A 75
クーラー	アルミニウムコーティング EPOFLON 526/4562
フレームクーラーシーリング	HD-PE
クーラーシール	EPDM
ディスプレイ	ガラス
ディスプレイフレーム	ステンレス1.4301
ディスプレイシール	1K MS-Polymer Körapop 225
ワイヤーモジュールシール	FKM
USB/Wi-Fiハウジング	ステンレス1.4301
USB/Wi-Fiカバー	PE-HD
USB/Wi-Fiシール	シリコン

4 運搬と保管

4.1 運搬



注意事項

不適切な運搬による破損の危険性

- ▶ 装置が完全に分解されていることを確認してください。
- ▶ 装置の各部品は破損を防ぐために適切に梱包してください。可能であれば工場出荷時の梱包材を使用してください。
- ▶ 輸送時には急激な動きを避けてください。

- ▶ 輸送後、装置およびすべてのガラス部品に損傷がないことを確認してください。
- ▶ 輸送中に損傷が発生した場合、輸送業者に報告してください。
- ▶ 梱包材は将来の輸送のために保管してください。

4.2 保管

- ▶ 環境条件が守られていることを確認してください（3.7章「仕様」、18ページを参照）。
- ▶ 装置は、なるべく純正梱包材の中に保管してください。
- ▶ 保管終了後、装置に損傷がないかを点検し、必要に応じて交換してください。

4.3 本機の持ち上げ



警告

不適切に運搬した場合の危険性

圧挫傷、切り傷、破損などが考えられます。

- ▶ 本装置は必ず2人で運搬してください。
- ▶ 装置を持ち上げる際には、指定された箇所を保持してください。

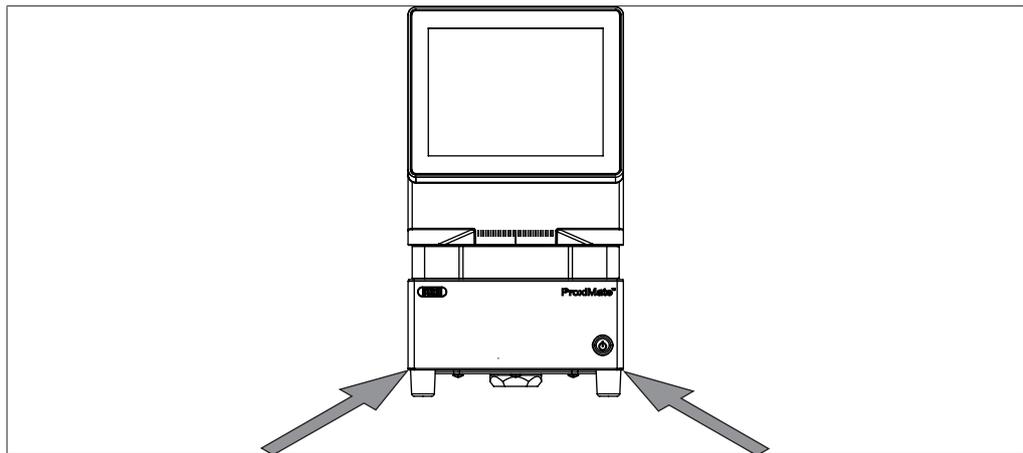


図 6: 本機の持ち上げ

- ▶ 本機を持ち上げるには、2名の作業者のそれぞれが、本機の底面に示されている位置を持ち上げる必要があります。

5 設置

5.1 設置前



注意事項

スイッチを入れるのが早すぎることによる本機の損傷。

運搬後、本機のスイッチを入れるのが早すぎると、損傷することがあります。

▶ 運搬後は、本機を周囲温度になじませてください。

5.2 設置場所

設置場所は、以下の要件を満たしている必要があります。

- 水平で振動のない硬い表面。
- 最小スペース要件：260 mm x 435 mm x 500 mm (W x D x H)。
- 製品の最大寸法および重量を考慮してください。
- 本機を直射日光などの過度な温度負荷にさらさないでください。



備考

緊急時には、電源コードを抜いてください。

5.3 地震に備えた固定

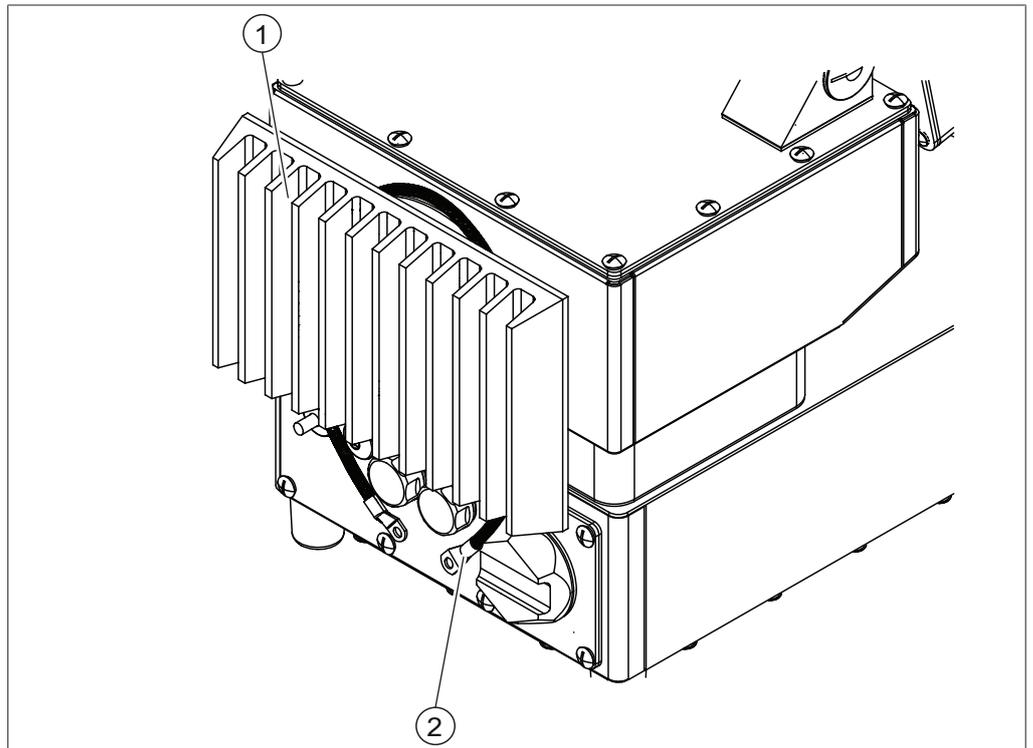


図 7: 地震に備えた固定

1 クーラー

2 コード

▶ コードをクーラーの周囲に巻いて、固定点に取り付けます。

5.4 電気接続の確立



警告

電流による死亡または重度の火傷。

- ▶ 設置作業は、電気技師または同様の専門知識を持つ人に依頼してください。
- ▶ 設置後、電気的安全性をチェックしてください。

本装置は据置型として設計されています。

条件:

- 電氣的仕様は技術データに記載されています。3.7章「仕様」、18ページ（技術データ）を参照してください。
- 設置場所は技術データに指定されています。3.7章「仕様」、18ページ（技術データ）を参照してください。
- ▶ 設置は、電気工事の専門職またはそれに準ずる専門知識を有する人が行ってください。
- ▶ 説明書に従って設置を行ってください。「*Guide for electrical installation*（電気設備工事ガイド）」を参照してください。

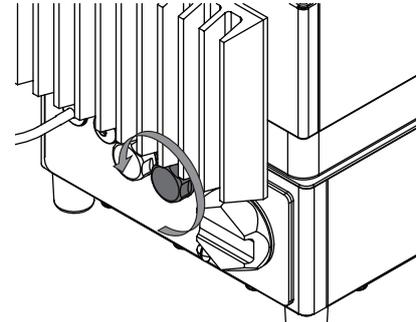
5.5 USBデバイスの取り付け



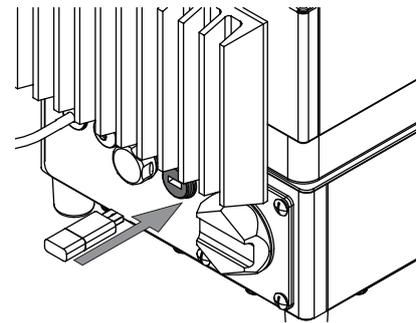
備考

USBソケットがカバー蓋または保護カバーでカバーされていることを確認してください。

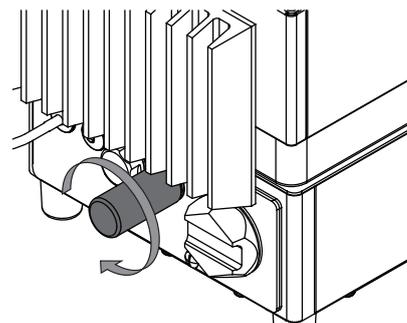
- ▶ USBソケットのカバー蓋の1つを開きます。



- ▶ USBデバイスをUSBソケットに接続します。



- ▶ 保護カバーを取り付けます。



5.6 ソフトウェア設定

5.6.1 ソフトウェアまたはアプリケーションのライセンスの申請

ライセンスの申請には、以下のデータが必要です。

- 製品名
- 製品番号（ソフトウェアまたはアプリケーションの品番）
- シリアル番号（クイックガイド表紙のソフトウェアライセンスのシリアル番号／ステッカーまたは装置のシリアル番号）
- 会社名
- 名
- 姓
- シリアル番号
- 国
- 電子メールアドレス

ナビゲーションパス

→  → [ライセンスリクエスト]

条件:

ソフトウェアは管理者モードになっています。

▶ [ライセンスリクエスト]ボタンをタップします。

⇒ 画面に、ライセンス申請メニューを含んだダイアログボックスが表示されます。

License Request

Article Name	Host ID
<input type="text"/>	<input type="text" value="4C52620FA588"/>
Article No.	Serial Number
<input type="text"/>	<input type="text"/>
Company Name	Country
<input type="text"/>	<input type="text"/>
First & Last Name	E-Mail
<input type="text"/>	<input type="text"/>

Create

Cancel

- ▶ **[編集]**ボタンをタップします。
- ⇒ ディスプレイに、英数字入力ボックスを含んだダイアログが表示されます。
- ▶ 必須情報を入力します。
- ▶ **[作成]**をタップしてライセンス申請ファイルを保存します。
- ⇒ ディスプレイに、ライセンス申請ファイルの確認とその場所を含んだダイアログが表示されます。
- ▶ **[OK]**で確認します。
- ▶ その場所を開き、ライセンス申請ファイルをUSBスティックまたは同様のものに保存します。
- ▶ registration@buchi.comにライセンス申請ファイルと簡単な説明を送信します。
- ⇒ 折り返してライセンスファイルが届きます。

5.6.2 ライセンスのインポート

ナビゲーションパス

→  → **[ライセンスのインポート]**

条件:

- ソフトウェアは管理者モードになっています。
- 有効な（正しいシリアル番号と日付）ライセンスファイルを使用できます。
- ▶ **[ライセンスのインポート]**ボタンをタップします。
- ⇒ 画面に、フォルダーの場所を含んだダイアログボックスが表示されます。
- ▶ インポートする必要があるライセンスファイルの場所に移動します。

- ▶ ライセンスファイルを選択して[OK]で確認します。
 - ⇒ 画面に、ライセンスファイルが正しくインポートされたことの確認を含んだダイアログボックスが表示されます。
- ▶ [OK]で確認します。
 - ⇒ 使用可能なライセンスは、**情報**セクションで見つけることができます。

対応するアプリケーションをインポートする前に、NIRWiseソフトウェアの再起動が必要になります。

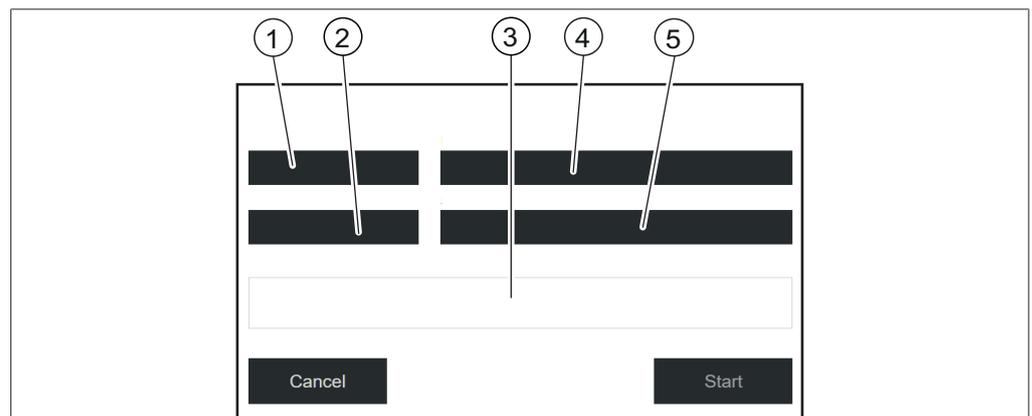
5.6.3 ベースライン補正ベクトル (BCV) の校正

ナビゲーションパス

→  → [BCVの校正]

条件:

- ソフトウェアは管理者モードになっています。
- 測定オプションが定義されています。
- 2時間以上の暖機運転。
- ▶ ナビゲーションパスで[BCVの校正]アクションに移動します。
 - ⇒ ソフトウェアにダイアログボックスが表示されます。



- | | | | |
|---|------------|---|----------|
| 1 | 照射モード | 2 | 外部リファレンス |
| 3 | 進行状況 (ビュー) | 4 | 測定モード |
| 5 | 測定オプションID | | |

固体サンプルの検量線設定の定義

- ▶ [照射モード]をタップします。
 - ⇒ 画面に、照射モードメニューが表示されます。
- ▶ 検量したいモードに従って[下面]または[上面]を選択します。
- ▶ [OK]で確認します。
- ▶ [測定モード]をタップします。
 - ⇒ 画面に、測定モードメニューが表示されます。
- ▶ [拡散反射]を選択します。
- ▶ [OK]で確認します。
- ▶ [外部リファレンス]をタップします。
 - ⇒ 画面に、外部リファレンスメニューが表示されます。

- ▶ 外部白色リファレンス上のステッカーに一致する番号を選択します。
- ▶ **[OK]**で確認します。
- ▶ **[測定オプション]**をタップします。
- ⇒ 画面に、測定オプションメニューが表示されます。
- ▶ **[デフォルト]**を選択します。
- ▶ **[OK]**で確認します。

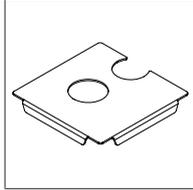


図 8: 下面照射用および上面照射用の2つの開口部をもつ位置決めプレート

下面照射モードにおける外部白色リファレンスの測定

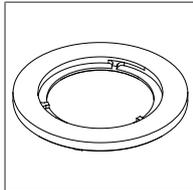


図 9: 下面照射用薄型スペーサーリング

条件:

- 設定は正しく定義されています。
- 白色リファレンスはきれいで破損していません。
- ▶ 装置に位置決めプレートを置きます。
- ▶ 下面照射ウィンドウの上で位置決めプレートの丸い切り取り部に下面照射モード用の薄型スペーサーリングを置きます。
- ▶ 白色リファレンスのネジを回して蓋を開けます。
- ▶ 薄型スペーサーリングにあわせて白色リファレンスを下ろして置きます。
- ▶ **[開始]**ボタンをタップします。
- ▶ 検量中の画面の指示に従います。
- ▶ **[OK]**をタップして指示を確認します。
- ⇒ システムは、外部白色リファレンスを4回まわすようにメッセージを表示します。
- ▶ スペーサーリングを回転させて外部リファレンスを回します。
- ⇒ 画面に、検量の成功に関する確認が表示されます。
- ⇒ BCVの校正後に2分間ランプを予熱します。
- ▶ BCVの校正が成功したらNIRWiseソフトウェアを再起動します。
- ▶ 両面照射装置の場合、上面照射モードの校正を繰り返します。

上面照射モードにおける外部白色リファレンスの測定

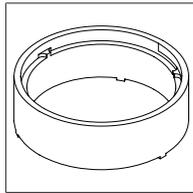


図 10: 上面照射用厚型スペーサーリング

条件:

- 設定は正しく定義されています。
- 白色リファレンスはきれいで破損していません。
- ▶ 装置に位置決めプレートを置きます。
- ▶ 上面照射ウィンドウの下で位置決めプレートの半円の切り取り部に上面照射モード用の厚型スペーサーリングを置きます。
- ▶ 白色リファレンスのネジを回して蓋を開けます。
- ▶ 厚型スペーサーリングにあわせて白色リファレンスを上げて設置します。
- ▶ **[開始]** ボタンをタップします。
- ▶ 検量中の画面の指示に従います。
- ▶ **[OK]** をタップして指示を確認します。
- ⇒ システムは、外部白色リファレンスを4回まわすようにメッセージを表示します。
- ▶ スペーサーリングを回転させて外部リファレンスを回します。
- ⇒ 画面に、検量の成功に関する確認が表示されます。
- ⇒ BCVの校正後に2分間ランプを予熱します。
- ▶ BCVの校正が成功したらNIRWiseソフトウェアを再起動します。
- ▶ 両面照射装置の場合、下面照射モードの検量を繰り返します。

液体サンプルの検量線設定の定義

- ▶ **[照射モード]** をタップします。
- ⇒ 画面に、照射モードメニューが表示されます。
- ▶ 液体照射検量のための**[下面]**を選択します。
- ▶ **[OK]**で確認します。
- ▶ **[測定モード]**をタップします。
- ⇒ 画面に、測定モードメニューが表示されます。
- ▶ **[透過反射]**を選択します。
- ▶ **[OK]**で確認します。
- ▶ **[外部リファレンス]**をタップします。
- ⇒ 画面に、外部リファレンスメニューが表示されます。
- ▶ **[透過反射]**を選択します。
- ▶ **[OK]**で確認します。
- ▶ **[測定オプション]**をタップします。
- ⇒ 画面に、測定オプションメニューが表示されます。
- ▶ アプリケーションメニュー内でアプリケーション用に作成した測定オプションを選択します。

- ▶ リストに[デフォルト]のみが表示されている場合、[新規]を選択して名前を入力します。
- ⇒ 新しい測定オプションIDを作成します。これは1回のみ行う必要があります。
- ▶ 新しい測定オプションIDを選択します。この測定オプションIDはアプリケーションの設定でも使用されるので必ず確認してください。

下面照射モードにおける透過反射カバーの測定

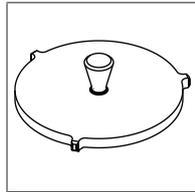


図 11: 下面照射モードにおける液体測定用の透過反射カバー

条件:

- 設定は正しく定義されています。
- 透過反射カバーはきれいで破損していません。
- サンプルカップはきれいで傷がありません。
- ▶ 空のサンプルカップを下面照射位置に置きます。
- ▶ 空のサンプルカップ内に透過反射カバーを置きます。
- ▶ [開始]ボタンをタップします。
- ▶ 検量中の画面の指示に従います。
- ▶ [OK]をタップして指示を確認します。
- ⇒ システムは、外部リファレンスを4回まわすようにメッセージを表示します。
- ▶ 透過反射カバーを回します。
- ⇒ 画面に、検量の成功に関する確認が表示されます。
- ⇒ BCVの校正後に2分間ランプを予熱します。
- ▶ BCVの校正が成功したらNIRWiseソフトウェアを再起動します。

5.6.4 標準化された基準データのインポート



備考

保存フォルダの場所は固定されています。10.2章「ファイルの説明とフォルダの場所」、109ページを参照。

ナビゲーションパス

→  → [外部リファレンスデータのインポート]

条件:

- リファレンスデータファイルは本機に保存されています。
- ▶ ナビゲーションパスで[外部リファレンスデータのインポート]アクションに移動します。
- ⇒ ディスプレイに**外部リファレンスデータのインポート**ダイアログボックスが表示されます。

- ▶ 入力ボックスファイルの横のボタンをタップします。
- ⇒ ディスプレイに、選択可能なリファレンスデータを含んだダイアログボックスが表示されます。
- ▶ インポートファイルを選択します。
- ▶ **[OK]**ボタンをタップします。
- ⇒ ダイアログが閉じます。
- ▶ **[インポート]**ボタンをタップします。
- ⇒ 外部リファレンスがインポートされます。

5.6.5 ソフトウェアの言語の変更

ナビゲーションパス

→  → **[一般設定]**

条件:

- ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章「管理者モードへのログイン」、50ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスで**一般設定**ビューに移動します。
- ▶ 機能バーの**[編集]**機能をタップします。
- ▶ **[選択した言語]**アクションをタップします。
- ⇒ コントロールパネルに、選択可能な言語を含むダイアログボックスが表示されます。
- ▶ 言語を選択します。
- ▶ **[OK]**ボタンをタップします。
- ⇒ ダイアログが閉じます。
- ⇒ コントロールパネルにダイアログボックスが表示されます。
- ▶ **[OK]**ボタンをタップして、ダイアログボックスを確定します。
- ▶ ソフトウェアを再起動します。

5.6.6 順番フィールドと注記フィールドのラベルを変更

ナビゲーションパス

→  → **[測定]**

条件:

- ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章「管理者モードへのログイン」、50ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスで**測定**ビューに移動します。
- ▶ 機能バーにある**[編集]**機能をタップします。
- ▶ **[順番 - カスタムラベル]**アクションをタップします。
- ⇒ コントロールパネルに、英数字入力ボックスを含むダイアログが表示されます。
- ▶ ラベルの名前を入力します。
- ▶ **[OK]**で確認します。
- ⇒ ダイアログボックスが閉じて、新しいラベルが表示されます。
- ▶ **[注記 - カスタムラベル]**アクションをタップします。
- ⇒ コントロールパネルに、英数字入力ボックスを含むダイアログが表示されます。
- ▶ ラベルの名前を入力します。
- ▶ **[OK]**で確認します。

⇒ ダイアログボックスが閉じて、新しいラベルが表示されます。

5.6.7 機器の測定ワークフローを変更

測定ワークフローでは、以下の2つのことができます。

1. すべての測定値は**[確定]**ボタンで保存されます。メタデータフィールドは、緑のコントロールボタンで測定を開始する前に編集できます。
2. 緑のコントロールボタンを押して次の測定を開始すると、測定値が自動的に保存されます。新しい測定を開始する前に、メタデータを編集することはできません。

ナビゲーションパス

→  → **[測定]**

条件:

- ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章「管理者モードへのログイン」、50ページを参照してください。
 - ▶ ナビゲーションパスで**測定**ビューに移動します。
 - ▶ 機能バーにある**[編集]**機能をタップします。
 - ▶ **[確定ボタンで完了]**アクションをタップします。
 - ⇒ コントロールパネルに、選択可能な値（オプション1は**[はい]**、オプション2は**[いいえ]**）を含むダイアログボックスが表示されます。
 - ▶ オプションを選択します。
 - ▶ **[OK]**で確認します。
- ⇒ ダイアログボックスが閉じます。

5.6.8 順番ボタンの設定を調整

各測定後に順番ボタンをクリアすることも、値を記憶することもできます。値はいつでも編集可能です。

ナビゲーションパス

→  → **[測定]**

条件:

- ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章「管理者モードへのログイン」、50ページを参照してください。
 - ▶ ナビゲーションパスで**測定**ビューに移動します。
 - ▶ 機能バーにある**[編集]**機能をタップします。
 - ▶ **[順番のクリア]**アクションをタップします。
 - ⇒ コントロールパネルに、選択可能な値を含むダイアログボックスが表示されます。
 - ▶ オプションを選択します。
 - ▶ **[OK]**で確認します。
- ⇒ ダイアログボックスが閉じます。

5.6.9 履歴メニューの時刻および日付形式を調整

ナビゲーションパス

→  → **[測定]**

条件:

- ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章「管理者モードへのログイン」、50ページを参照してください。

- ▶ ナビゲーションパスで**測定**ビューに移動します。
- ▶ 機能バーにある **[編集]** 機能をタップします。
- ▶ **[タイムスタンプ形式のサンプル]**アクションをタップします。
 - ⇒ コントロールパネルに、選択可能な値を含むダイアログボックスが表示されます。
- ▶ オプションを選択します。
- ▶ **[OK]**で確認します。
 - ⇒ ダイアログボックスが閉じます。

5.6.10 履歴メニューに表示されるサンプルの最大数を編集

ナビゲーションパス

→  → **[測定]**

条件:

- 機器はサービスモードになっています。
- ▶ ナビゲーションパスで**測定**ビューに移動します。
- ▶ 機能バーにある **[編集]** 機能をタップします。
- ▶ **[表示する測定結果の最大件数]**アクションをタップします。
 - ⇒ コントロールパネルに、数値入力ボックスを含むダイアログが表示されます。
- ▶ 100~15,000の数値を入力します。
- ▶ **[OK]**で確認します。
 - ⇒ ダイアログボックスが閉じて、新しいラベルが表示されます。

5.6.11 CSV形式のオプションを変更

ナビゲーションパス

→  → **[レポート]**

条件:

- ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章「管理者モードへのログイン」、50ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスで**レポート**ビューに移動します。
- ▶ 機能バーにある **[編集]** 機能をタップします。
- ▶ **[CSV形式のオプション]**アクションをタップします。
- ▶ **[測定値の並べ替えタイプ]**アクションをタップします。
 - ⇒ コントロールパネルに、選択可能な値を含むダイアログボックスが表示されます。
- ▶ オプションを選択します。
- ▶ **[OK]**で確認します。
 - ⇒ ダイアログボックスが閉じます。
- ▶ **[その他の数値形式]**アクションをタップします。
 - ⇒ コントロールパネルに、選択可能な値を含むダイアログボックスが表示されます。
- ▶ オプションを選択します。
- ▶ **[OK]**で確認します。
 - ⇒ ダイアログボックスが閉じます。
- ▶ **[予測値形式]**アクションをタップします。
 - ⇒ コントロールパネルに、選択可能な値を含むダイアログボックスが表示されます。

- ▶ オプションを選択します。
- ▶ **[OK]**で確認します。
 - ⇒ ダイアログボックスが閉じます。
- ▶ **[参照値形式]**アクションをタップします。
 - ⇒ コントロールパネルに、選択可能な値を含むダイアログボックスが表示されます。
- ▶ オプションを選択します。
- ▶ **[OK]**で確認します。
 - ⇒ ダイアログボックスが閉じます。
- ▶ **[スペクトル値形式]**アクションをタップします。
 - ⇒ コントロールパネルに、選択可能な値を含むダイアログボックスが表示されます。
- ▶ オプションを選択します。
- ▶ **[OK]**で確認します。
 - ⇒ ダイアログボックスが閉じます。
- ▶ **[タイムスタンプ形式]**アクションをタップします。
 - ⇒ コントロールパネルに、選択可能な値を含むダイアログボックスが表示されます。
- ▶ オプションを選択します。
- ▶ **[OK]**で確認します。
 - ⇒ ダイアログボックスが閉じます。
- ▶ **[波長形式]**アクションをタップします。
 - ⇒ コントロールパネルに、選択可能な値を含むダイアログボックスが表示されます。
- ▶ オプションを選択します。
- ▶ **[OK]**で確認します。
 - ⇒ ダイアログボックスが閉じます。

5.6.12 XML形式のオプションを変更

ナビゲーションパス

→  → **[レポート]**

条件:

- ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章 「管理者モードへのログイン」、50ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスで**レポート**ビューに移動します。
- ▶ 機能バーにある**[編集]**機能をタップします。
- ▶ **[XML形式のオプション]**アクションをタップします。
- ▶ **[測定値の並べ替えタイプ]**アクションをタップします。
 - ⇒ コントロールパネルに、選択可能な値を含むダイアログボックスが表示されます。
- ▶ オプションを選択します。
- ▶ **[OK]**で確認します。
 - ⇒ ダイアログボックスが閉じます。
- ▶ **[その他の数値形式]**アクションをタップします。
 - ⇒ コントロールパネルに、選択可能な値を含むダイアログボックスが表示されます。
- ▶ オプションを選択します。
- ▶ **[OK]**で確認します。
 - ⇒ ダイアログボックスが閉じます。

- ▶ **[予測値形式]**アクションをタップします。
 - ⇒ コントロールパネルに、選択可能な値を含むダイアログボックスが表示されます。
- ▶ オプションを選択します。
- ▶ **[OK]**で確認します。
 - ⇒ ダイアログボックスが閉じます。
- ▶ **[参照値形式]**アクションをタップします。
 - ⇒ コントロールパネルに、選択可能な値を含むダイアログボックスが表示されます。
- ▶ オプションを選択します。
- ▶ **[OK]**で確認します。
 - ⇒ ダイアログボックスが閉じます。
- ▶ **[スペクトル値形式]**アクションをタップします。
 - ⇒ コントロールパネルに、選択可能な値を含むダイアログボックスが表示されます。
- ▶ オプションを選択します。
- ▶ **[OK]**で確認します。
 - ⇒ ダイアログボックスが閉じます。
- ▶ **[タイムスタンプ形式]**アクションをタップします。
 - ⇒ コントロールパネルに、選択可能な値を含むダイアログボックスが表示されます。
- ▶ オプションを選択します。
- ▶ **[OK]**で確認します。
 - ⇒ ダイアログボックスが閉じます。
- ▶ **[波長形式]**アクションをタップします。
 - ⇒ コントロールパネルに、選択可能な値を含むダイアログボックスが表示されます。
- ▶ オプションを選択します。
- ▶ **[OK]**で確認します。
 - ⇒ ダイアログボックスが閉じます。

5.6.13 JCAMP形式のオプションを変更

ナビゲーションパス

→  → **[レポート]**

条件:

- ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章「管理者モードへのログイン」、50ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスで**レポート**ビューに移動します。
- ▶ 機能バーにある**[編集]**機能をタップします。
- ▶ **[JCAMP形式のオプション]**アクションをタップします。
- ▶ **[測定値の並べ替えタイプ]**アクションをタップします。
 - ⇒ コントロールパネルに、選択可能な値を含むダイアログボックスが表示されます。
- ▶ オプションを選択します。
- ▶ **[OK]**で確認します。
 - ⇒ ダイアログボックスが閉じます。
- ▶ **[その他の数値形式]**アクションをタップします。
 - ⇒ コントロールパネルに、選択可能な値を含むダイアログボックスが表示されます。
- ▶ オプションを選択します。

- ▶ **[OK]**で確認します。
- ⇒ ダイアログボックスが閉じます。
- ▶ **[予測値形式]**アクションをタップします。
- ⇒ コントロールパネルに、選択可能な値を含むダイアログボックスが表示されます。
- ▶ オプションを選択します。
- ▶ **[OK]**で確認します。
- ⇒ ダイアログボックスが閉じます。
- ▶ **[参照値形式]**アクションをタップします。
- ⇒ コントロールパネルに、選択可能な値を含むダイアログボックスが表示されます。
- ▶ オプションを選択します。
- ▶ **[OK]**で確認します。
- ⇒ ダイアログボックスが閉じます。
- ▶ **[スペクトル値形式]**アクションをタップします。
- ⇒ コントロールパネルに、選択可能な値を含むダイアログボックスが表示されます。
- ▶ オプションを選択します。
- ▶ **[OK]**で確認します。
- ⇒ ダイアログボックスが閉じます。
- ▶ **[タイムスタンプ形式]**アクションをタップします。
- ⇒ コントロールパネルに、選択可能な値を含むダイアログボックスが表示されます。
- ▶ オプションを選択します。
- ▶ **[OK]**で確認します。
- ⇒ ダイアログボックスが閉じます。
- ▶ **[波長形式]**アクションをタップします。
- ⇒ コントロールパネルに、選択可能な値を含むダイアログボックスが表示されます。
- ▶ オプションを選択します。
- ▶ **[OK]**で確認します。
- ⇒ ダイアログボックスが閉じます。

5.6.14 ログエントリの削除サンプル数を調整

ナビゲーションパス

→  → **[測定]**

条件:

- 機器はサービスモードになっています。
- ▶ ナビゲーションパスで**測定**ビューに移動します。
- ▶ **その他の閾値**に移動します。
- ▶ 機能バーにある **[編集]** 機能をタップします。
- ▶ **[ログビューで削除する測定結果の最小件数]**アクションをタップします。
- ⇒ コントロールパネルに、数値入力ボックスを含むダイアログが表示されます。
- ▶ 数値を挿入します。
- ▶ **[OK]**で確認します。
- ⇒ ダイアログボックスが閉じます。

6 操作



⚠ 注意

ガラスの破片で怪我の生じる危険があります。

鋭利な物で画面が損傷するおそれがあります。

▶ 鋭利な物を画面に近づけないでください。

6.1 コントロールパネルのレイアウト

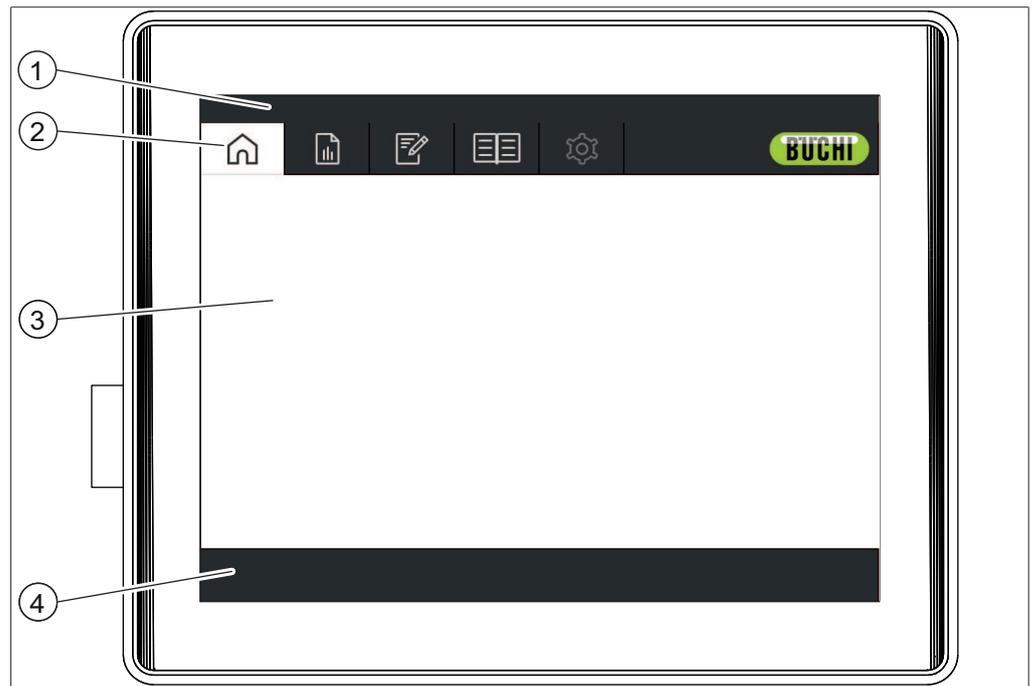


図 12: コントロールパネル

番号	説明	機能
1	ステータスバー	本機の現在の状態を示します。 6.4章「ステータスバー」、50ページを参照。
2	メニューバー	メニューを表すシンボルを表示します。 6.3章「メニューバー」、36ページを参照。
3	コンテンツエリア	現在の操作に応じて、現在の設定、サブメニュー、またはアクションを表示します。
4	機能バー	現在の操作に従って実行できる機能を表示します。 6.2章「機能バー」、35ページを参照。

6.2 機能バー

ファンクションバーには、現在の操作に応じて利用可能な機能が表示されます。ファンクションバー上の機能は、該当する機能ボタンをタップすることで実行されます。

シンボルマーク	説明	意味
	[戻る]	操作ユニットが前の画面に切り替わります。

シンボルマーク	説明	意味
	[確定]	測定結果を確定します。
	[スイッチオフ]	本機をシャットダウンします。
	[選択]	マークされたアプリケーションを選択します。
	[ログイン]	ディスプレイに ログイン ダイアログが表示されます。
	[複数選択]	測定の複数選択を有効にします。
	[すべて選択]	リスト内のすべての測定を選択します。 注意事項 複数選択が有効な場合のみ使用できます。
	[レポート]	オンスクリーンレポートを生成します。
	[Excelで保存]	レポートをExcelファイルとして保存します。
	[PDFで保存]	レポートをPDFファイルとして保存します。
	[印刷]	プリンター上でレポートを印刷します。
	[編集]	選択された項目の編集を可能にします。
	[新規作成]	新しいアプリケーションまたはプロパティを作成します。
	[削除]	選択された値を削除します。
	[コピー]	マークされたアプリケーションをコピーします。
	[AutoCal]	AutoCalを実行します。
	[インポート]	データをインポートします。
	[エクスポート]	選択されているデータをエクスポートできます。
	[測定データのインポート/エクスポート]	機能に応じて、データをインポートまたはエクスポートします。
	[情報]	装置とインストール済みライセンスに関する情報を表示します。
	[ページ全体]	レポートをページ全体に合わせて表示します。
	[ページ幅]	レポートをページ幅に合わせて表示します。
	[Windowsを表示]	表示がWindows® Surfaceに切り替わりません。

6.3 メニューバー

メニューは、メニューバーのシンボルによって表されます。メニュー内の移動はタッチスクリーンで行われます。

以下のメニューが使用可能です。

メニューシンボル	意味	アクション
	[開始]メニュー	<ul style="list-style-type: none"> 測定を実行します。 <p>6.3.1章 「開始メニュー」、38ページを参照。</p>
	[履歴]メニュー	<ul style="list-style-type: none"> 完了した測定の結果を表示します。 レポートを作成します。 サンプルの参照値を入力します。 サンプルを検量線モデルに追加します。 AutoCal機能で検量線モデルを更新します。 測定データをエクスポートします。 <p>6.3.2章 「履歴メニュー」、42ページを参照。</p>
	[アプリケーション]メニュー	<ul style="list-style-type: none"> アプリケーションを作成、編集、または選択します。 <p>6.3.3章 「アプリケーションメニュー」、47ページを参照。</p>
	[ツール]メニュー	<ul style="list-style-type: none"> 構成、保守、およびシステムテストを設定します。 装置のログおよびその他の装置カウンターを表示します。 ライセンスリクエストおよびインポート機能。 リモートセッションをセットアップします。 ログイン権限を変更します。 <p>6.3.4章 「ツールメニュー」、48ページを参照。</p>
	[設定]メニュー	<ul style="list-style-type: none"> 装置の設定を編集します。 管理者モードでのみ使用可能です。

6.3.1 開始メニュー



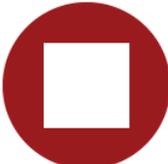
図 13: [開始] メニュー

- | | | | |
|---|--|---|---------------------------------|
| 1 | 選択したアプリケーションを表示 | 2 | 順番
--- MISSING LINK ---を参照 |
| 3 | サンプルIDの自動増分接頭辞、章「サンプルIDの自動増分接頭辞の挿入」、39ページを参照 | 4 | サンプルID
章「サンプルIDの挿入」、39ページを参照 |
| 5 | コントロールボタン | 6 | 選択したアプリケーションのプロパティを表示 |
| 7 | 選択したアプリケーションの標準操作手順を表示 | 8 | 注記
章「注記の挿入」、40ページを参照 |
| 9 | バーコード
章「バーコードの挿入」、40ページを参照 | | |

コントロールボタン

以下のシンボルが [コントロール] ボタンとして、表示されます。

記号	意味
	<ul style="list-style-type: none"> 測定は終了しました。 測定サンプルは仕様の範囲内です。 シンボルをタップすると、装置は測定を実行します。
	<p>目標値は、その製品で期待される測定値です。 目標値はアプリケーションで定義されます。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 使用可能なアプリケーションがありません。 測定できません。

記号	意味
	<ul style="list-style-type: none"> 測定は終了しました。 予測値が許容値の範囲外です。
	<p>許容値は目標値からの差です。 許容値はアプリケーションで定義されます。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 測定は終了しました。 検量線モデルがありません。 マハラノビス異常値 予測値が検量線モデルの範囲外です。 予測値が設定された限界の範囲外です。
	<p>限界は絶対値で指定されます。 限界はアプリケーションで定義されます。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 測定中です。 測定をキャンセルします。

サンプルIDの挿入

サンプルIDは、分析中のサンプルを識別するためのラベルです。

ナビゲーションパス



- ▶ ボタン  をタップします（[サンプルID]の横にあります）。
- ⇒ ディスプレイに、英数字入力ボックスを含んだダイアログが表示されます。
- ▶ サンプルの番号、名前、またはコードを入力します。
- ▶ [OK]ボタンをタップします。
- ⇒ サンプルIDが保存されます。
- ⇒ ダイアログが閉じます。

サンプルIDの自動増分接頭辞の挿入

[サンプルIDの自動増分接頭辞] は、入力した接頭辞に基づいて自動的にサンプルIDの増分を生成します。アプリケーションが変更されない限り、この接頭辞は記憶されます。アプリケーションが変更されると、[サンプルIDの自動増分接頭辞] はリセットされます。

ナビゲーションパス



- ▶ [サンプルIDの自動増分接頭辞]の横にある  ボタンをタップします。
- ▶ [サンプルIDの自動増分接頭辞] を入力します。
- ▶ [OK]ボタンをタップします。
- ⇒ ダイアログが閉じます。

- ▶ **[コントロール]**ボタンをタップします。
 - ⇒ [サンプルID] フィールドには、[サンプルIDの自動増分接頭辞] とそれに続く#001が自動的に入力されます。
 - ⇒ 機器が測定を実行します。
 - ⇒ ステータスバーに**[測定中]**ステータスが表示されます。
 - ⇒ 測定が終了し、予測値が表示されます。
- ▶ **[コントロール]**ボタンをタップします。
 - ⇒ [サンプルID] フィールドには、[サンプルIDの自動増分接頭辞] とそれに続く#002が自動的に入力されます。
 - ⇒ 機器が測定を実行します。
 - ⇒ ステータスバーに**[測定中]**ステータスが表示されます。
 - ⇒ 測定が終了し、予測値が表示されます。

バーコードの挿入

バーコードは分析中のサンプルを識別するラベルです。バーコードリーダーを接続できます。バーコードリーダーを設定すると、このラベルを使用して、分析中のサンプルを特定できます。別の方法として、バーコードを手動で挿入できます。

ナビゲーションパス



- ▶ **[バーコード]**の横にある  ボタンをタップします。
 - ⇒ ディスプレイに、英数字入力ボックスを含んだダイアログが表示されます。
- ▶ サンプルのバーコードを入力します。
- ▶ **[OK]**ボタンをタップします。
 - ⇒ バーコードが保存されます。
 - ⇒ ダイアログが閉じます。

注記の挿入

[注記] は分析中のサンプルを識別するラベルです。デフォルト設定では、[注記] は必須フィールドではありません。

ナビゲーションパス



- ▶ **[注記]**の横にある  ボタンをタップします。
 - ⇒ ディスプレイに、英数字入力ボックスを含んだダイアログが表示されます。
- ▶ 値を入力します。
- ▶ **[OK]**ボタンをタップします。
 - ⇒ 注記が保存されます。
 - ⇒ ダイアログが閉じます。

順番の挿入

[順番] は分析中のサンプルを識別するラベルです。デフォルト設定では、[順番] は必須フィールドではありません。

ナビゲーションパス



- ▶ **[順番]**の横にある  ボタンをタップします。
 - ⇒ ディスプレイに、英数字入力ボックスを含んだダイアログが表示されます。
- ▶ 値を入力します。
- ▶ **[OK]** ボタンをタップします。
 - ⇒ 順番が保存されます。
 - ⇒ ダイアログが閉じます。

6.3.2 履歴メニュー

[履歴]メニューに、過去の測定データがリスト表示されます。

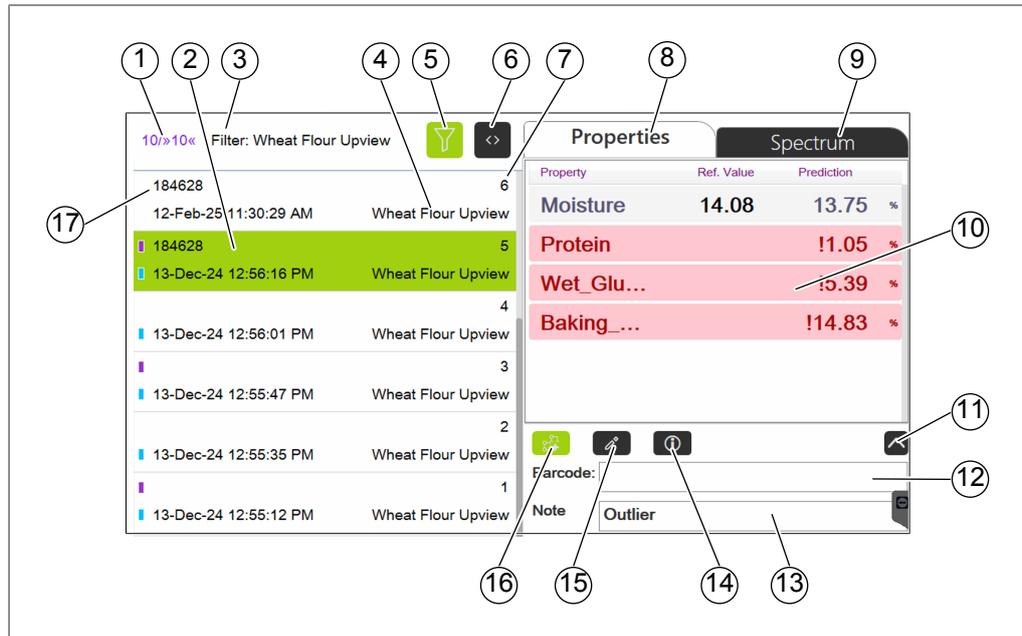


図 14: [データ] メニュー

- | | | | |
|----|--|----|------------------|
| 1 | 表示されたサンプル数/合計サンプル数
(適用されたフィルターに対して) | 2 | タイムスタンプ |
| 3 | 適用されたフィルター | 4 | アプリケーション名 |
| 5 | [フィルター] ボタン | 6 | [拡張ビュー] ボタン |
| 7 | サンプルID | 8 | サンプルのプロパティ |
| 9 | スペクトルの表示 | 10 | プロパティ、予測値、参照値の表示 |
| 11 | 注記領域を拡大 | 12 | バーコード |
| 13 | 注記 | 14 | [測定の詳細] ボタン |
| 15 | [メタデータの編集] ボタン | 16 | [検量線モデルに追加] ボタン |
| 17 | 順番 | | |

青のバー：サンプルが検量線モデルに追加されたことを示すインジケーター

紫のバー：サンプルに参照値インジケーターがあります

参照：

6.12章 「参照値の入力」、79ページ

6.13章 「検量線モデルを作成または更新するAutoCalの実行」、80ページ

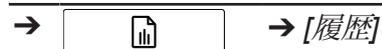
測定データのエキスポート

6.15章 「レポートの作成」、86ページ

拡張ビュー

拡張ビューでは、サンプルID、順番、アプリケーション名を完全に表示できます。

ナビゲーションパス



- ▶ ナビゲーションパスで[履歴]メニューに移動します。

▶  ボタンをタップします。

⇒ 拡張ビューが開きます。

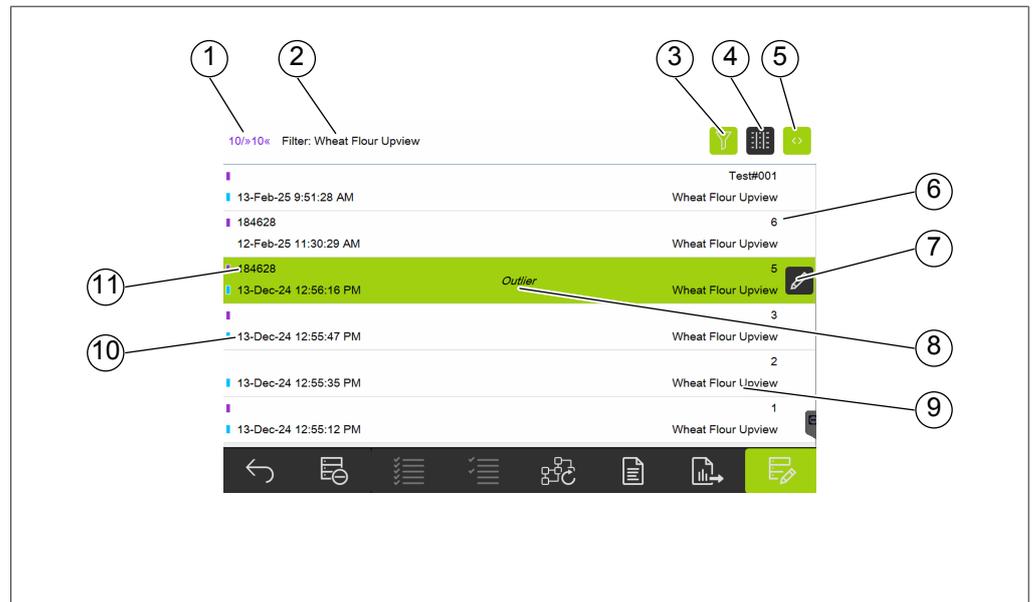


図 15: 拡張ビュー

- | | | | |
|----|--|----|-------------|
| 1 | 表示されたサンプル数/合計サンプル数
(適用されたフィルターに対して) | 2 | 適用されたフィルター |
| 3 | [フィルター] ボタン | 4 | [予測を表示] ボタン |
| 5 | [拡張ビューを閉じる] ボタン | 6 | サンプルID |
| 7 | 編集 がアクティブな場合の [メタデータの編集] ボタン | 8 | 注記 |
| 9 | アプリケーション名 | 10 | タイムスタンプ |
| 11 | 順番 | | |

拡張ビューで予測を表示

ナビゲーションパス

→  → [履歴]

▶ ナビゲーションパスで[履歴]メニューに移動します。

▶  ボタンをタップします。

⇒ 拡張ビューが開きます。

▶  ボタンをタップします。

⇒ 拡張ビューに、各サンプルの最初の予測値が表示されます。



図 16: 拡張ビュー

- | | | | |
|----|--|----|-------------|
| 1 | 表示されたサンプル数/合計サンプル数
(適用されたフィルターに対して) | 2 | 適用されたフィルター |
| 3 | [フィルター] ボタン | 4 | [予測を表示] ボタン |
| 5 | [拡張ビューを閉じる] ボタン | 6 | サンプルID |
| 7 | [測定の詳細] ボタン、 編集 がアクティブでないとき | 8 | 注記 |
| 9 | アプリケーション名 | 10 | タイムスタンプ |
| 11 | 順番 | | |

フィルターの選択

フィルターを使用すると、特定の基準を満たすサンプルに絞り込むことができます。

ナビゲーションパス

→  → **[履歴]**

- ▶ ナビゲーションパスで**[履歴]**メニューに移動します。
- ▶ [フィルター] ボタンをタップします。
- ⇒ 選択可能なフィルターを示すダイアログボックスが表示されます。

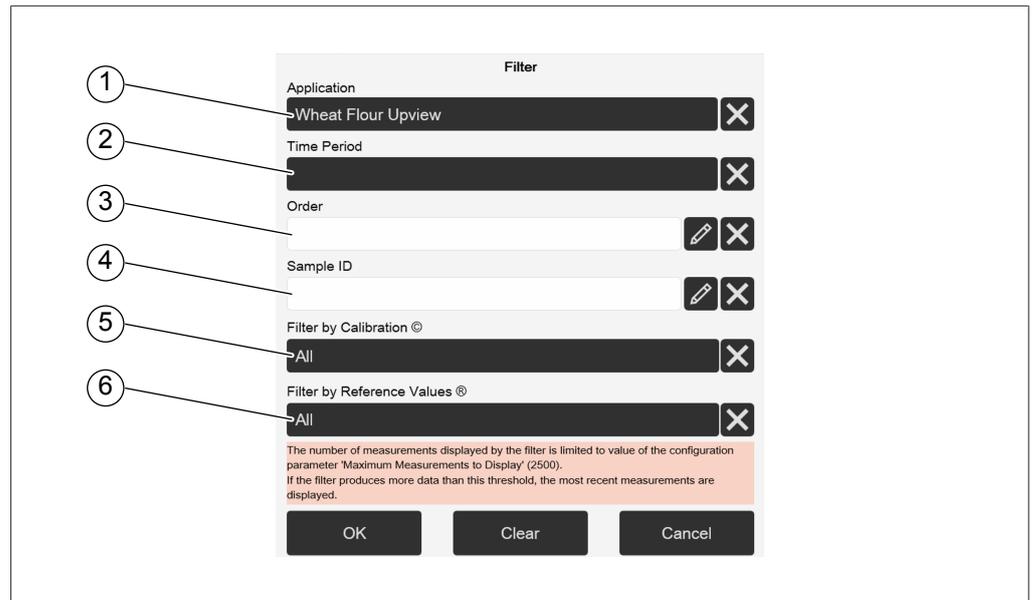


図 17: ダイアログボックスフィルター

- | | | | |
|---|-----------------|---|--------------|
| 1 | アプリケーション | 2 | 期間（カスタムも可） |
| 3 | 順番 | 4 | サンプルID |
| 5 | 検量線モデルに追加する/しない | 6 | 参照値を使用する/しない |

- ▶ 要件に応じてフィルター設定を選択します。
- ▶ **[OK]**ボタンをタップします。
 - ⇒ ダイアログが閉じます。
 - ⇒ フィルターされた測定値が表示されます。

フィルターの選択解除

ナビゲーションパス

→  → **[履歴]**

- ▶ ナビゲーションパスで**[履歴]**メニューに移動します。
- ▶ **[フィルター]** ボタンをタップします。
 - ⇒ 選択可能なフィルターを示すダイアログボックスが表示されます。
- ▶ 特定のフィルターの**[X]**ボタンまたは**[クリア]**ボタンをタップして、すべてのフィルターを削除します。
- ▶ **[OK]**ボタンをタップします。
 - ⇒ ダイアログが閉じます。
 - ⇒ 利用可能な測定値がすべて表示されます。

測定の詳細を表示

ナビゲーションパス

→  → **[履歴]**

- ▶ ナビゲーションパスで**[履歴]**メニューに移動します。
- ▶ サンプルを選択します。

- ▶ **OK** ボタンをタップします。
 - ⇒ コントロールパネルに、参照値や残差（利用可能な場合）を含む予測値の詳細を示すボックスが表示されます。
- ▶ **[OK]** ボタンをタップします。
 - ⇒ ダイアログが閉じます。

スクロール機能を使用

ナビゲーションパス

→  → **[履歴]**

- ▶ ナビゲーションパスで**[履歴]**メニューに移動します。
- ▶ サンプルリスト内の別の場所までスクロールします。
- ▶ サンプルの1つを長押しします。
 - ⇒ コントロールパネルに、選択可能な値を含むダイアログボックスが表示されます。
- ▶ オプションを選択します。
 - ⇒ **[履歴]**メニューが選択した場所に移動します。

6.3.3 アプリケーションメニュー

[アプリケーション]メニューでは、アプリケーションを作成、編集、および選択できます。

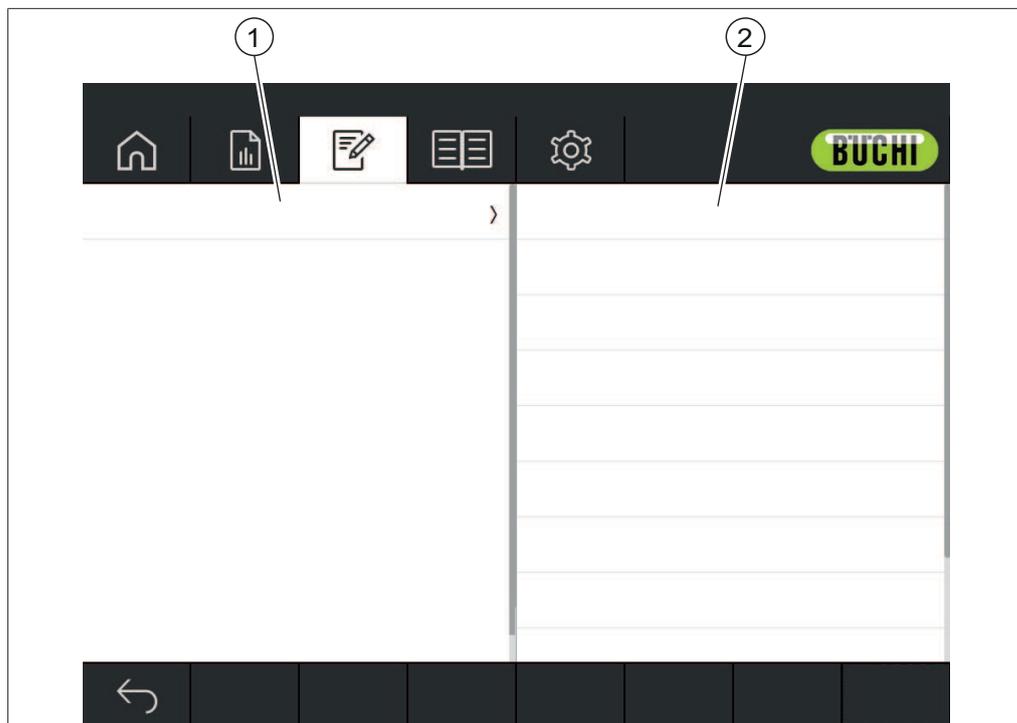


図 18: アプリケーションメニュー

- 1 使用可能なアプリケーションまたはプロパティのリストを表示
- 2 使用可能な設定のリストを表示

参照：

6.6章 「アプリケーションの編集」、51ページ

6.7章 「アプリケーションの削除」、58ページ

6.8章 「プロパティの編集」、58ページ

6.9章 「プロパティの削除」、75ページ

6.14.2章 「アプリケーションデータのインポート」、85ページ

6.14.3章 「アプリケーションデータのエクスポート」、85ページ

6.3.4 ツールメニュー

ツールメニューには、保守およびアプリケーション設定のためのさまざまなツールがあります。

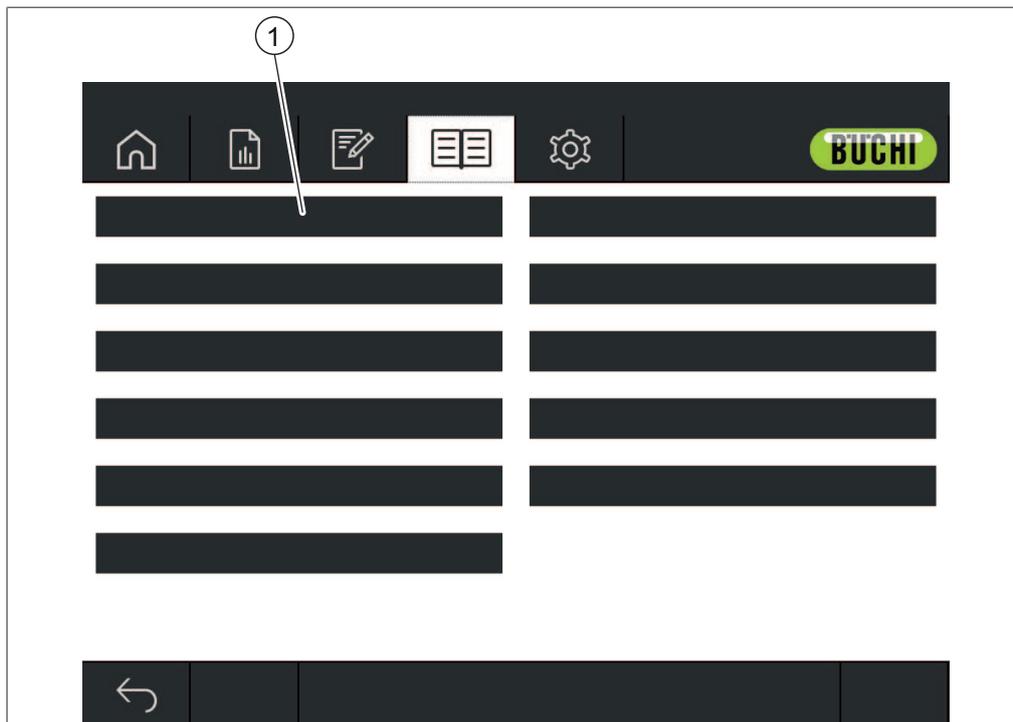


図 19: ツールメニュー

1 ツール

以下のツールが使用可能です。

対応	オプション	説明
[NIRWise ログ]	表示	操作中に発生したメッセージの一覧を含むダイアログが表示されます。 (全ユーザー)
[NIRWise データの 手順 バックアップ]		データのバックアップを行います。 (管理者のみ) 7.6章「データのバックアップの実行」、 102ページ「検査室基準データ用Excelテ ンプレートを用意する」を参照してくだ さい。
[拡張システムテス 手順 ト]		様々なシステムテストを実施します。 (管理者のみ) 7.5.2章「包括的なシステム試験の実 行」、102ページ「検査室基準データ用 Excelテンプレートを用意する」を参照し てください。 7.5.3章「高度なシステム試験の実行」、 102ページ「検査室基準データ用Excelテ ンプレートを用意する」を参照してくだ さい。

対応	オプション	説明
[BCVのテスト]	手順	ベースライン補正テストを実行します。 (管理者のみ) 7.5.1章「ベースライン補正ベクトル試験の実行」、101ページ「検査室基準データ用Excelテンプレートを用意する」を参照してください。
[ランプ交換の確認]	リセット	7.2.3章「ランプ交換の確認」、97ページ「検査室基準データ用Excelテンプレートを用意する」を参照してください。 (管理者のみ)
[ライセンス申請]	手順	ライセンスの申請「検査室基準データ用Excelテンプレートを用意する」を参照してください。 (管理者のみ)
[リモートホスト]	オープンプログラム	リモートサポート用の TeamViewer ソフトウェアが起動します。 (管理者のみ)
[バックアップのリストア]		▶ BUCHIカスタマーサービスにご連絡ください。
[クリーニングモード]	手順	7.9章「ディスプレイの清掃」、104ページ「検査室基準データ用Excelテンプレートを用意する」を参照してください。 (全ユーザー)
[運用カウンター]	表示 / 手順	表示されるデータはシステム構成によって異なります。 総稼働時間 / NIR稼働時間 / ランプUP表示 / リファレンスUP表示 / システム温度 / 回転時間 / VIS稼働時間 / ランプDOWN表示 / リファレンスDOWN表示 / システム湿度 (管理者のみ)
[拡張システムテスト履歴]	表示	実行されたテストに関する詳細な情報を含むダイアログが表示されます。 (管理者のみ)
[BCVのキャリブレーション]	手順	ベースライン補正ベクトル (BCV) の校正「検査室基準データ用Excelテンプレートを用意する」を参照してください。 (管理者のみ)
[外部基準データのインポート]	手順	5.6.4章「標準化された基準データのインポート」、28ページ「検査室基準データ用Excelテンプレートを用意する」を参照してください。
[ライセンスのインポート]	手順	ライセンスのインポート「検査室基準データ用Excelテンプレートを用意する」を参照してください。 (管理者のみ)
[データファイルのコピー]		▶ BUCHIカスタマーサービスにご連絡ください。
[出荷時の設定]		▶ BUCHIカスタマーサービスにご連絡ください。

6.4 ステータスバー

ステータスバーには、装置の状態が示されます。
以下の状態があり得ます。

ステータスバーの表示

表示	状態
分光計の安定化中	残り時間を示します。
測定準備完了	機器の測定準備が整いました。
テンパリング中	暖機中です。 ステータスバーに、装置の目標温度と現在温度が示されます。
構成中...	本機が起動します。 アプリケーションを読み込んでいます。
測定中...	測定を実行しています。
露光時間調整中...	装置の初期化
BCV校正中...	ベースライン補正ベクトルを校正します。
初期化中...	装置の初期化
ダークリファレンス測定中...	内部ダークリファレンスを測定します。
エラー	エラーが発生しました。 8章「故障かな?と思ったら」、106ページを参照。
拡張システム試験	拡張システム試験アクションが有効です。装置はアクションを待っています。
予備調整中...	装置の初期化
標準システム試験実行中...	標準システム試験を実行します。
システム試験実行中...	内部試験の実行中です。
設定準備完了	<ul style="list-style-type: none"> アプリケーションが選択されていません。 現在のアプリケーションの測定オプションのベースライン補正が定義されていません。
ホワイトリファレンス測定中...	装置の初期化
ランプの予備加熱	ランプを加熱しています。ステータスバーに残り時間が表示されます。

ステータスバーのシンボル

シンボルマーク	状態
	現在のユーザーは管理者としてログオンしています ソフトウェアは管理者モードになっています。
	現在のユーザーは測定者としてログオンしています。 ソフトウェアは測定者モードになっています。
	警告が発生しました。[NIRWise ログ]を確認してください。 6.3.4章「ツールメニュー」、48ページを参照。

6.5 管理者モードへのログイン

ナビゲーションパス



条件:

- ソフトウェアは測定者モードになっています。

- ▶ ナビゲーションパスで[ツール]メニューに移動します。
- ▶ 機能バーで[ログイン]機能をタップします。
 - ⇒ 選択可能なユーザーを示すダイアログボックスが表示されます。
- ▶ [管理者]をタップします。
 - ⇒ ディスプレイに、英数字入力ボックスを含んだダイアログが表示されます。
- ▶ パスワードを入力します。
- ▶ [OK]ボタンをタップします。
 - ⇒ ダイアログが閉じます。
 - ⇒ ソフトウェアは管理者モードになっています。
 - ⇒ ステータスバーにアイコンの管理者が表示されます。

6.6 アプリケーションの編集



備考

アプリケーションは、管理者モードでのみ編集できます。

6.6.1 新しいアプリケーションの作成

アプリケーションを作成するには、2つの方法があります。

- 既存のアプリケーションをコピーする
章「既存のアプリケーションをコピーして新しいアプリケーションを作成する」、51ページを参照。
- 新しいアプリケーションを作成する
章「新しいアプリケーションの作成」、51ページを参照。

新しいアプリケーションの作成

手順：

ナビゲーションパス



条件:

- ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章「管理者モードへのログイン」、50ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスにより、[アプリケーション]メニューに移動します。
- ▶ 機能バーの[編集]機能をタップします。
 - ⇒ ディスプレイに[編集]機能が緑色で強調表示されます。
- ▶ 機能バーの[追加]機能をタップします。
 - ⇒ ディスプレイに、英数字入力ボックスを含んだダイアログが表示されます。
- ▶ アプリケーションの名前を入力します。
- ▶ [OK]ボタンをタップします。
 - ⇒ ダイアログが閉じます。
 - ⇒ 新しいアプリケーションが作成されます。

既存のアプリケーションをコピーして新しいアプリケーションを作成する

手順：

ナビゲーションパス



条件:

- ☑ ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章 「管理者モードへのログイン」、50 ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスにより、**[アプリケーション]**メニューに移動します。
- ▶ 機能バーの**[編集]**機能をタップします。
 - ⇒ ディスプレイに**[編集]**機能が緑色で強調表示されます。
- ▶ コピーするアプリケーションをタップします。
 - ⇒ アプリケーションが緑色で強調表示されます。
- ▶ 機能バーの**[コピー]**機能をタップします。
 - ⇒ ディスプレイに、英数字入力ボックスを含んだダイアログが表示されます。
- ▶ アプリケーションの名前を入力します。
- ▶ **[OK]**ボタンをタップします。
 - ⇒ コピーされたアプリケーションのプロパティが緑色で強調表示されたダイアログが表示されます。
- ▶ コピーしないプロパティをタップします。
 - ⇒ 無効化されたプロパティが白で表示されます。
- ▶ **[OK]**ボタンをタップします。
 - ⇒ ダイアログが閉じます。
 - ⇒ 新しいアプリケーションが作成されます。

6.6.2 アプリケーションの別名の変更

別名機能により、以前に定義したアプリケーションにローカル名を付けることができます。
手順:

ナビゲーションパス



条件:

- ☑ ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章 「管理者モードへのログイン」、50 ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスにより、**[アプリケーション]**メニューに移動します。
- ▶ 機能バーの**[編集]**機能をタップします。
 - ⇒ ディスプレイに**[編集]**機能が緑色で強調表示されます。
- ▶ 編集するアプリケーションの名前をタップします。
 - ⇒ アプリケーションが緑色で強調表示されます。
- ▶ **[エイリアス]**アクションをタップします。
 - ⇒ ディスプレイに、英数字入力ボックスを含んだダイアログが表示されます。
- ▶ アプリケーションの別名を入力します。
- ▶ **[OK]**ボタンをタップします。
 - ⇒ ダイアログが閉じます。
 - ⇒ 別名が保存されます。

6.6.3 アプリケーションの照射モードの変更

装置の構成に応じて、以下の測定照射が使用可能です。

表示	説明
下面	アプリケーションは下面照射ランプを使用します。 光はサンプルカップを通じてサンプルの下側から照射され、収集されます。
上面	アプリケーションは上面照射ランプを使用します。 光はサンプルの上部表面に照射され、収集されます。光がサンプルカップと相互作用することはありません。

手順：

ナビゲーションパス



条件:

- ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章「管理者モードへのログイン」、50ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスにより、**[アプリケーション]**メニューに移動します。
- ▶ 機能バーの**[編集]**機能をタップします。
 - ⇒ ディスプレイに**[編集]**機能が緑色で強調表示されます。
- ▶ 編集するアプリケーションの名前をタップします。
 - ⇒ アプリケーションが緑色で強調表示されます。
- ▶ **[照射モード]**アクションをタップします。
 - ⇒ ディスプレイに、選択可能な値を含んだダイアログボックスが表示されます。
- ▶ 値を選択します。
- ▶ **[OK]**ボタンをタップします。
 - ⇒ ダイアログが閉じます。
 - ⇒ 値が保存されます。

6.6.4 アプリケーションの測定モードの変更

測定オプションの設定に応じて、測定モードを選択します。6.6.5章「アプリケーションの測定オプションの変更」、54ページを参照。
以下の測定モードが使用可能です。

モード	説明
拡散反射	アプリケーションは反射モードで測定を実行します。 拡散反射測定モードは、固体および粉体サンプルの測定に使用されません。
透過反射 (下面照射のみ)	アプリケーションは透過反射モードで測定を実行します。 透過反射モードは、液体およびジェルの測定に使用されます。 透過反射モードでは、透過反射カバーを使用する必要があります。

手順：

ナビゲーションパス



条件:

- ☑ ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章 「管理者モードへのログイン」、50ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスにより、**[アプリケーション]**メニューに移動します。
- ▶ 機能バーの**[編集]**機能をタップします。
 - ⇒ ディスプレイに**[編集]**機能が緑色で強調表示されます。
- ▶ 編集するアプリケーションの名前をタップします。
 - ⇒ アプリケーションが緑色で強調表示されます。
- ▶ **[測定モード]**アクションをタップします。
 - ⇒ ディスプレイに、選択可能な値を含んだダイアログボックスが表示されます。
- ▶ 値を選択します。
- ▶ **[OK]**ボタンをタップします。
 - ⇒ ダイアログが閉じます。
 - ⇒ 値が保存されます。

6.6.5 アプリケーションの測定オプションの変更

ベースライン補正ベクトル (BCV) により、さまざまな測定オプションモードを定義して、たとえば、サンプル容器がスペクトル測定に及ぼす影響を補正できます。以下のプレゼンテーションモードが使用可能です。

モード	説明
デフォルト	ベースライン補正のデフォルト設定を適用します。
新規作成	個別のベースライン補正を校正します。ベースライン補正ベクトル (BCV) の校正を参照。
個別のベースライン補正	個別に校正されたベースライン補正。

手順:

ナビゲーションパス



条件:

- ☑ ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章 「管理者モードへのログイン」、50ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスにより、**[アプリケーション]**メニューに移動します。
- ▶ 機能バーの**[編集]**機能をタップします。
 - ⇒ ディスプレイに**[編集]**機能が緑色で強調表示されます。
- ▶ 編集するアプリケーションの名前をタップします。
 - ⇒ アプリケーションが緑色で強調表示されます。
- ▶ **[測定オプション]**アクションをタップします。
 - ⇒ ディスプレイに、選択可能な値を含んだダイアログボックスが表示されます。
- ▶ 値を選択します。
- ▶ **[OK]**ボタンをタップします。
 - ⇒ ダイアログが閉じます。
 - ⇒ 値が保存されます。

6.6.6 アプリケーションの説明の入力

手順：

ナビゲーションパス



条件:

- ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章「管理者モードへのログイン」、50ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスにより、[アプリケーション]メニューに移動します。
- ▶ 機能バーの[編集]機能をタップします。
 - ⇒ ディスプレイに[編集]機能が緑色で強調表示されます。
- ▶ 編集するアプリケーションの名前をタップします。
 - ⇒ アプリケーションが緑色で強調表示されます。
- ▶ [説明]アクションをタップします。
 - ⇒ ディスプレイに、英数字入力ボックスを含んだダイアログが表示されます。
- ▶ アプリケーションの説明を入力します。
- ▶ [OK]ボタンをタップします。
 - ⇒ ダイアログが閉じます。
 - ⇒ 説明が保存されます。

6.6.7 アプリケーションの回転設定の変更

アプリケーションには、測定中にサンプルを回転するかどうかを選択するオプションがあります。以下の設定が使用可能です。

モード	説明
はい	サンプルキャリアは測定中に回転します。
なし	サンプルキャリアは測定中に回転しません。

手順：

ナビゲーションパス



条件:

- ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章「管理者モードへのログイン」、50ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスにより、[アプリケーション]メニューに移動します。
- ▶ 機能バーの[編集]機能をタップします。
 - ⇒ ディスプレイに[編集]機能が緑色で強調表示されます。
- ▶ 編集するアプリケーションの名前をタップします。
 - ⇒ アプリケーションが緑色で強調表示されます。
- ▶ [回転]アクションをタップします。
 - ⇒ ディスプレイに、選択可能な値を含んだダイアログボックスが表示されます。
- ▶ 値を選択します。

- ▶ **[OK]**ボタンをタップします。
- ⇒ ダイアログが閉じます。
- ⇒ 値が保存されます。

6.6.8 アプリケーションの測定時間の変更

デフォルトの測定時間（15秒）では、1回サンプルを回転することができます。これ以下の短い測定時間では、サンプルの回転を完了できません。

手順：

ナビゲーションパス



条件:

- ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章 「管理者モードへのログイン」、50ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスにより、**[アプリケーション]**メニューに移動します。
- ▶ 機能バーの**[編集]**機能をタップします。
 - ⇒ ディスプレイに**[編集]**機能が緑色で強調表示されます。
- ▶ 編集するアプリケーションの名前をタップします。
 - ⇒ アプリケーションが緑色で強調表示されます。
- ▶ **[測定時間]**アクションをタップします。
 - ⇒ 数値入力ボックスを含んだダイアログボックスが表示されます。
- ▶ 値を数字入力フィールドに入力します。
- ▶ **[OK]**ボタンをタップします。
 - ⇒ ダイアログが閉じます。
 - ⇒ 時間の値が保存されます。

6.6.9 アプリケーションの標準操作手順（SOP）の入力

各アプリケーションに関連付けられた、オプションの標準操作手順（SOP）があります。標準操作手順（SOP）には、測定時にユーザーが従うべき指示が表示されます。

手順：

ナビゲーションパス



条件:

- ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章 「管理者モードへのログイン」、50ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスにより、**[アプリケーション]**メニューに移動します。
- ▶ 機能バーの**[編集]**機能をタップします。
 - ⇒ ディスプレイに**[編集]**機能が緑色で強調表示されます。
- ▶ 編集するアプリケーションの名前をタップします。
 - ⇒ アプリケーションが緑色で強調表示されます。
- ▶ **[SOP]**アクションをタップします。
 - ⇒ ディスプレイに、英数字入力ボックスを含んだダイアログが表示されます。
- ▶ アプリケーションに対してオペレーターが実行しなければならないステップを入力します。

- ▶ **[OK]**ボタンをタップします。
- ⇒ ダイアログが閉じます。
- ⇒ 説明が保存されます。

6.6.10 アプリケーションの選択可否の変更

操作中にユーザーがアプリケーションを選択できるかどうかを変更します。
以下のモードが使用可能です。

モード	説明
はい	アプリケーションを選択できます。
なし	アプリケーションを選択できません。

手順：

ナビゲーションパス



条件:

- ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章「管理者モードへのログイン」、50ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスにより、**[アプリケーション]**メニューに移動します。
- ▶ 機能バーの**[編集]**機能をタップします。
 - ⇒ ディスプレイに**[編集]**機能が緑色で強調表示されます。
- ▶ 編集するアプリケーションの名前をタップします。
 - ⇒ アプリケーションが緑色で強調表示されます。
- ▶ **[選択可能]**アクションをタップします。
 - ⇒ ディスプレイに、選択可能な値を含んだダイアログボックスが表示されます。
- ▶ 値を選択します。
- ▶ **[OK]**ボタンをタップします。
 - ⇒ ダイアログが閉じます。
 - ⇒ 値が保存されます。

6.7 アプリケーションの削除



備考

次の手順でアプリケーションが完全に削除されます。削除されたアプリケーションを復元することはできません。

アプリケーションの削除には2つの方法があります。

ダイアログ上のオプション

[はい]

- アプリケーションおよび関連するすべてのデータが削除されます。
 - アプリケーションを選択できなくなります。
 - 測定データは削除されます。
 - 運用記録は削除されます。
 - アプリケーションが記録したサンプルデータはすべて削除されます。

[いいえ]

- アプリケーションは削除され、関連するデータは保持されます。
 - アプリケーションを選択できなくなります。
 - 測定データは利用可能なままで、エクスポートすることもできます。
 - 運用記録は保持されます。
 - アプリケーションが記録したサンプルデータは、すべてそのまま利用できます。

手順：

ナビゲーションパス



条件:

ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章 「管理者モードへのログイン」、50ページを参照してください。

▶ ナビゲーションパスにより、**[アプリケーション]**メニューに移動します。

▶ 機能バーの**[編集]**機能をタップします。

⇒ ディスプレイに**[編集]**機能が緑色で強調表示されます。

▶ 削除したいアプリケーションの名前をタップします。

⇒ アプリケーションが緑色で強調表示されます。

▶ ファンクションバーにある**[削除]**をタップします。

▶ 削除しても良いか確認します。

⇒ 2つの削除モードを示すダイアログが表示されます。

▶ 削除モードを選択します。

6.8 プロパティの編集



備考

プロパティは、管理者モードでのみ編集できます。

6.8.1 新しいプロパティの作成

手順：

ナビゲーションパス



条件:

- ☑ ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章「管理者モードへのログイン」、50ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスにより、[アプリケーション]メニューに移動します。
- ▶ 機能バーの[編集]機能をタップします。
 - ⇒ ディスプレイに[編集]機能が緑色で強調表示されます。
- ▶ 編集するアプリケーションの名前をタップします。
 - ⇒ アプリケーションが緑色で強調表示されます。
- ▶ 使用可能なプロパティの1つをタップします。
 - ⇒ ディスプレイに**プロパティ**ビューが表示されます。
- ▶ 機能バーの[追加]機能をタップします。
 - ⇒ ディスプレイに、英数字入力ボックスを含んだダイアログが表示されます。
- ▶ プロパティの名前を入力します。
- ▶ [OK]ボタンをタップします。
 - ⇒ ダイアログが閉じます。
 - ⇒ 新しいプロパティが作成されます。

6.8.2 プロパティの名前の変更



備考

一度使用したプロパティの名前を変更することはできません。

手順：

ナビゲーションパス



条件:

- ☑ ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章「管理者モードへのログイン」、50ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスにより、[アプリケーション]メニューに移動します。
- ▶ 機能バーの[編集]機能をタップします。
 - ⇒ ディスプレイに[編集]機能が緑色で強調表示されます。
- ▶ 編集するアプリケーションの名前をタップします。
 - ⇒ アプリケーションが緑色で強調表示されます。
- ▶ 編集するプロパティの名前をタップします。
 - ⇒ ディスプレイに**プロパティ**ビューが表示されます。
- ▶ [名前]アクションをタップします。
 - ⇒ ディスプレイに、英数字入力ボックスを含んだダイアログが表示されます。
- ▶ プロパティの名前を入力します。

- ▶ **[OK]**ボタンをタップします。
- ⇒ ダイアログが閉じます。
- ⇒ 新しい名前が保存されます。

6.8.3 プロパティの別名の変更

別名機能により、以前に定義したプロパティにローカル名を付けることができます。
手順：

ナビゲーションパス



条件:

- ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章 「管理者モードへのログイン」、50 ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスにより、**[アプリケーション]**メニューに移動します。
- ▶ 機能バーの **[編集]** 機能をタップします。
 - ⇒ ディスプレイに **[編集]** 機能が緑色で強調表示されます。
- ▶ 編集するアプリケーションの名前をタップします。
 - ⇒ アプリケーションが緑色で強調表示されます。
- ▶ 編集するプロパティの名前をタップします。
 - ⇒ ディスプレイに **プロパティ**ビューが表示されます。
- ▶ **[エイリアス]**アクションをタップします。
 - ⇒ ディスプレイに、英数字入力ボックスを含んだダイアログが表示されます。
- ▶ プロパティの別名を入力します。
- ▶ **[OK]**ボタンをタップします。
 - ⇒ ダイアログが閉じます。
 - ⇒ 別名が保存されます。

6.8.4 プロパティの表示順の変更

表示順は、複数のプロパティがあるときに、アプリケーション内でプロパティが表示される順番を定義します。
手順：

ナビゲーションパス



条件:

- ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章 「管理者モードへのログイン」、50 ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスにより、**[アプリケーション]**メニューに移動します。
- ▶ 機能バーの **[編集]** 機能をタップします。
 - ⇒ ディスプレイに **[編集]** 機能が緑色で強調表示されます。
- ▶ 編集するアプリケーションの名前をタップします。
 - ⇒ アプリケーションが緑色で強調表示されます。
- ▶ 編集するプロパティの名前をタップします。
 - ⇒ ディスプレイに **プロパティ**ビューが表示されます。

- ▶ **[並び順]**アクションをタップします。
 - ⇒ 数値入力ボックスを含んだダイアログボックスが表示されます。
- ▶ 値を数字入力フィールドに入力します。
- ▶ **[OK]**ボタンをタップします。
 - ⇒ ダイアログが閉じます。
 - ⇒ 並べ替え順序の値が保存されます。

6.8.5 プロパティの予測内容の変更

予測内容の設定は、プロパティの追加設定項目にも関連します。
以下の設定が使用可能です。

予測タイプ	説明	使用可能な予測設定
[検量線モデル]	割り当てられた検量線モデルを使用して、スペクトルから測定項目を予測します。 検量線モデルにはケモトリックスの手法が使用されています。	<p>小数位。6.8.15章「プロパティの小数位の変更」、70ページを参照。</p> <p>単位。6.8.16章「プロパティの単位の変更」、70ページを参照。</p> <p>初期波長範囲。6.8.6章「初期波長範囲の変更（検量線モデルのみ）」、64ページを参照。</p> <p>予測内容。6.8.7章「予測内容の変更（検量線モデルのみ）」、64ページを参照。</p> <p>傾き。6.8.18章「プロパティの傾きの変更」、71ページを参照。</p> <p>バイアス。6.8.17章「プロパティのバイアスの変更」、71ページを参照。</p> <p>マハラノビス。6.8.19章「プロパティのマハラノビスの変更（検量線モデルのみ）」、72ページを参照。</p> <p>目標値。6.8.20章「プロパティの目標値の変更」、72ページを参照。</p> <p>最小許容値。6.8.24章「プロパティの最小許容値の変更」、74ページを参照。</p> <p>最大許容値。6.8.23章「プロパティの最大許容値の変更」、74ページを参照。</p> <p>最小下限。6.8.22章「プロパティの最小下限の変更」、73ページを参照。</p> <p>最大上限。6.8.21章「プロパティの最大上限の変更」、73ページを参照。</p>

予測タイプ	説明	使用可能な予測設定
[計算項目値]	他のプロパティから計算された定義済みプロパティを予測します。たとえば、乾物量 = 100 - 水分。	<p>小数位。6.8.15章「プロパティの小数位の変更」、70ページを参照。</p> <p>単位。6.8.16章「プロパティの単位の変更」、70ページを参照。</p> <p>式。6.8.10章「計算式の変更（計算項目値のみ）」、67ページを参照。</p> <p>傾き。6.8.18章「プロパティの傾きの変更」、71ページを参照。</p> <p>バイアス。6.8.17章「プロパティのバイアスの変更」、71ページを参照。</p> <p>目標値。6.8.20章「プロパティの目標値の変更」、72ページを参照。</p> <p>最小許容値。6.8.24章「プロパティの最小許容値の変更」、74ページを参照。</p> <p>最大許容値。6.8.23章「プロパティの最大許容値の変更」、74ページを参照。</p> <p>最小下限。6.8.22章「プロパティの最小下限の変更」、73ページを参照。</p> <p>最大上限。6.8.21章「プロパティの最大上限の変更」、73ページを参照。</p>

予測タイプ	説明	使用可能な予測設定
[色]	可視検出器を持つモデルのみ。 サンプルの色を測定します。	<p>小数位。6.8.15章「プロパティの小数位の変更」、70ページを参照。</p> <p>標準観察者。6.8.11章「標準観察者の変更（色のみ）」、67ページを参照。</p> <p>標準イルミネント。6.8.12章「標準イルミネントの変更（色のみ）」、68ページを参照。</p> <p>表色系。6.8.13章「表色系の変更（色のみ）」、68ページを参照。</p> <p>属性。6.8.14章「属性の変更（色のみ）」、69ページを参照。</p> <p>傾き。6.8.18章「プロパティの傾きの変更」、71ページを参照。</p> <p>バイアス。6.8.17章「プロパティのバイアスの変更」、71ページを参照。</p> <p>目標値。6.8.20章「プロパティの目標値の変更」、72ページを参照。</p> <p>最小許容値。6.8.24章「プロパティの最小許容値の変更」、74ページを参照。</p> <p>最大許容値。6.8.23章「プロパティの最大許容値の変更」、74ページを参照。</p> <p>最小下限。6.8.22章「プロパティの最小下限の変更」、73ページを参照。</p> <p>最大上限。6.8.21章「プロパティの最大上限の変更」、73ページを参照。</p>

手順：

ナビゲーションパス



条件:

- ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章「管理者モードへのログイン」、50ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスにより、[アプリケーション]メニューに移動します。
- ▶ 機能バーの[編集]機能をタップします。
 - ⇒ ディスプレイに[編集]機能が緑色で強調表示されます。
- ▶ 編集するアプリケーションの名前をタップします。
 - ⇒ アプリケーションが緑色で強調表示されます。
- ▶ 編集するプロパティの名前をタップします。
 - ⇒ ディスプレイに**プロパティ**ビューが表示されます。
- ▶ [予測内容]アクションをタップします。
 - ⇒ ディスプレイに、選択可能な値を含んだダイアログボックスが表示されます。
- ▶ 値を選択します。

- ▶ **[OK]**ボタンをタップします。
 - ⇒ ダイアログが閉じます。
 - ⇒ 値が保存されます。
- ▶ 必要に応じて、使用可能な予測設定を編集します。

6.8.6 初期波長範囲の変更（検量線モデルのみ）

初期校正の波長範囲を選択します。



備考

プロジェクトファイルの変更は、ここで行われた選択を置き換えます。

以下の設定が使用可能です。

波長タイプ	説明
[NIRのみ]	NIR波長範囲のみ（900 - 1700 nm）
[VISのみ]	VIS波長範囲のみ（400 - 900 nm）
[VIS NIR]	NIRとVISの波長範囲（400 - 1700 nm）

手順：

ナビゲーションパス



条件:

- ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章 「管理者モードへのログイン」、50 ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスにより、**[アプリケーション]**メニューに移動します。
- ▶ 機能バーの **[編集]** 機能をタップします。
 - ⇒ ディスプレイに **[編集]** 機能が緑色で強調表示されます。
- ▶ 編集するアプリケーションの名前をタップします。
 - ⇒ アプリケーションが緑色で強調表示されます。
- ▶ 編集するプロパティの名前をタップします。
 - ⇒ ディスプレイに **プロパティ**ビューが表示されます。
- ▶ **[初期波長範囲]**アクションをタップします。
 - ⇒ ディスプレイに、選択可能な値を含んだダイアログボックスが表示されます。
- ▶ 値を選択します。
- ▶ **[OK]**ボタンをタップします。
 - ⇒ ダイアログが閉じます。
 - ⇒ 値が保存されます。
 - ⇒ 初期波長範囲の値が保存されます。

6.8.7 予測内容の変更（検量線モデルのみ）

以下の設定が使用可能です。

事後予測タイプ	説明
[予測値]	計量化学モデルによって予測された値を計算します。
[残差]	モデルの適用可能性を示します。 残差は、測定スペクトルとモデルによって再構築されたスペクトルの差のRMS値です。

事後予測タイプ	説明
[マハラノビス距離]	マハラノビス計算に基づいて値を計算します。
[標準換算値]	検量線モデル予測値を別の水分含有量で得られた値に変換します。 この予測内容を使用するには、測定項目に水分が必要です。 参照： 6.8.8章 「検量線使用値の変更（検量線モデルのみ）」、65ページ 6.8.9章 「換算表示値の変更（検量線モデルのみ）」、66ページ

手順：

ナビゲーションパス



条件：

- ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章 「管理者モードへのログイン」、50ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスにより、[アプリケーション]メニューに移動します。
- ▶ 機能バーの [編集] 機能をタップします。
 - ⇒ ディスプレイに [編集] 機能が緑色で強調表示されます。
- ▶ 編集するアプリケーションの名前をタップします。
 - ⇒ アプリケーションが緑色で強調表示されます。
- ▶ 編集するプロパティの名前をタップします。
 - ⇒ ディスプレイに **プロパティ**ビューが表示されます。
- ▶ [予測内容]アクションをタップします。
 - ⇒ ディスプレイに、選択可能な値を含んだダイアログボックスが表示されます。
 - ▶ 値を選択します。
 - ▶ [OK]ボタンをタップします。
 - ⇒ ダイアログが閉じます。
 - ⇒ 値が保存されます。
 - ⇒ 値が保存されます。

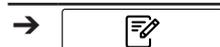
6.8.8 検量線使用値の変更（検量線モデルのみ）

以下の設定が使用可能です。

タイプ	説明
[乾物換算]	項目値はサンプル内の水分の存在を無視した値です。 計算から水分の寄与が引かれます。
[水分xx %]	項目値は、xx %の水分含有量を想定した値です。 水分は、重量パーセントとして表されます。
[現物]	項目値はサンプル内の水分の存在を含めた値です。 計算に水分の寄与が含まれます。

手順：

ナビゲーションパス



条件:

- ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章 「管理者モードへのログイン」、50 ページを参照してください。
- 事後予測タイプ **[標準換算値]** が選択されます。
 - ▶ ナビゲーションパスにより、**[アプリケーション]**メニューに移動します。
 - ▶ 機能バーの **[編集]** 機能をタップします。
 - ⇒ ディスプレイに **[編集]** 機能が緑色で強調表示されます。
 - ▶ 編集するアプリケーションの名前をタップします。
 - ⇒ アプリケーションが緑色で強調表示されます。
 - ▶ 編集するプロパティの名前をタップします。
 - ⇒ ディスプレイに **プロパティ**ビューが表示されます。
 - ▶ **[検量線使用値]**アクションをタップします。
 - ⇒ ディスプレイに、選択可能な値を含んだダイアログボックスが表示されます。
 - ▶ 値を選択します。
 - ▶ **[OK]**ボタンをタップします。
 - ⇒ ダイアログが閉じます。
 - ⇒ 値が保存されます。
 - ⇒ 検量線使用値の値が保存されます。

6.8.9 換算表示値の変更（検量線モデルのみ）

以下の設定が使用可能です。

タイプ	説明
[乾物換算]	項目値はサンプル内の水分の存在を無視した値です。 計算から水分の寄与が引かれます。
[水分xx %]	項目値は、xx %の水分含有量を想定した値です。 水分は、重量パーセントとして表されます。
[現物]	項目値はサンプル内の水分の存在を含めた値です。 計算に水分の寄与が含まれます。

手順:

ナビゲーションパス



条件:

- ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章 「管理者モードへのログイン」、50 ページを参照してください。
- 事後予測タイプ **[標準換算値]** が選択されます。
 - ▶ ナビゲーションパスにより、**[アプリケーション]**メニューに移動します。
 - ▶ 機能バーの **[編集]** 機能をタップします。
 - ⇒ ディスプレイに **[編集]** 機能が緑色で強調表示されます。
 - ▶ 編集するアプリケーションの名前をタップします。
 - ⇒ アプリケーションが緑色で強調表示されます。
 - ▶ 編集するプロパティの名前をタップします。
 - ⇒ ディスプレイに **プロパティ**ビューが表示されます。

- ▶ **[換算表示値]**アクションをタップします。
 - ⇒ ディスプレイに、選択可能な値を含んだダイアログボックスが表示されます。
- ▶ 値を選択します。
- ▶ **[OK]**ボタンをタップします。
 - ⇒ ダイアログが閉じます。
 - ⇒ 値が保存されます。
 - ⇒ 換算表示値の値が保存されます。

6.8.10 計算式の変更（計算項目値のみ）

予測の計算式。

計算式の入力方法を決めます。10.3章「計算式入力ルール」、110ページを参照。

手順：

ナビゲーションパス



条件:

- ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章「管理者モードへのログイン」、50ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスにより、**[アプリケーション]**メニューに移動します。
- ▶ 機能バーの**[編集]**機能をタップします。
 - ⇒ ディスプレイに**[編集]**機能が緑色で強調表示されます。
- ▶ 編集するアプリケーションの名前をタップします。
 - ⇒ アプリケーションが緑色で強調表示されます。
- ▶ 編集するプロパティの名前をタップします。
 - ⇒ ディスプレイに**プロパティ**ビューが表示されます。
- ▶ **[計算式]**アクションをタップします。
 - ⇒ ディスプレイに、英数字入力ボックスを含んだダイアログが表示されます。
- ▶ 計算式を入力します。
- ▶ **[OK]**ボタンをタップします。
 - ⇒ ダイアログが閉じます。
 - ⇒ 計算式が保存されます。

6.8.11 標準観察者の変更（色のみ）

国際規格CIE 1931/CIE 1964に対応した使用可能な設定。

手順：

ナビゲーションパス



条件:

- ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章「管理者モードへのログイン」、50ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスにより、**[アプリケーション]**メニューに移動します。
- ▶ 機能バーの**[編集]**機能をタップします。
 - ⇒ ディスプレイに**[編集]**機能が緑色で強調表示されます。

- ▶ 編集するアプリケーションの名前をタップします。
 - ⇒ アプリケーションが緑色で強調表示されます。
- ▶ 編集するプロパティの名前をタップします。
 - ⇒ ディスプレイに **プロパティ**ビューが表示されます。
- ▶ **[標準観察者]**アクションをタップします。
 - ⇒ ディスプレイに、選択可能な値を含んだダイアログボックスが表示されます。
- ▶ 値を選択します。
- ▶ **[OK]**ボタンをタップします。
 - ⇒ ダイアログが閉じます。
 - ⇒ 値が保存されます。
 - ⇒ 選択した標準観察者が保存されます。

6.8.12 標準イルミネントの変更 (色のみ)

国際規格ISO 11664-2:2007 / CIE S 014-2:2006に対応した使用可能な設定。

手順：

ナビゲーションパス



条件:

- ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章 「管理者モードへのログイン」、50ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスにより、**[アプリケーション]**メニューに移動します。
- ▶ 機能バーの **[編集]**機能をタップします。
 - ⇒ ディスプレイに **[編集]**機能が緑色で強調表示されます。
- ▶ 編集するアプリケーションの名前をタップします。
 - ⇒ アプリケーションが緑色で強調表示されます。
- ▶ 編集するプロパティの名前をタップします。
 - ⇒ ディスプレイに **プロパティ**ビューが表示されます。
- ▶ **[標準イルミネント]**アクションをタップします。
 - ⇒ 数値入力ボックスを含んだダイアログボックスが表示されます。
- ▶ 値を数字入力フィールドに入力します。
- ▶ **[OK]**ボタンをタップします。
 - ⇒ ダイアログが閉じます。
 - ⇒ 選択した標準イルミネントが保存されます。

6.8.13 表色系の変更 (色のみ)

以下の設定が使用可能です。

タイプ	説明
[Lab]	表色系をL*a*b色空間で計算します。
[LCh]	表色系をL*C*h色空間で計算します。
[XYZ]	値をXYZ色空間で計算します。

手順：

ナビゲーションパス



条件:

- ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章「管理者モードへのログイン」、50ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスにより、[アプリケーション]メニューに移動します。
- ▶ 機能バーの[編集]機能をタップします。
 - ⇒ ディスプレイに[編集]機能が緑色で強調表示されます。
- ▶ 編集するアプリケーションの名前をタップします。
 - ⇒ アプリケーションが緑色で強調表示されます。
- ▶ 編集するプロパティの名前をタップします。
 - ⇒ ディスプレイに**プロパティ**ビューが表示されます。
- ▶ [表色系]アクションをタップします。
 - ⇒ 数値入力ボックスを含んだダイアログボックスが表示されます。
- ▶ 値を数字入力フィールドに入力します。
- ▶ [OK]ボタンをタップします。
 - ⇒ ダイアログが閉じます。
 - ⇒ 選択した表色系が保存されます。

6.8.14 属性の変更（色のみ）

使用可能なオプションは、6.8.13章「表色系の変更（色のみ）」、68ページで選択された表色系に依存します。

手順:

ナビゲーションパス



条件:

- ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章「管理者モードへのログイン」、50ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスにより、[アプリケーション]メニューに移動します。
- ▶ 機能バーの[編集]機能をタップします。
 - ⇒ ディスプレイに[編集]機能が緑色で強調表示されます。
- ▶ 編集するアプリケーションの名前をタップします。
 - ⇒ アプリケーションが緑色で強調表示されます。
- ▶ 編集するプロパティの名前をタップします。
 - ⇒ ディスプレイに**プロパティ**ビューが表示されます。
- ▶ [属性]アクションをタップします。
 - ⇒ ディスプレイに、選択可能な値を含んだダイアログボックスが表示されます。
- ▶ 値を選択します。
- ▶ [OK]ボタンをタップします。
 - ⇒ ダイアログが閉じます。
 - ⇒ 値が保存されます。
 - ⇒ 選択した属性が保存されます。

6.8.15 プロパティの小数位の変更

プロパティによって表示される小数点以下の桁数。
手順：

ナビゲーションパス



条件:

- ☑ ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章 「管理者モードへのログイン」、50 ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスにより、**[アプリケーション]**メニューに移動します。
- ▶ 機能バーの**[編集]**機能をタップします。
 - ⇒ ディスプレイに**[編集]**機能が緑色で強調表示されます。
- ▶ 編集するアプリケーションの名前をタップします。
 - ⇒ アプリケーションが緑色で強調表示されます。
- ▶ 編集するプロパティの名前をタップします。
 - ⇒ ディスプレイに**プロパティ**ビューが表示されます。
- ▶ **[小数の桁数]**アクションをタップします。
 - ⇒ 数値入力ボックスを含んだダイアログボックスが表示されます。
 - ▶ 値を数字入力フィールドに入力します。
 - ▶ **[OK]**ボタンをタップします。
 - ⇒ ダイアログが閉じます。
 - ⇒ 小数位の値が保存されます。

6.8.16 プロパティの単位の変更



備考

特殊文字

- ▶ 英数字入力ボックスの**[シフト]**ボタンをタップします。
 - ⇒ 英数字入力ボックスに、使用可能な特殊文字が表示されます。

ナビゲーションパス



条件:

- ☑ ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章 「管理者モードへのログイン」、50 ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスにより、**[アプリケーション]**メニューに移動します。
- ▶ 機能バーの**[編集]**機能をタップします。
 - ⇒ ディスプレイに**[編集]**機能が緑色で強調表示されます。
- ▶ 編集するアプリケーションの名前をタップします。
 - ⇒ アプリケーションが緑色で強調表示されます。
- ▶ 編集するプロパティの名前をタップします。
 - ⇒ ディスプレイに**プロパティ**ビューが表示されます。
- ▶ **[単位]**アクションをタップします。
 - ⇒ ディスプレイに、英数字入力ボックスを含んだダイアログが表示されます。

- ▶ プロパティの単位を入力します。
- ▶ **[OK]**ボタンをタップします。
 - ⇒ ダイアログが閉じます。
 - ⇒ 単位が保存されます。

6.8.17 プロパティのバイアスの変更

バイアスは、定数値です。
この値は、予測値と参照値の一定偏差を補正するために、予測結果に加算されます。

手順：

ナビゲーションパス



条件:

- ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章「管理者モードへのログイン」、50ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスにより、**[アプリケーション]**メニューに移動します。
- ▶ 機能バーの**[編集]**機能をタップします。
 - ⇒ ディスプレイに**[編集]**機能が緑色で強調表示されます。
- ▶ 編集するアプリケーションの名前をタップします。
 - ⇒ アプリケーションが緑色で強調表示されます。
- ▶ 編集するプロパティの名前をタップします。
 - ⇒ ディスプレイに**プロパティ**ビューが表示されます。
- ▶ **[バイアス]**アクションをタップします。
 - ⇒ 操作ユニットは数字入力フィールド付きのダイアログを表示します。
- ▶ 値を数字入力フィールドに入力します。
- ▶ **[OK]**ボタンをタップします。
 - ⇒ ダイアログが閉じます。
 - ⇒ バイアスの値が保存されます。

6.8.18 プロパティの傾きの変更

傾きは、測定結果と参照値の比例系統誤差を補正するために使用される係数です。

手順：

ナビゲーションパス



条件:

- ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章「管理者モードへのログイン」、50ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスにより、**[アプリケーション]**メニューに移動します。
- ▶ 機能バーの**[編集]**機能をタップします。
 - ⇒ ディスプレイに**[編集]**機能が緑色で強調表示されます。
- ▶ 編集するアプリケーションの名前をタップします。
 - ⇒ アプリケーションが緑色で強調表示されます。

- ▶ 編集するプロパティの名前をタップします。
- ⇒ ディスプレイに **プロパティ**ビューが表示されます。
- ▶ **[傾き]**アクションをタップします。
- ⇒ 操作ユニットは数字入力フィールド付きのダイアログを表示します。
- ▶ 値を数字入力フィールドに入力します。
- ▶ **[OK]**ボタンをタップします。
- ⇒ ダイアログが閉じます。
- ⇒ 傾きの値が保存されます。

6.8.19 プロパティのマハラノビスの変更（検量線モデルのみ）

マハラノビス距離は、測定されたスペクトルと検量線モデルに使用されるデータセットの間のスペクトルの類似性の尺度です。

手順：

ナビゲーションパス



条件:

- ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章「管理者モードへのログイン」、50ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスにより、**[アプリケーション]**メニューに移動します。
- ▶ 機能バーの **[編集]**機能をタップします。
- ⇒ ディスプレイに **[編集]**機能が緑色で強調表示されます。
- ▶ 編集するアプリケーションの名前をタップします。
- ⇒ アプリケーションが緑色で強調表示されます。
- ▶ 編集するプロパティの名前をタップします。
- ⇒ ディスプレイに **プロパティ**ビューが表示されます。
- ▶ **[マハラノビス]**アクションをタップします。
- ⇒ 操作ユニットは数字入力フィールド付きのダイアログを表示します。
- ▶ 値を数字入力フィールドに入力します。
- ▶ **[OK]**ボタンをタップします。
- ⇒ ダイアログが閉じます。
- ⇒ マハラノビスの値が保存されます。

6.8.20 プロパティの目標値の変更

目標値を設定します。許容値は、目標値と相対的に考慮されます。

手順：

ナビゲーションパス



条件:

- ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章「管理者モードへのログイン」、50ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスにより、**[アプリケーション]**メニューに移動します。
- ▶ 機能バーの **[編集]**機能をタップします。
- ⇒ ディスプレイに **[編集]**機能が緑色で強調表示されます。

- ▶ 編集するアプリケーションの名前をタップします。
 - ⇒ アプリケーションが緑色で強調表示されます。
- ▶ 編集するプロパティの名前をタップします。
 - ⇒ ディスプレイに **プロパティ**ビューが表示されます。
- ▶ **[目標値]**アクションをタップします。
 - ⇒ 操作ユニットは数字入力フィールド付きのダイアログを表示します。
- ▶ 値を数字入力フィールドに入力します。
- ▶ **[OK]**ボタンをタップします。
 - ⇒ ダイアログが閉じます。
 - ⇒ 目標値が保存されます。

6.8.21 プロパティの最大上限の変更

プロパティの上限を設定します。

手順：

ナビゲーションパス



条件:

- ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章「管理者モードへのログイン」、50ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスにより、**[アプリケーション]**メニューに移動します。
- ▶ 機能バーの **[編集]** 機能をタップします。
 - ⇒ ディスプレイに **[編集]** 機能が緑色で強調表示されます。
- ▶ 編集するアプリケーションの名前をタップします。
 - ⇒ アプリケーションが緑色で強調表示されます。
- ▶ 編集するプロパティの名前をタップします。
 - ⇒ ディスプレイに **プロパティ**ビューが表示されます。
- ▶ **[最大上限]**アクションをタップします。
 - ⇒ 操作ユニットは数字入力フィールド付きのダイアログを表示します。
- ▶ 値を数字入力フィールドに入力します。
- ▶ **[OK]**ボタンをタップします。
 - ⇒ ダイアログが閉じます。
 - ⇒ 最大上限の値が保存されます。

6.8.22 プロパティの最小下限の変更

プロパティの下限を設定します。

手順：

ナビゲーションパス



条件:

- ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章「管理者モードへのログイン」、50ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスにより、**[アプリケーション]**メニューに移動します。

- ▶ 機能バーの **[編集]** 機能をタップします。
 - ⇒ ディスプレイに **[編集]** 機能が緑色で強調表示されます。
- ▶ 編集するアプリケーションの名前をタップします。
 - ⇒ アプリケーションが緑色で強調表示されます。
- ▶ 編集するプロパティの名前をタップします。
 - ⇒ ディスプレイに **プロパティ**ビューが表示されます。
- ▶ **[最小下限]**アクションをタップします。
 - ⇒ 操作ユニットは数字入力フィールド付きのダイアログを表示します。
- ▶ 値を数字入力フィールドに入力します。
- ▶ **[OK]**ボタンをタップします。
 - ⇒ ダイアログが閉じます。
 - ⇒ 最小下限の値が保存されます。

6.8.23 プロパティの最大許容値の変更

許容値は目標値からの差です。
 目標に対して相対的な上限許容値を設定します。
 手順：

ナビゲーションパス



条件:

- ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章 「管理者モードへのログイン」、50 ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスにより、**[アプリケーション]**メニューに移動します。
- ▶ 機能バーの **[編集]** 機能をタップします。
 - ⇒ ディスプレイに **[編集]** 機能が緑色で強調表示されます。
- ▶ 編集するアプリケーションの名前をタップします。
 - ⇒ アプリケーションが緑色で強調表示されます。
- ▶ 編集するプロパティの名前をタップします。
 - ⇒ ディスプレイに **プロパティ**ビューが表示されます。
- ▶ **[最大許容値]**アクションをタップします。
 - ⇒ 操作ユニットは数字入力フィールド付きのダイアログを表示します。
- ▶ 値を数字入力フィールドに入力します。
- ▶ **[OK]**ボタンをタップします。
 - ⇒ ダイアログが閉じます。
 - ⇒ 許容値が保存されます。

6.8.24 プロパティの最小許容値の変更

許容値は目標値からの差です。
 目標に対して相対的な下限許容値を設定します。
 手順：

ナビゲーションパス



条件:

- ☑ ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章「管理者モードへのログイン」、50ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスにより、[アプリケーション]メニューに移動します。
- ▶ 機能バーの[編集]機能をタップします。
 - ⇒ ディスプレイに[編集]機能が緑色で強調表示されます。
- ▶ 編集するアプリケーションの名前をタップします。
 - ⇒ アプリケーションが緑色で強調表示されます。
- ▶ 編集するプロパティの名前をタップします。
 - ⇒ ディスプレイに**プロパティ**ビューが表示されます。
- ▶ [最小許容値]アクションをタップします。
 - ⇒ 操作ユニットは数字入力フィールド付きのダイアログを表示します。
- ▶ 値を数字入力フィールドに入力します。
- ▶ [OK]ボタンをタップします。
 - ⇒ ダイアログが閉じます。
 - ⇒ 許容値が保存されます。

6.9 プロパティの削除



備考

測定に使用したプロパティを削除することはできません。

手順:

ナビゲーションパス



条件:

- ☑ ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章「管理者モードへのログイン」、50ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスにより、[アプリケーション]メニューに移動します。
- ▶ 機能バーの[編集]機能をタップします。
 - ⇒ ディスプレイに[編集]機能が緑色で強調表示されます。
- ▶ 編集するアプリケーションの名前をタップします。
 - ⇒ アプリケーションが緑色で強調表示されます。
- ▶ 削除するプロパティの名前をタップします。
 - ⇒ アプリケーションが緑色で強調表示されます。
- ▶ 機能バーの[削除]機能をタップします。
- ▶ 確認の質問に対して[はい]を選択して、アクションを確定します。
 - ⇒ プロパティが削除されます。

6.10 測定の実行



備考

バーコード/サンプルID/順番/注記

サンプルのバーコード、サンプルID、順番、注記は測定プロセス中にいつでも編集できます。

- ▶ 章「サンプルIDの挿入」、39ページを参照
- ▶ 章「バーコードの挿入」、40ページを参照
- ▶ 章「注記の挿入」、40ページを参照
- ▶ 章「順番の挿入」、40ページを参照
- ▶ 章「サンプルIDの自動増分接頭辞の挿入」、39ページを参照



備考

試験サンプルを生産に戻すと、汚染の原因になることがあります。

- ▶ 試験サンプルを生産に戻さないでください。



備考

汚染または欠陥のある測定オプション

汚染または欠陥のある測定オプションは、測定エラーの原因になります。

- ▶ 欠陥のある測定オプションを使用しないでください。
- ▶ 測定オプションが清潔であることを確認してください。



備考

サンプルの入れ過ぎによる正しくない測定結果

容器にサンプルを入れ過ぎるとサンプルがこぼれることがあります。このサンプルが測定ウィンドウに堆積して、正しくない測定結果を生じることがあります。

- ▶ サンプルを容器に入れ過ぎないでください。

6.10.1 装置の準備

所要時間：最大30分

条件:

- すべての試運転操作は完了しています。5章「設置」、21ページを参照。
- すべての試運転操作は完了しています。
- ▶ **電源**スイッチをタップします。
 - ⇒ 本システムが起動します。
 - ⇒ ステータスバーが黄色に強調表示されます。
 - ⇒ 起動フェーズが完了すると、ステータスバーが黄色から黒に変わります。

6.10.2 測定の開始

ナビゲーションパス



条件:

- 本機の準備は完了しています。6.10.1章「装置の準備」、76ページを参照。

- ▶ ナビゲーションパスにより、[アプリケーション]メニューに移動します。
- ▶ 使用するアプリケーションをタップします。
 - ⇒ アプリケーションが緑色で強調表示されます。
- ▶ 機能バーの[選択]機能をタップします。
 - ⇒ ディスプレイが[開始]メニューに変わります。
- ▶ アプリケーションの要件に従って、サンプルを測定エリアに置きます。
- ▶ [コントロール]ボタンをタップします。
 - ⇒ 装置が測定を実行します。
 - ⇒ ステータスバーに **測定中**ステータスが表示されます。

6.10.3 測定の終了

条件:

- コントロールボタンに、測定が完了したステータスの1つが表示されます。
- ▶ コントロールボタンの記号は、サンプルがどの仕様カテゴリに該当するかを示します。以下の仕様カテゴリがあります。

仕様カテゴリ	説明は章「コントロールボタン」、38ページを参照	説明は6.10.4章「測定結果」、77ページを参照
仕様範囲内	x	x
許容値	x	x
限界	x	x

- ▶ サンプルが該当する仕様に従って続行します。

仕様範囲内	許容値	限界
▶ 機能バーで[確定]機能をタップします。 ⇒ 測定値が保存されます。	▶ コントロールボタンをタップします。 ▶ 機能バーで[確定]機能をタップします。 ⇒ 測定値が保存されます。	▶ コントロールボタンをタップします。 ▶ 機能バーで[確定]機能をタップします。 ⇒ 測定値が保存されます。

予測の詳細と履歴

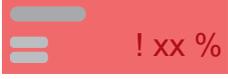
条件:

- 予測はホーム画面に表示されます。
- ▶ プロパティの1つをタップします。
 - ⇒ 現在の測定の詳細な予測情報と、同じアプリケーションで測定された直近の7つのサンプルに関する同じ情報が表示されます。
- ▶ [OK]をタップしてウィンドウを閉じます。

6.10.4 測定結果

測定結果は、測定後に **開始**メニューに表示されます。

測定結果	説明
	● テストされたサンプルは仕様の範囲内です。
	● 検量線モデルがありません。

測定結果	説明
	<ul style="list-style-type: none"> マハラノビス異常値
	<ul style="list-style-type: none"> 予測値がキャリブレーションの範囲外です。
	<ul style="list-style-type: none"> 予測値が設定された限界の範囲外です。
	<ul style="list-style-type: none"> 予測値が許容値の範囲外です。

6.10.5 装置のシャットダウン

ナビゲーションパス



- ▶ ナビゲーションパスに従って、メニュー[スタート]に移動します。
 - ▶ 機能バーの [スイッチオフ] 機能をタップします。
 - ▶ 確認の質問に対して はい で応答します。
- ⇒ 本機がシャットダウンされます。

6.11 メタデータフィールドの値の編集 (サンプルID、順番、注記)



備考

順番フィールドと注記フィールドのラベルは、5.6.6章「順番フィールドと注記フィールドのラベルを変更」、29ページに従った設定に応じて異なる場合があります。

この操作を実行すると、データベースと履歴メニューの値が変更されます。



備考

新しい値は、変更後に作成されたレポートとエクスポートに適用されます。変更前に作成されたレポートとエクスポートは再作成されません。

ナビゲーションパス



条件:

- ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章「管理者モードへのログイン」、50ページを参照してください。
 - ▶ サンプルを選択します。
 - ▶ 機能バーの [編集] 機能をタップします。
 - ▶  ボタンをタップします。
 - ▶ 値を変更するメタデータフィールドを選択し、このボタンをタップします。
- ⇒ コントロールパネルに、英数字入力ボックスを含むダイアログが表示されます。
- ▶ 新しい値を入力します。
 - ▶ [OK] ボタンをタップします。
 - ▶ 必要に応じて、他のメタデータフィールドについてもこの手順を繰り返します。
 - ▶ [保存] ボタンをタップします。

6.12 参照値の入力

ナビゲーションパス

→  → [履歴]

このセクションで使用する機能バーの記号：



[編集]

選択された項目の編集を可能にします。



[検量線モデル
に追加]

選択した項目を検量線モデルに追加します。

条件:

- ソフトウェアは管理者モードになっています。
- サンプルを装置で測定し、適切に固有のラベルを付けています。
- サンプルの参照値は主要な方法で判定しています。
- ▶ ナビゲーションパスで[履歴]メニューに移動します。
- ▶ 機能バーの [編集] 機能をタップします。
 - ⇒ ディスプレイに [編集] 機能が緑色で強調表示されます。
- ▶ 削除したい測定の名前をタップします。
 - ⇒ サンプルは緑色で強調され、その測定のプロパティの詳細が画面右側に表示されます。
- ▶ 編集したいプロパティをタップします。
 - ⇒ 数値入力ボックスを含んだダイアログボックスが表示されます。
- ▶ 必要な参照値を入力します。
- ▶ [OK]ボタンをタップします。
 - ⇒ 参照値が設定されます。
- ▶ 必要に応じてその他のパラメータの参照値を入力します。
- ▶ [検量線モデルに追加]ボタンをタップします。
 - ⇒ そのボタンは緑色で強調され、その測定がAutoCalのために有効化されます。
- ▶ 検量線に使用したいサンプルすべてにこの手順を繰り返します。

6.12.1 Excelテンプレートでの手分析値のインポート

ナビゲーションパス

→  → [履歴]

このセクションで使用する機能バーの記号：

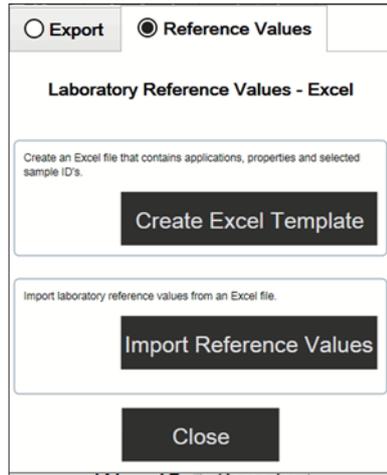


[エクスポート]

選択されているデータをエクスポートできます。

条件:

- ソフトウェアは管理者モードになっています。
- サンプルを装置で測定し、適切に固有のラベルを付けています。
- サンプルの参照値は主要な方法で判定しています。
- ▶ ナビゲーションパスで[履歴]メニューに移動します。
- ▶ 関連する測定値（新しい参照値が利用可能なもの）を選択します。サンプルを複数選択する方法は *Quick Guide ProxiMate – Exports and reports* を参照してください。
- ▶ 機能バーにある [エクスポート] をタップします。
 - ⇒ 画面に、ダイアログが表示されます。



- ▶ **参照値**タブを選択します。
- ▶ **[Excelテンプレートの作成]**ボタンを選択します。
 - ⇒ 画面に、ウィンドウメニューが表示されます。
- ▶ ニーズに合わせて保存場所を選択します。テンプレートファイル名を変更してはいけません。
- ▶ **[保存]**ボタンをタップします。
 - ⇒ 画面に、テンプレートが作成され保存されたことの確認が表示されます。
- ▶ **[OK]**ボタンをタップします。
 - ⇒ テンプレートがエクスポートされます。
- ▶ そのテンプレートはPCの信頼できる場所に移すか、保護モードで開きます。
- ▶ Excelでそのテンプレートを開き、参照値を入力します。
- ▶ 参照値が入ったテンプレートを安全に保存します。
- ▶ テンプレートはUSBまたはProxiMateにコピーします。
- ▶ ナビゲーションパスで**履歴**メニューに移動します。
- ▶ 機能バーにある**[インポート]**機能をタップします。
 - ⇒ 画面に、ダイアログが表示されます。
- ▶ **参照値**タブを選択します。
- ▶ **[手分析値のインポート]**アクションを選択します。
 - ⇒ 画面に、**ファイルを開く**ダイアログが表示されます。
- ▶ インポートしたいファイルを選択します。
- ▶ **[OK]**ボタンをタップします。
 - ⇒ 画面に、インポートされた参照値の数を示す確認が表示されます。
- ⇒ 参照値は、インポートされ、関連するサンプルの測定情報に表示されます。

6.13 検量線モデルを作成または更新するAutoCalの実行

ナビゲーションパス

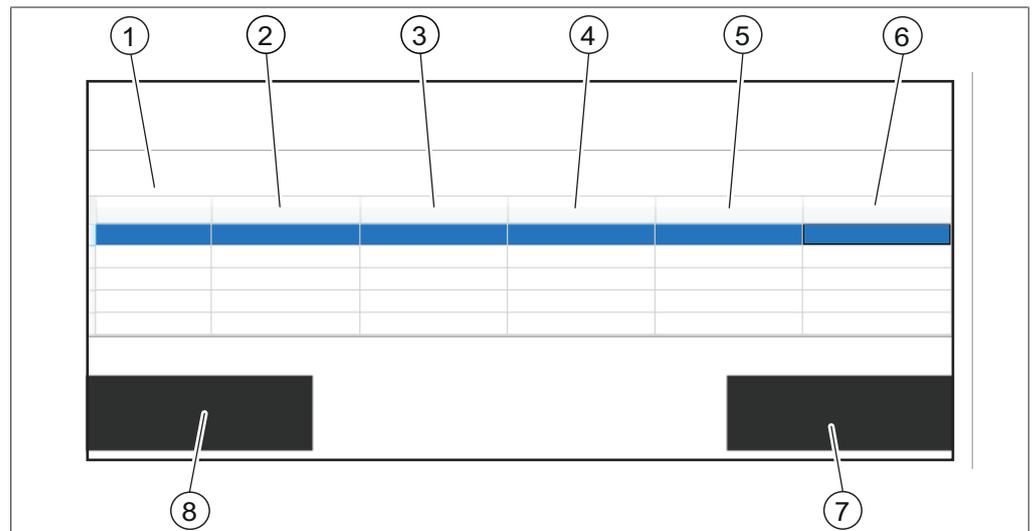


このセクションで使用する機能バーの記号：



条件:

- ☑ ソフトウェアは管理者モードになっています。
- ☑ 3つ以上のサンプルの参照値が選択したアプリケーションとパラメータに対して[履歴]メニューに設定され、3つ以上の参照値は異なるものです。
- ▶ ナビゲーションパスで[履歴]メニューに移動します。
- ▶ 検量線に追加したい測定値の1つに移動します。
- ▶ 測定をタップします。
 - ⇒ サンプルは緑色で強調され、その測定のプロパティの詳細が画面右側に表示されます。
- ▶ 機能バーにある[AutoCal]ボタンをタップします。
 - ⇒ 画面に、選択したアプリケーションの全プロパティを一覧したダイアログが表示されます
- ▶ 更新の必要がないプロパティはすべて選択を解除します。
- ▶ [OK]で確認します。
 - ⇒ 画面に、**検量線を更新中**ダイアログが表示されます。
 - ⇒ 検量線処理が終了すると、画面に、**検量線を承認**ダイアログが表示されます。
- ▶ 拡張前後の検量線モデルを比較します。
- ▶ 新しい検量線モデルを[承認]または[拒否]します。
 - ⇒ 新しい検量線モデルが承認されると、古い検量線モデルは置き換えられ、検量線フォルダの履歴フォルダに保管されます。
 - ⇒ 新しい検量線モデルが拒否されると、古い検量線モデルはそのまま残ります。



- | | | | |
|---|---------------|---|------------------------|
| 1 | 統計パラメータの名前 | 2 | 更新前の統計パラメータの値 |
| 3 | 更新後の統計パラメータの値 | 4 | 最後のn (デフォルトは5) 回の測定のID |
| 5 | 更新前の予測値 | 6 | 更新後の予測値 |
| 7 | ボタン[承認] | 8 | ボタン[拒否] |

6.13.1 検量線要約を開く統計情報の確認

ナビゲーションパス

→  → [開始]

このセクションで使用する機能バーの記号：



[選択]

マークされたアプリケーション
を選択します。

条件:

- 1つ以上のアプリケーションがNIRWiseにアップロードされています。
- ▶ ナビゲーションパスで[開始]メニューに移動します。
- ▶ [アプリケーション]ボタンをタップします。
 - ⇒ [アプリケーション]メニューが開かれます。
- ▶ 目的のアプリケーションをタップします。
 - ⇒ そのアプリケーションが緑色で強調されます。
- ▶ 機能バーにある[選択]ボタンで確認します。
 - ⇒ メニューは[開始]メニューに戻り、選択したアプリケーションが右下側に表示されます。
- ▶ 目的のプロパティをタップします。
 - ⇒ 画面に、このプロパティの検量線要約を含んだダイアログボックスが表示されます。
- ▶ [OK]で確認してダイアログボックスを閉じます。

6.14 インポートとエクスポート

6.14.1 測定データのエクスポート

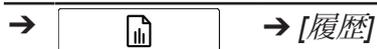
エクスポートの作成

NIRWise内のエクスポートの種類:

- tsv: ケモメトリクスソフトウェアNIRWise Plusで使用される形式。測定値、参照値およびスペクトルデータを含みます。
- jdx: 一般的なエクスポート形式。
- csv: 測定値およびオプションとしてメタデータならびに参照値および/またはスペクトルデータを含みます。

単一サンプルのエクスポート作成

ナビゲーションパス



このセクションで使用する機能バーの記号:

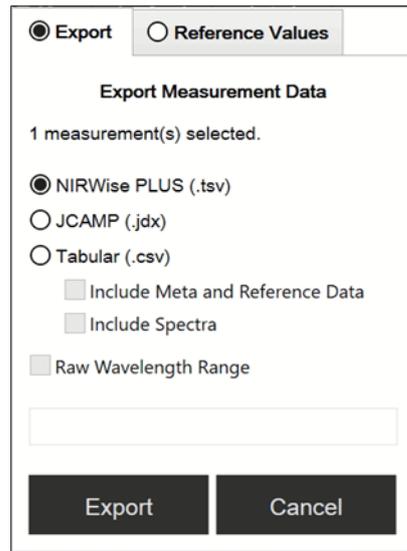


[エクスポート]

選択されているデータをエクスポート
できます。

条件:

- ソフトウェアは管理者モードになっています。
- 1つ以上の測定が履歴メニューで利用可能になっています。
- ▶ ナビゲーションパスで履歴メニューに移動します。
- ▶ エクスポートしたい測定に移動し、それをタップします。
 - ⇒ 画面に、その測定が緑色で強調されます。
- ▶ 機能バーにある[エクスポート]機能をタップします。
 - ⇒ 画面に、**エクスポート**メニューが表示されます。



- ▶ エクスポートしたいファイル形式を選択します。
- ▶ **[エクスポート]** ボタンをタップします。
- ⇒ 画面に、エクスポート成功を確認するダイアログボックスが表示されます。

同じアプリケーションの複数サンプルのエクスポート作成

ナビゲーションパス

→  → **[履歴]**

このセクションで使用する機能バーの記号：

	[エクスポート]	選択されているデータをエクスポートできます。
	[複数選択]	測定の複数選択を有効にします。

条件:

- ソフトウェアは管理者モードになっています。
- 同じアプリケーションから2つ以上の測定が**履歴**メニューで利用可能になっています。
- ▶ ナビゲーションパスで**履歴**メニューに移動します。
- ▶ エクスポートしたい測定の1つに移動し、それをタップします。
- ⇒ 画面に、その測定が緑色で強調されます。
- ▶ 機能バーにある**[複数選択]** ボタンをタップします。
- ⇒ サンプルビューに、選択したアプリケーションの測定のみが表示され、**[複数選択]** ボタンが緑色で強調されます。
- ▶ エクスポートしたいその他すべてのサンプルをタップします。
- ⇒ 選択したすべてのサンプルが緑色で強調されます。
- ▶ 機能バーにある**[エクスポート]** 機能をタップします。
- ⇒ 画面に、**エクスポート**メニューが表示されます。
- ▶ エクスポートしたいファイル形式を選択します。
- ▶ **[エクスポート]** ボタンをタップします。
- ⇒ 画面に、エクスポート成功を確認するダイアログボックスが表示されます。

同じアプリケーションのサンプルすべてのエクスポート作成

ナビゲーションパス

→  → [履歴]

このセクションで使用する機能バーの記号：

	[エクスポート]	選択されているデータをエクスポートできます。
	[複数選択]	測定の複数選択を有効にします。
	[すべて選択]	リスト内のすべての測定を選択します。
		注意事項 複数選択が有効な場合のみ使用できます。

条件:

- ソフトウェアは管理者モードになっています。
- 同じアプリケーションから2つ以上の測定が**履歴**メニューで利用可能になっています。
 - ▶ ナビゲーションパスで**履歴**メニューに移動します。
 - ▶ エクスポートしたい測定の1つに移動し、それをタップします。
 - ⇒ 画面に、その測定が緑色で強調されます。
 - ▶ 機能バーにある**[複数選択]**ボタンをタップします。
 - ⇒ サンプルビューに、選択したアプリケーションの測定のみが表示され、**[複数選択]**ボタンが緑色で強調されます。
 - ▶ **[すべて選択]**ボタンをタップします。
 - ⇒ アプリケーションのすべてのサンプルが緑色で強調されます。
 - ▶ 機能バーにある**[エクスポート]**機能をタップします。
 - ⇒ 画面に、**エクスポート**メニューが表示されます。
 - ▶ エクスポートしたいファイル形式を選択します。
 - ▶ **[エクスポート]**ボタンをタップします。
 - ⇒ 画面に、エクスポート成功を確認するダイアログボックスが表示されます。

作成したデータファイルへのアクセス

ナビゲーションパス

→  → [ツール]

このセクションで使用する機能バーの記号：

	[Windowsを表示]	表示がWindows® Surfaceに切り替わります。
---	--------------	------------------------------

- ▶ ナビゲーションパスで**[ツール]**メニューに移動します。
- ▶ **[Windowsを表示]**ボタンをタップします。
 - ⇒ 画面は組み込まれたコンピュータのデスクトップに切り替わります。
- ▶ デスクトップ上の**NirWiseData**フォルダを開きます。
- ▶ 下位フォルダの**エクスポート**フォルダに移動してから**データ**に移動します。
- ▶ アプリケーション名とエクスポート日時のタイムスタンプが付いたエクスポートファイルを見つけます。

6.14.2 アプリケーションデータのインポート

ナビゲーションパス



条件:

- ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章「管理者モードへのログイン」、50ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスにより、**[アプリケーション]**メニューに移動します。
- ▶ 機能バーにある**[インポート]**機能をタップします。
 - ⇒ フォルダを選択するためのダイアログが画面に表示されます。
- ▶ インポートするアプリケーションが保存されているフォルダに移動します。
- ▶ アプリケーションを選択します。
 - ⇒ インポートするアプリケーションのプロパティを含むダイアログが表示されます。全プロパティが緑色で強調されています。
- ▶ インポートしないプロパティをタップします。
 - ⇒ 無効にしたプロパティは白で強調されます。
- ▶ **[OK]**ボタンをタップします。
 - ⇒ ダイアログが閉じます。
 - ⇒ アプリケーションがインポートされます。

6.14.3 アプリケーションデータのエクスポート

このエクスポート機能により、（ライセンス保護のない）アプリケーションを別の装置で使用できるようになります。



備考

保存フォルダの場所は固定されています。10.2章「ファイルの説明とフォルダの場所」、109ページを参照。

ナビゲーションパス



条件:

- ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章「管理者モードへのログイン」、50ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスにより、**[アプリケーション]**メニューに移動します。
- ▶ エクスポートするアプリケーションをタップします。
 - ⇒ アプリケーションが緑色で強調表示されます。
- ▶ 機能バーの**[エクスポート]**機能をタップします。
 - ⇒ エクスポートするアプリケーションのプロパティを示すダイアログが表示されます。すべてのプロパティが緑色で強調表示されています。
- ▶ エクスポートしないプロパティをタップします。
 - ⇒ 無効化されたプロパティが白で強調表示されます。
- ▶ **[OK]**ボタンをタップします。
 - ⇒ ダイアログが閉じます。
 - ⇒ アプリケーションがエクスポートされます。

6.15 レポートの作成

レポートには以下の情報が含まれます：

- 会社情報
- 装置の説明
- 測定の要約（複数サンプルの場合）
- 測定の説明
- 測定結果
- サンプルのスペクトル

6.15.1 単一サンプルのレポート作成

ナビゲーションパス

→  → [履歴]

このセクションで使用する機能バーの記号：

	[レポート]	オンスクリーンレポートを生成します。
	[印刷]	プリンター上でレポートを印刷します。
	[PDFで保存]	レポートをPDFファイルとして保存します。
	[Excelで保存]	レポートをExcelファイルとして保存します。

条件:

- 1つ以上の測定が**履歴**メニューで利用可能になっています。
- プリンターが装置に設定されています。
- ▶ ナビゲーションパスで**履歴**メニューに移動します。
- ▶ エクスポートしたい測定の1つに移動し、それをタップします。
 - ⇒ 画面に、その測定が緑色で強調されます。
- ▶ 機能バーにある**[レポート]**機能をタップします。
 - ⇒ 画面に、PDFのレポートが表示されます。
- ▶ レポートを印刷するには、**[印刷]**ボタンをタップします。
 - ⇒ 画面に、印刷の進行状況を含んだダイアログが表示されます。
- ▶ PDFファイルとしてレポートをエクスポートするには、**[PDFで保存]**ボタンをタップします。
 - ⇒ 画面に、エクスポート成功を確認するダイアログボックスが表示されます。
- ▶ Excelファイルとしてレポートをエクスポートするには、**[Excelで保存]**ボタンをタップします。
 - ⇒ 画面に、エクスポート成功を確認するダイアログボックスが表示されます。

6.15.2 同じアプリケーションの複数サンプルのレポート作成

ナビゲーションパス

→  → [履歴]

このセクションで使用する機能バーの記号：

	[レポート]	オンスクリーンレポートを生成します。
	[複数選択]	測定の複数選択を有効にします。
	[印刷]	プリンター上でレポートを印刷します。
	[PDFで保存]	レポートをPDFファイルとして保存します。
	[Excelで保存]	レポートをExcelファイルとして保存します。

条件:

- ソフトウェアは、レポートを閲覧しエクスポートするための測定者モードになっていません。
- ソフトウェアは、レポートを印刷するための管理者モードになっています。
- 同じアプリケーションから 2 つ以上の測定が履歴メニューで利用可能になっています。
 - ▶ ナビゲーションパスで履歴メニューに移動します。
 - ▶ エクスポートしたい測定の1つに移動し、それをタップします。
 - ⇒ 画面に、その測定が緑色で強調されます。
 - ▶ 機能バーにある[複数選択]ボタンをタップします。
 - ⇒ サンプルビューに、選択したアプリケーションの測定のみが表示され、[複数選択]ボタンが緑色で強調されます。
 - ▶ エクスポートしたいその他すべてのサンプルをタップします。
 - ⇒ 選択したすべてのサンプルが緑色で強調されます。
 - ▶ 機能バーにある[レポート]機能をタップします。
 - ⇒ 画面に、PDFのレポートが表示されます。
 - ▶ レポートを印刷するには、[印刷]ボタンをタップします。
 - ⇒ 画面に、印刷の進行状況を含んだダイアログが表示されます。
 - ▶ PDFファイルとしてレポートをエクスポートするには、[PDFで保存]ボタンをタップします。
 - ⇒ 画面に、エクスポート成功を確認するダイアログボックスが表示されます。
 - ▶ Excelファイルとしてレポートをエクスポートするには、[Excelで保存]ボタンをタップします。
 - ⇒ 画面に、エクスポート成功を確認するダイアログボックスが表示されます。

6.15.3 同じアプリケーションのサンプルすべてのレポート作成

ナビゲーションパス

→  → [履歴]

このセクションで使用する機能バーの記号:

	[レポート]	オンスクリーンレポートを生成します。
	[複数選択]	測定の複数選択を有効にします。

	[すべて選択]	リスト内のすべての測定を選択します。 注意事項 複数選択が有効な場合のみ使用できます。
	[印刷]	プリンター上でレポートを印刷します。
	[PDFで保存]	レポートをPDFファイルとして保存します。
	[Excelで保存]	レポートをExcelファイルとして保存します。

条件:

- ソフトウェアは、レポートを閲覧しエクスポートするための測定者モードになっています。
- ソフトウェアは、レポートを印刷するための管理者モードになっています。
- 同じアプリケーションから 2 つ以上の測定が**履歴**メニューで利用可能になっています。
 - ▶ ナビゲーションパスで**履歴**メニューに移動します。
 - ▶ エクスポートしたい測定の1つに移動し、それをタップします。
 - ⇒ 画面に、その測定が緑色で強調されます。
 - ▶ 機能バーにある**[複数選択]**ボタンをタップします。
 - ⇒ サンプルビューに、選択したアプリケーションの測定のみが表示され、**[複数選択]**ボタンが緑色で強調されます。
 - ▶ **[すべて選択]**ボタンをタップします。
 - ⇒ 同じアプリケーションのすべてのサンプルが緑色で強調されます。
 - ▶ 機能バーにある**[レポート]**機能をタップします。
 - ⇒ 画面に、PDFのレポートが表示されます。
 - ▶ レポートを印刷するには、**[印刷]**ボタンをタップします。
 - ⇒ 画面に、印刷の進行状況を含んだダイアログが表示されます。
 - ▶ PDFファイルとしてレポートをエクスポートするには、**[PDFで保存]**ボタンをタップします。
 - ⇒ 画面に、エクスポート成功を確認するダイアログボックスが表示されます。
 - ▶ Excelファイルとしてレポートをエクスポートするには、**[Excelで保存]**ボタンをタップします。
 - ⇒ 画面に、エクスポート成功を確認するダイアログボックスが表示されます。

6.15.4 作成したデータファイルへのアクセス

ナビゲーションパス

→  → **[ツール]**

このセクションで使用する機能バーの記号:

	[Windowsを表示]	表示がWindows® Surfaceに切り替わります。
---	---------------------	------------------------------

- ▶ ナビゲーションパスで**[ツール]**メニューに移動します。
- ▶ **[Windowsを表示]**ボタンをタップします。
 - ⇒ 画面は組み込まれたコンピュータのデスクトップに切り替わります。
- ▶ デスクトップ上の**NirWiseData**フォルダを開きます。

- ▶ 下位フォルダの**エクスポート**フォルダに移動してから**データ**に移動します。
- ▶ アプリケーション名とエクスポート日時のタイムスタンプが付いたエクスポートファイルを見つけます。

7 クリーニングと保守作業



備考

- ▶ 本章に記載されている保守およびクリーニング作業のみを実施してください。
- ▶ 筐体を開ける保守やクリーニング作業は行わないでください。
- ▶ 適正な動作と製品保証を維持するため、ビュッヒの純正スペアパーツを使用してください。
- ▶ 本章に記載されている保守およびクリーニング作業を適切に実施すると、装置寿命を延ばすことができます。

7.1 定期保守作業



備考

特殊な洗浄プロセスが必要な場合は、BUCHIカスタマーサービスに連絡してください。

www.buchi.com/contact

コンポーネント	作業	頻度
サンプル容器	<ul style="list-style-type: none"> ▶ サンプル容器を水拭きします。 ▶ 汚れがひどい場合： <ul style="list-style-type: none"> ● 中性洗剤を使用します。 ● きれいな水ですすぎます。 ● 糸くずの出ない乾いた布で拭きます。 	毎日
下面照射ガラス	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ガラス面を水拭きします。 ▶ 汚れがひどい場合は、エタノールまたは中性洗剤を使用します。 	毎日
上面照射ガラス	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ガラス面を水拭きします。 ▶ 汚れがひどい場合は、エタノールまたは中性洗剤を使用します。 	毎日
測定オプション	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 測定エリアを水拭きします。 ▶ 汚れがひどい場合は、エタノールまたは中性洗剤を使用します。 	毎日
データ	▶ データのバックアップを実行します。7.6章「データのバックアップの実行」、102ページを参照。	毎週
ケーシング	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ケーシングを水拭きします。 ▶ 汚れがひどい場合は、エタノールまたは中性洗剤を使用します。 	毎週
冷却フィン	▶ 圧縮空気または掃除機を使用して、冷却フィンから埃と異物を除去します。	毎週
コントロールパネル	▶ ベースライン補正ベクトル試験を実行します。7.5.1章「ベースライン補正ベクトル試験の実行」、101ページを参照。	毎週
ディスプレイ	▶ ディスプレイを水拭きします。7.9章「ディスプレイの清掃」、104ページを参照。	毎週
サンプルキャリアスライダ	▶ サンプルキャリアスライダーに過剰な摩擦がないか確認します。	毎月
コントロールパネル	▶ 高度なシステム試験を実行します。7.5.3章「高度なシステム試験の実行」、102ページを参照。	毎月

コンポーネント	作業	頻度
乾燥剤カートリッジ	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 乾燥剤カートリッジの機能を点検します。7.3章「乾燥剤カートリッジの点検」、98ページ ▶ 必要な場合は、乾燥剤カートリッジを交換します。7.4章「乾燥剤カートリッジの交換」、100ページを参照。 	毎年
コントロールパネル	▶ 包括的なシステム試験を実行します。7.5.2章「包括的なシステム試験の実行」、102ページを参照。	毎年

7.2 ランプの交換

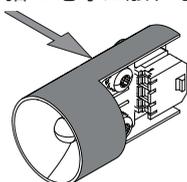


注意事項

破損したランプのリスク

電球または反射板に手で触れると、ランプが破損することがあります。

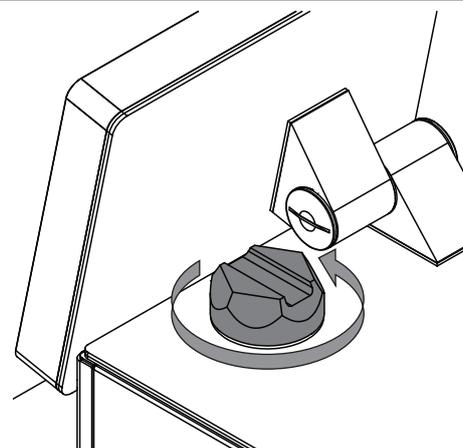
- ▶ 指で電球に触れないでください。



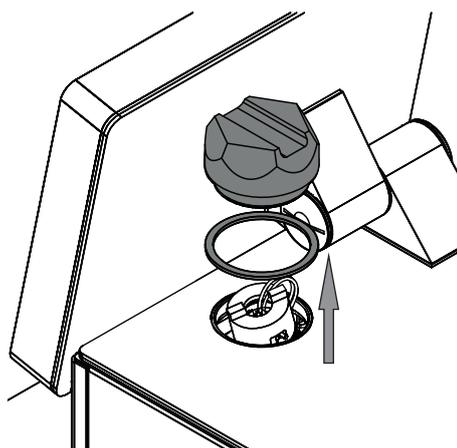
- ▶ 示されている部分でランプに触れてください。

7.2.1 上面照射ランプの交換

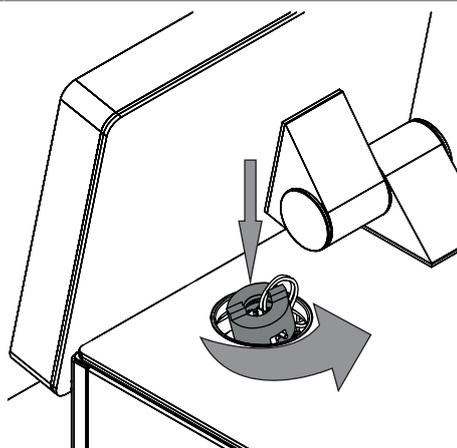
- ▶ 装置の電源を切ります。
- ▶ ランプが冷えるまで15分待ちます。
- ▶ 装置上部のカバー蓋を開きます。



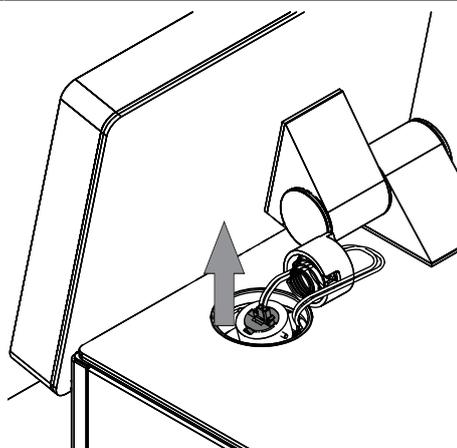
- ▶ シールとカバー蓋を取り外します。



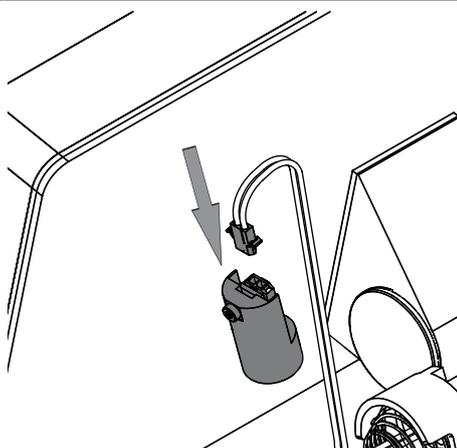
- ▶ フェールールを押します。
- ▶ フェールールを反時計回りに1/4回転します。



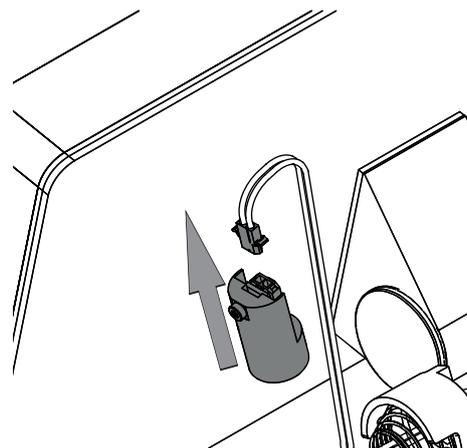
- ▶ 欠陥のあるランプをランプソケットから取り外します。



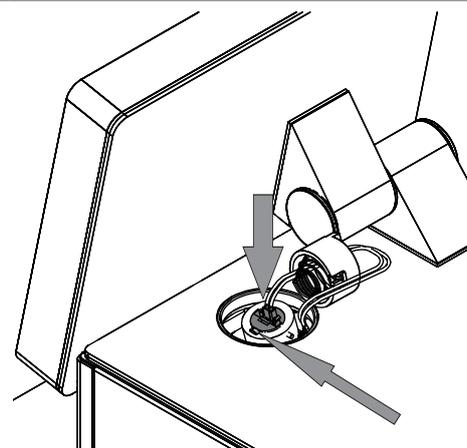
- ▶ 欠陥のあるランプを外します。



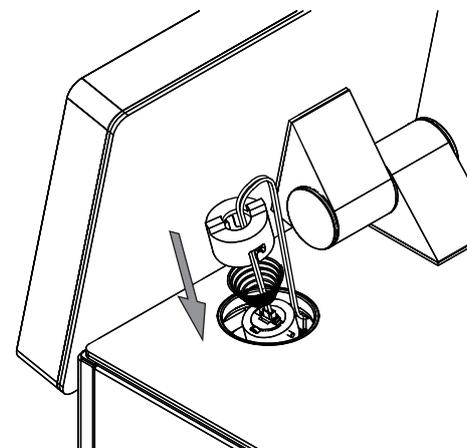
- ▶ 新しいランプを接続します。



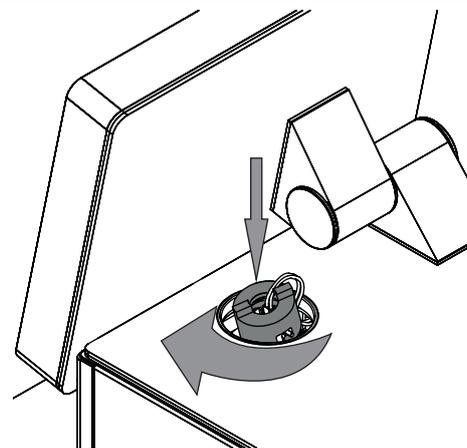
- ▶ 接続した新しいランプをランプソケットに差し込みます。
- ▶ 示されているねじがランプソケットの溝にあることを確認します。



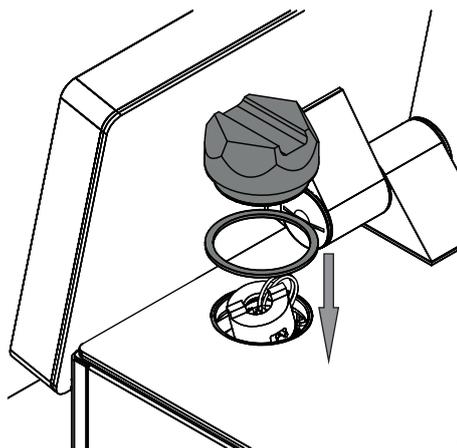
- ▶ フェールールとばねをランプソケットに押し込みます。



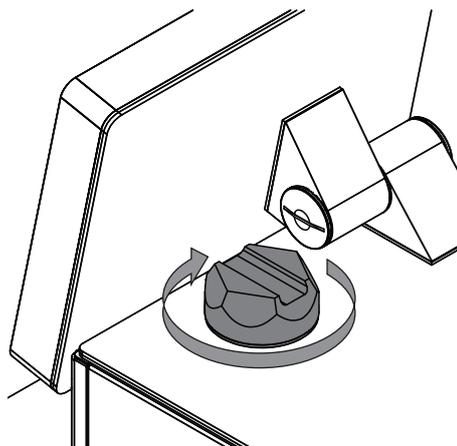
- ▶ フェールールを押します。
- ▶ フェールールを時計回りに1/4回転します。



- ▶ シールとカバー蓋を装置に置きます。



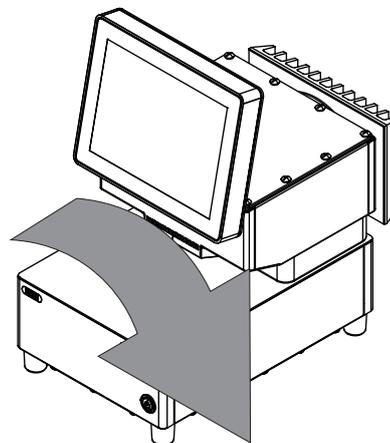
- ▶ カバー蓋を取り付けます。



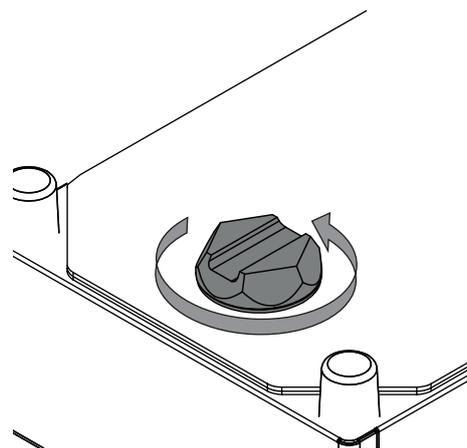
- ▶ 乾燥剤カートリッジを交換します。7.4章「乾燥剤カートリッジの交換」、100ページを参照。
- ▶ ランプ交換を確認します。7.2.3章「ランプ交換の確認」、97ページを参照。
- ▶ ベースライン補正ベクトル校正を実行します。ベースライン補正ベクトル (BCV) の校正を参照。

7.2.2 下面照射ランプの交換

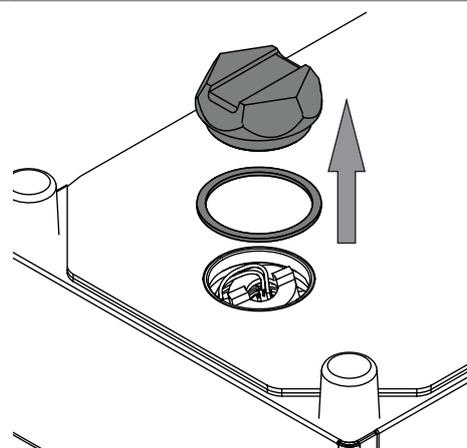
- ▶ 装置の電源を切ります。
- ▶ ランプが冷えるまで15分待ちます。
- ▶ 装置をひっくり返します。
- ▶ ランプ交換中に装置が転倒しないようにします。



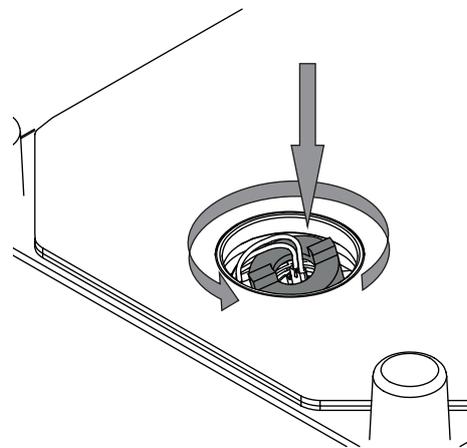
- ▶ 装置下部のカバー蓋を開きます。



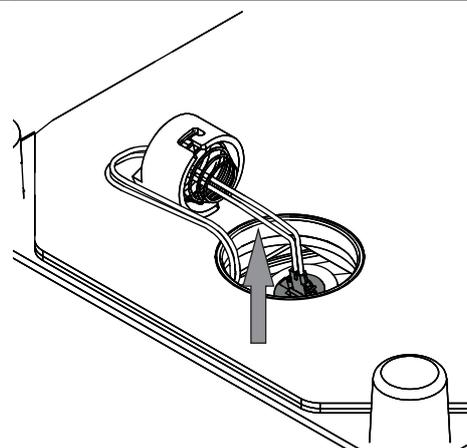
- ▶ シールとカバー蓋を取り外します。



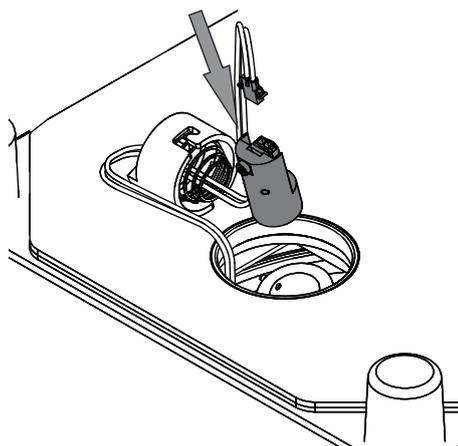
- ▶ フェールールを押します。
- ▶ フェールールを反時計回りに1/4回転します。



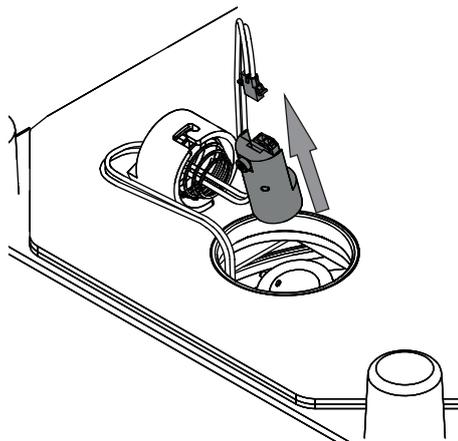
- ▶ 欠陥のあるランプをランプソケットから取り外します。



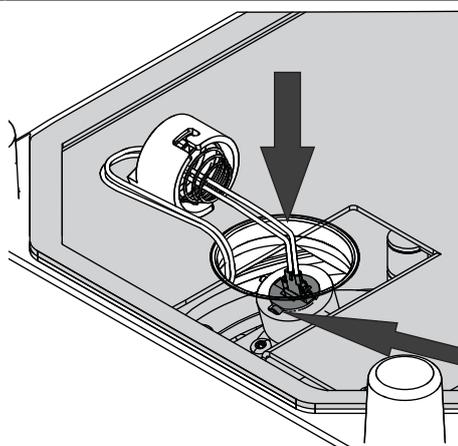
- ▶ 欠陥のあるランプを外します。



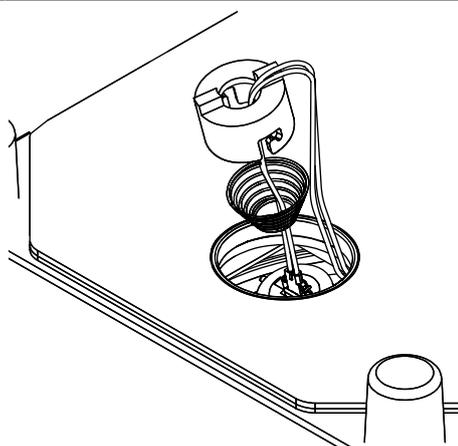
- ▶ 新しいランプを接続します。



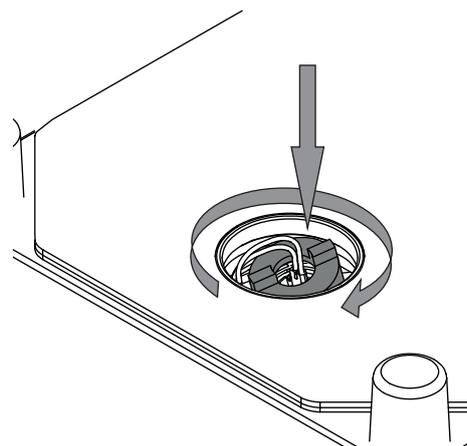
- ▶ 接続した新しいランプをランプソケットに差し込みます。
- ▶ 示されているねじがランプソケットの溝にあることを確認します。



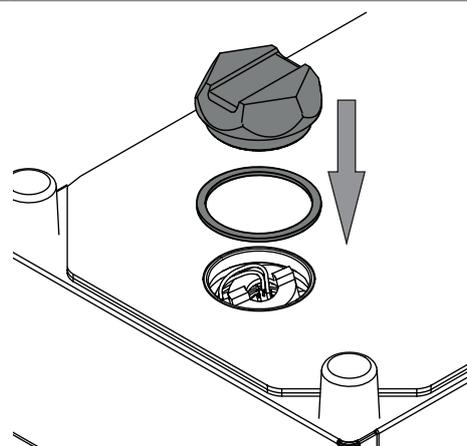
- ▶ フェールールとばねをランプソケットに押し込みます。



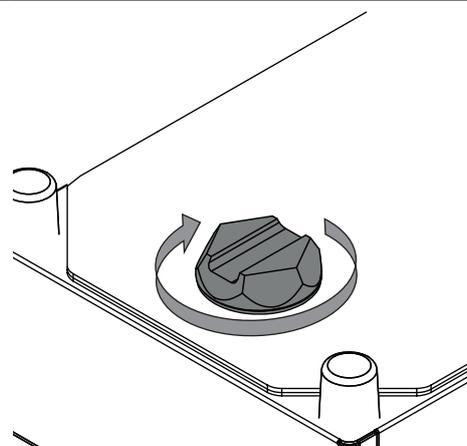
- ▶ フェルールを押します。
- ▶ フェルールを時計回りに1/4回転します。



- ▶ シールとカバー蓋を装置に置きます。



- ▶ カバー蓋を取り付けます。



- ▶ 乾燥剤カートリッジを交換します。7.4章「乾燥剤カートリッジの交換」、100ページを参照。
- ▶ ランプ交換を確認します。7.2.3章「ランプ交換の確認」、97ページを参照。
- ▶ ベースライン補正ベクトル校正を実行します。ベースライン補正ベクトル (BCV) の校正を参照。

7.2.3 ランプ交換の確認

ナビゲーションパス

→  → [ランプ交換の確認]

条件:

- ランプを交換済み
- ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章 「管理者モードへのログイン」、50 ページを参照してください。
- ▶ **On/Off** マスタースイッチをタップします。
 - ⇒ システムが起動します。
 - ⇒ ディスプレイのステータスバーが黄色で強調表示されます。
 - ⇒ 測定準備の完了後、ステータスバーが黒で強調表示されます。
- ▶ ナビゲーションパスで **[ランプ交換の確認]** アクションに移動します。
- ▶ 交換したランプ（下面照射ランプまたは上面照射ランプ）を選択します。
- ▶ 確認の質問に **OK** で答えます。

7.3 乾燥剤カートリッジの点検

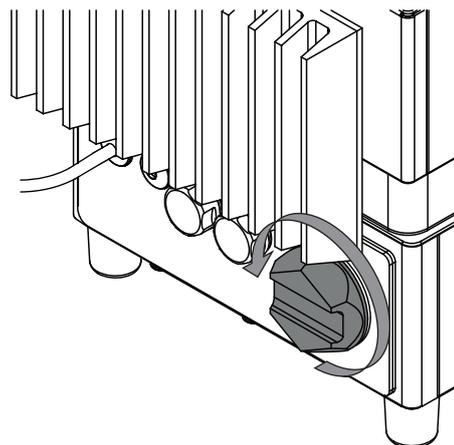


備考

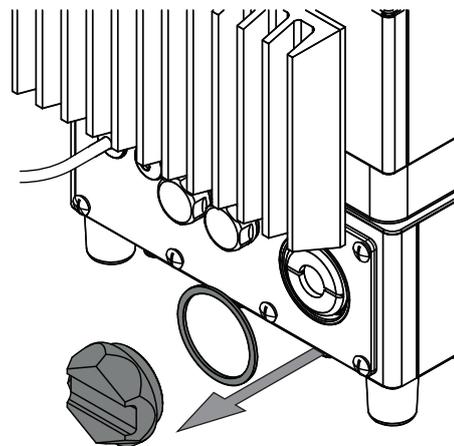
湿度が40%に達すると、乾燥剤カートリッジの色が変わります。

色	説明
ピンク	カートリッジの交換が必要
青	カートリッジはまだ使用可能

- ▶ 乾燥剤カートリッジのカバー蓋を開きます。



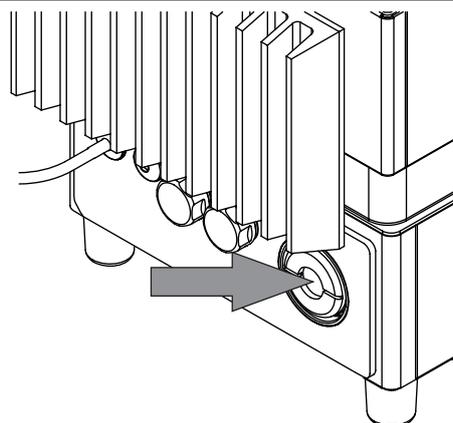
- ▶ カバー蓋とシールを取り外します。



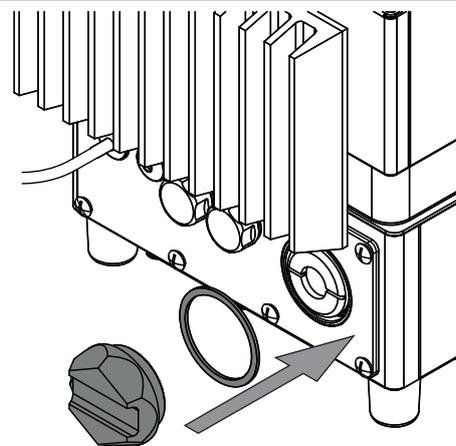
色

- ▶ 乾燥剤カートリッジの窓の色を確認します。
- ▶ 必要な場合は、乾燥剤カートリッジを交換します。7.4章「乾燥剤カートリッジの交換」、100ページを参照。

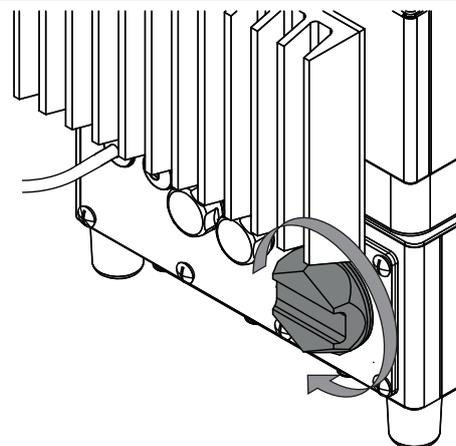
説明



- ▶ シールとカバー蓋を装置に付けます。

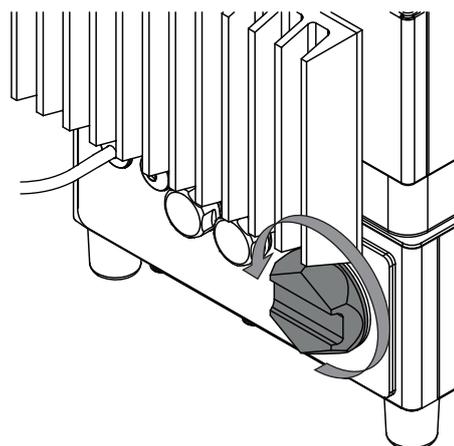


- ▶ カバー蓋を取り付けます。

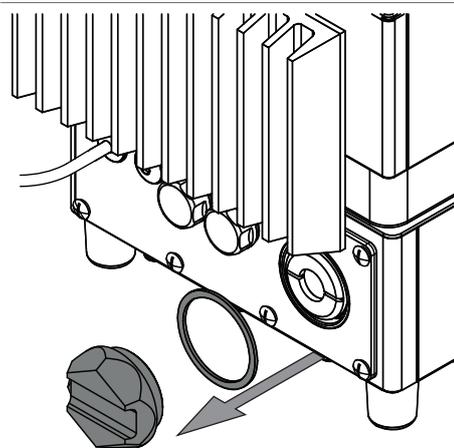


7.4 乾燥剤カートリッジの交換

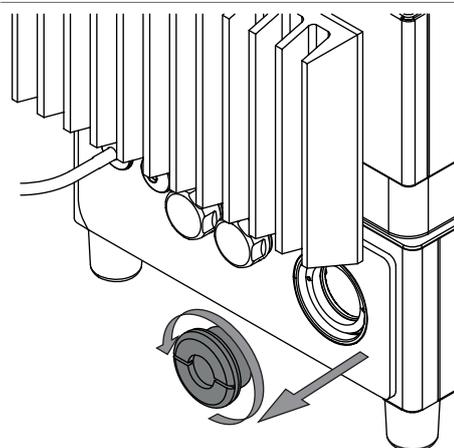
- ▶ 乾燥剤カートリッジのカバー蓋を開きます。



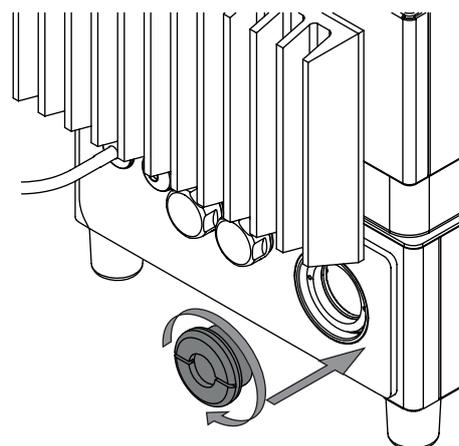
- ▶ カバー蓋とシールを取り外します。



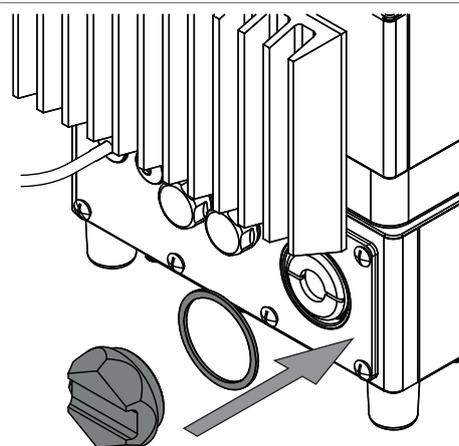
- ▶ 使用済みの乾燥剤カートリッジを取り外します。



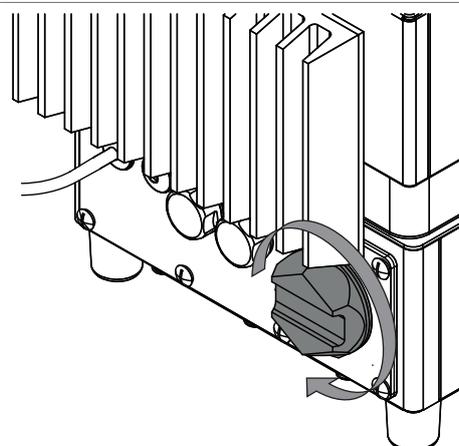
- ▶ 新しい乾燥剤カートリッジを装置に取り付けます。



- ▶ シールとカバー蓋を装置に付けます。



- ▶ カバー蓋を取り付けます。



7.5 システム試験の実行

7.5.1 ベースライン補正ベクトル試験の実行

ナビゲーションパス

→  → [BCVテスト]

条件:

- ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章「管理者モードへのログイン」、50ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスで[BCVテスト]アクションに移動します。
- ⇒ 画面に、**BCVテスト**ダイアログが表示されます。

- ▶ 試験する測定オプションの名前を選択します。
- ▶ **[開始]** ボタンをタップします。
- ▶ 試験中は画面の指示に従います。
- ▶ **[OK]** ボタンをタップして指示を確認します。
- ▶ テストが完了すると、ソフトウェアは結果をレポートに記録します。
 - ⇒ ディスプレイにベースライン補正試験が完了したことが表示されます。

7.5.2 包括的なシステム試験の実行

ナビゲーションパス

→  → **[拡張システム試験]**

条件:

- ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章 「管理者モードへのログイン」、50 ページを参照してください。
- すべての標準の外部リファレンスデータが読み込まれています。
- 装置テスト用標準キットが使用可能。
- ▶ ナビゲーションパスで **[拡張システム試験]** アクションに移動します。
 - ⇒ ディスプレイに **拡張システム試験** ダイアログが表示されます。
- ▶ チェックボックスを選択します。 **[包括的なシステム]**
- ▶ **[開始]** ボタンをタップします。
- ▶ 試験時にディスプレイに表示される指示に従います。
- ▶ **[OK]** ボタンをタップして、指示を確認します。
- ▶ 試験が完了すると、結果がレポートに記録されます。
 - ⇒ 包括的なシステム試験が完了したことがディスプレイに表示されます。

7.5.3 高度なシステム試験の実行

ナビゲーションパス

→  → **[拡張システム試験]**

条件:

- ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章 「管理者モードへのログイン」、50 ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスで **[拡張システム試験]** アクションに移動します。
 - ⇒ ディスプレイに **拡張システム試験** ダイアログが表示されます。
- ▶ チェックボックス **[高度なシステム試験を選択します。]**
- ▶ **[開始]** ボタンをタップします。
 - ⇒ 本機が試験を開始します。
- ▶ 試験が完了すると、結果がレポートに記録されます。
 - ⇒ 高度なシステム試験が完了したことがディスプレイに表示されます。

7.6 データのバックアップの実行



備考

保存フォルダーの場所は固定されています。10.2章 「ファイルの説明とフォルダの場所」、109ページを参照。

ナビゲーションパス

→  → [NIRWise データのバックアップ]

条件:

- ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章「管理者モードへのログイン」、50ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスで[NIRWise データのバックアップ]アクションに移動します。
 - ⇒ 保存可能な値を含むダイアログが表示されます。
- ▶ ニーズに合わせて値を選択します。
- ▶ [開始]ボタンをタップします。
 - ⇒ 選択したデータを含む .zip ファイルが作成されます。
- ▶ データを外部のデータストアに保存します。

7.7 データバックアップの復元

7.7.1 ツールメニューを使用

ナビゲーションパス

→  → [バックアップのリストア]

条件:

- ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章「管理者モードへのログイン」、50ページを参照してください。
- ▶ ナビゲーションパスで[バックアップのリストア]動作に移動します。
 - ⇒ コントロールパネルにダイアログボックスが表示されます。
- ▶ 復元プロセスを続行する場合は、[はい]ボタンをタップします。
 - ⇒ NIRWiseが閉じて、[バックアップのリストア]メニューが開きます。
- ▶ [ディレクトリを開く]ボタンをクリックしてバックアップファイルを選択します。
- ▶ 正しいバックアップファイルを選択します。
- ▶ [リストア]を押します。
- ▶ プロセスが完了するまで待ってから、NIRWiseを開きます。

7.7.2 ショートカットを使用

条件:

- NIRWiseアプリケーションが閉じています。
- ▶ コンピュータのデスクトップにある[バックアップのリストア]ショートカットに移動します。
- ▶ ダブルクリックして開きます。
 - ⇒ [バックアップのリストア]メニューが開きます。
- ▶ [ディレクトリを開く]ボタンをクリックしてバックアップファイルを選択します。
- ▶ 正しいバックアップファイルを選択します。
- ▶ [リストア]を押します。
- ▶ プロセスが完了するまで待ってから、NIRWiseを開きます。

7.8 データベースのクリーンアップ



備考

データベースのクリーンアップを使用する前に、現在のデータベースのバックアップを作成し、7.6章「データのバックアップの実行」、102ページを参照して安全な場所に保存します。



備考

参照値を含むサンプルは、この操作では削除されません。



備考

ディスクがいっぱいになると（使用されている場合、使用可能なディスク容量の90%に達すると）、機器の操作が制限されます。

- ▶ [ツールビュー]から[データベースのクリーンアップ]機能を使用して、古いデータをクリーンアップします。

使用可能なディスク領域の90%（45,000～48,999サンプル）、98%（49,000～49,899サンプル）、99.8%（49,900～49,999サンプル）が使用されると、NIRWiseは連続して警告を表示します。

データベースが50,000サンプルに達すると、次の警告が表示されます。ディスクが一杯です。システムの動作が遅くなる場合があります。

- ▶ [ツールビュー]から[データベースのクリーンアップ]機能を使用して、古いデータをクリーンアップします。

ナビゲーションパス

→  →[データベースのクリーンアップ]

条件:

- ソフトウェアは管理者モードになっています。6.5章「管理者モードへのログイン」、50ページを参照してください。

- ▶ ナビゲーションパスで[データベースのクリーンアップ]動作に移動します。
- ▶ 画面に、2つのオプションを含むダイアログボックスが表示されます。

7.8.1 パーセントで選択

- ▶ 削除するデータベースの量をパーセントで選択します。
- ▶ [削除]ボタンをタップします。

⇒ 選択した量のデータが、最も古いエントリから順番にデータベースから削除されます。

7.8.2 期間で選択

- ▶ [期間]タブを選択します。

⇒ 開始日と終了日を示すダイアログボックスが表示されます。開始日には、データベース内で最も古いエントリの日付が自動的に設定されます。

- ▶ ボタンをタップしてタイムスタンプを調整します。
- ▶ [削除]ボタンをタップします。

⇒ 選択した時間枠のデータがデータベースから削除されます。

7.9 ディスプレイの清掃

クリーニングモードでは、タッチスクリーンのタッチ機能がオフになります。

ナビゲーションパス

→  → [クリーニングモード]

- ▶ ナビゲーションパスで [クリーニングモード] アクションに移動します。
 - ⇒ ディスプレイのタッチ機能がロックされます。
 - ⇒ 数値入力ボックスを含んだダイアログボックスが表示されます。
- ▶ ディスプレイを水拭きします。
- ▶ 表示されたセキュアコードを入力します。
- ▶ [OK] ボタンをタップします。
 - ⇒ ダイアログが閉じます。
 - ⇒ ディスプレイのタッチ機能が解除されます。

8 故障かな？と思ったら

8.1 トラブルシューティング

問題	考えられる原因	作業
サンプルキャリアが滑らかに回転しません。	測定エリアが汚れています。	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 測定エリアを中性洗剤で拭きま す。 ▶ 測定エリアをきれいな水です ぎます。 ▶ 測定エリアを糸くずの出ない 布で拭き取ります。
不正確な結果	直射日光	▶ 直射日光が当たっていないことを確認します。
	サンプルカップがサンプルキャリア内の正しい位置にありません。	▶ サンプルカップがサンプルキャリア内の正しい位置にあることを確認します。
	サンプルカップが空です。	▶ 測定前にサンプルカップを満たします。
ディスプレイが黒い。	装置はスタンバイ状態です。	▶ ディスプレイをタップします。

8.2 エラーメッセージ

エラーコード	エラーメッセージ	解決方法
1000	未指定のエラー。	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 装置を再起動します。 ▶ BUCHIカスタマーサービスに連絡します。
1001	装置との通信を確立できません。構成されたシリアルポートは{0}です。	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 装置を再起動します。 ▶ BUCHIカスタマーサービスに連絡します。
1003	装置データを使用できないか、無効です。シリアル番号と装置オプションが設定されているかどうか確認します。	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 装置を再起動します。 ▶ BUCHIカスタマーサービスに連絡します。
1004	'{0}' 照射のダークリファレンス最大値 ({1} cnt) は期待値 ({2}..{3} cnt) の範囲外です。	▶ BUCHIカスタマーサービスに連絡します。
1005	ランプが故障しています	▶ ランプを交換してください。7.2章「ランプの交換」、91ページ「検査室基準データ用Excelテンプレートを用意する」を参照してください。
1006	内部リファレンス'{0}'は正しく移動していない可能性があります。	▶ BUCHIカスタマーサービスに連絡します。
1007	現在のシステム温度 ({0} °C) は、期待される範囲 ({1}..{2} °C) の範囲外です。	▶ 周辺温度が仕様を満たす場所に装置を移動してください。

エラーコード	エラーメッセージ	解決方法
1008	照射'{0}'についてのIWRレベルの調整が失敗しました (NirTargetSaturation = {1}、NirTargetExposureTime = {2} µs)。	▶ 光源ランプの動作を確認してください。 ▶ BUCHIカスタマーサービスに連絡します。
1009	ペルチェ温度 ({0} °C) は、期待される範囲 ({1}..{2} °C) の範囲外です。	▶ BUCHIカスタマーサービスに連絡します。
1010	デバイスが指定されたタイムアウト{0} ms以内にコマンド'{1}'に回答しませんでした。	▶ 装置を再起動します。 ▶ BUCHIカスタマーサービスに連絡します。
1011	内部ホワイトリファレンス信号が無効です。詳細については、ログファイルを参照してください。	▶ 装置を再起動します。 ▶ BUCHIカスタマーサービスに連絡します。
1500	レポート'{0}'の生成時に未知のエラーが発生しました：{1}	▶ 装置を再起動します。 ▶ レポートの作成を再試行してください。 ▶ BUCHIカスタマーサービスに連絡します。
1501	レポート'{0}'のエクスポート時に未知のエラーが発生しました：{1}	▶ 装置を再起動します。 ▶ レポートのエクスポートを再試行してください。 ▶ BUCHIカスタマーサービスに連絡します。
2500	NIRWiseデータのバックアップを作成できませんでした。エラー：'{0}'。	▶ 装置を再起動します。 ▶ データのバックアップを再試行してください。 ▶ BUCHIカスタマーサービスに連絡します。
2502	テストラン中に危機的エラーが発生しました。テストランはキャンセルされました。詳細については、ログファイルを参照してください。	▶ 装置を再起動します。 ▶ 検査を再試行してください。 ▶ BUCHIカスタマーサービスに連絡します。

9 使用中止と廃棄

9.1 使用中止

- ▶ 本機のスイッチを切り、コンセントから抜きます。
- ▶ 本機から電源ケーブルを取り外します。

9.2 廃棄

本機の適切な廃棄については、オペレーターがその責任を負います。

- ▶ 本機の廃棄にあたっては、廃棄物処理に関する地域の規制や法的要件を遵守してください。
- ▶ 廃棄時には、使用した材料の法的規制を遵守してください。使用された材料については、3.7章「仕様」、18ページを参照するか、部品に記載された材料ラベルをご覧ください。

9.3 装置の返却

装置の返却前に、BÜCHI Labortechnik AGカスタマーサービスまでご連絡ください。

<https://www.buchi.com/support/contact>

10 付録

10.1 測定結果

測定結果は、測定後に **開始** メニューに表示されます。

測定結果	説明
xx.x %	<ul style="list-style-type: none"> テストされたサンプルは仕様の範囲内です。
N/A	<ul style="list-style-type: none"> 検量線モデルがありません。
Outlier	<ul style="list-style-type: none"> マハラノビス異常値
! xx %	<ul style="list-style-type: none"> 予測値がキャリブレーションの範囲外です。
xx.x %	<ul style="list-style-type: none"> 予測値が設定された限界の範囲外です。
xx.x %	<ul style="list-style-type: none"> 予測値が許容値の範囲外です。

10.2 ファイルの説明とフォルダの場所



備考

非表示のフォルダ

デフォルト設定では、次のフォルダの場所は非表示になっています。

- ▶ ソフトウェア **[Windows エクスプローラ]**を起動します。
- ▶ 次のナビゲーションパスを使用して、フォルダオプションに移動します： [表示] → [フォルダオプション] → [表示]
- ▶ **[隠しファイル、隠しフォルダー、および隠しドライブを表示する]**機能を有効にします。

説明	種類	フォルダ
キャリブレーションファイル	.cal	C: \ProgramData\BUCHI\NIRWise\C alibrations
キャリブレーション用データファイル	.tsv	C: \ProgramData\BUCHI\NIRWise\C alibrations\Data
キャリブレーション用デバイス固有のデータファイル	.tsv	C: \ProgramData\BUCHI\NIRWise\C alibrations\Local
異なる内容のファイルを手動でエクスポートする	多種多様	C: \ProgramData\BUCHI\NIRWise\E xport\Data

説明	種類	フォルダ
LIMSシステムファイル	.xml .csv	C: \ProgramData\BUCHI\NIRWise\Export\LIMS
ライセンス申請ファイル	.xml	C: \ProgramData\BUCHI\NIRWise\Export\LicenseRequests
外部参照先	.brf	C: \ProgramData\BUCHI\NIRWise\References
測定レポート	.xls / .pdf	C: \ProgramData\BUCHI\NIRWise\Reports
システムテストレポート	.pdf	C: \ProgramData\BUCHI\NIRWise\Reports\SystemTests
測定レポートのテンプレート	.xls	C: \ProgramData\BUCHI\NIRWise\Templates
ライセンス	.xml	C: \ProgramData\BUCHI\LicenseManager\License
NIRWise Plusの履歴ファイル	多種多様	C: \ProgramData\BUCHI\NIRWise\Calibrations\Local\History
最新のキャリブレーション結果レポート	.rtf	C: \ProgramData\BUCHI\NIRWise\Calibrations
すべてのキャリブレーション用.tsvファイルおよび設定を含むNIRWise Plusプロジェクトファイル	.prj	C: \ProgramData\BUCHI\NIRWise\Calibrations

10.3 計算式入力ルール

変数の命名規則

- ASCII文字のみ
- 語間に下線を使用
- 名前の始めに数字を使用しない
- C#キーワードを使用しない
- 数学関数を使用しない

計算規則

		記号
演算子	加算	+
	減算	-
	乗算	*
	除算	/
数学関数	xの対数	Log(x)
	指定された底に対するxの対数	Log(x,base)
	底10のxの対数	Log10(x)
	Xの、指定された累乗	Pow(x,power)
	xの平方根	Sqrt(x)
	xのサイン	Sin(x)
	xのコサイン	Cos(x)
	倍精度浮動小数点数xの絶対値	Abs(x)
	倍精度浮動小数点値xを整数値に四捨五入	Round(x)
倍精度浮動小数点値xを指定された小数点以下の桁数に四捨五入	Round(x,decimal)	

10.4 スペアパーツとアクセサリ

装置の正常で安全な機能を保証するために、必ずビュッヒ純正の消耗品とスペアパーツを使用してください。

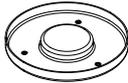
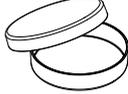
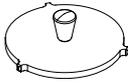


備考

スペアパーツまたはアセンブリーの変更は、事前にビュッヒから書面による承認を得た場合にのみ許可されます。

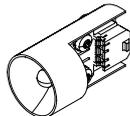
10.4.1 アクセサリ

	注文番号	イラスト
外部白色リファレンス	11067547	
上面照射用白色リファレンススペーサー	11067378	
下面照射用白色リファレンススペーサー	11067377	
白色リファレンス位置決めプレート	11067391	
PETラージサンプルトレー	11067692	

	注文番号	イラスト
FDA食品認可ラージサンプルトレー	11068015	
ガラス製ペトリ皿10個（下面照射） 透過反射カバーとの使用には適しません	11072073	
プラスチック製ペトリ皿240個（上面照射）	11066381	
ステンレス鋼製ペトリ皿 上面照射測定のみ	11074314	
大容量サンプルトレー	11067691	
小型サンプルカップ用キャリア（上面照射）	11065472	
高性能サンプルカップ	11067399	
耐衝撃カップ	11055058	
透過反射カバー0.3 mm 耐衝撃カップとの併用には適しません	041636	
透過反射カバー2.0 mm 粗パーム油の測定用。耐衝撃カップとの併用には適しません。	11067919	
耐衝撃カップ用透過反射カバー	11055998	
USB-WiFiスティック保護カバー	11066582	

	注文番号	イラスト
遮光シールド（上面照射）	11067281	
装置テスト用標準キット（7個）	11067545	
偏位修正テスト用標準キット	11070905	
NIRWise PLUSケモメトリクスソフトウェア式	11068025	
ネットワークケーブルセットRJ45 5m	11068780	

10.4.2 スペアパーツ

	注文番号	イラスト
スペアランプ	11065441	
高性能カップ用交換ガラス	046246	



11593985 | J ja

全世界で100社以上の販売代理店とパートナー契約を結んでいます。
次のリストから最寄りの代理店を検索してください。

www.buchi.com

Quality in your hands
